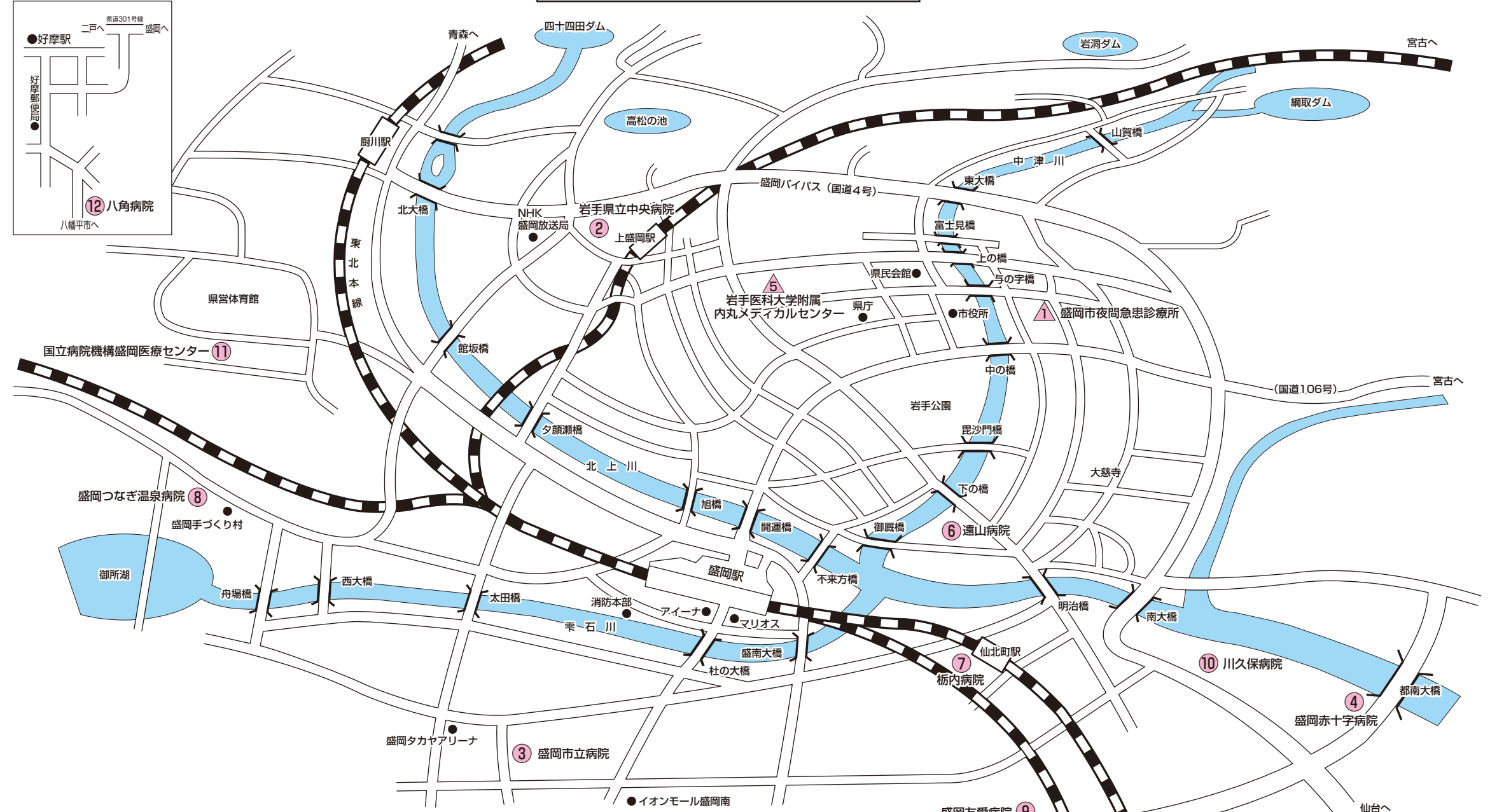


盛岡地区
救急医療体制
のあゆみ

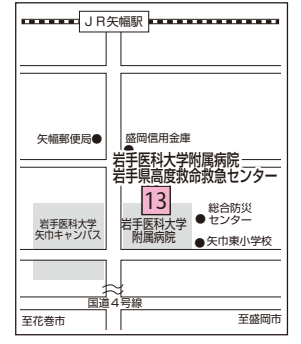
2024

盛 岡 市
盛 岡 市 医 師 会
盛岡地区二次救急医療対策委員会

盛岡地区救急医療施設配置図

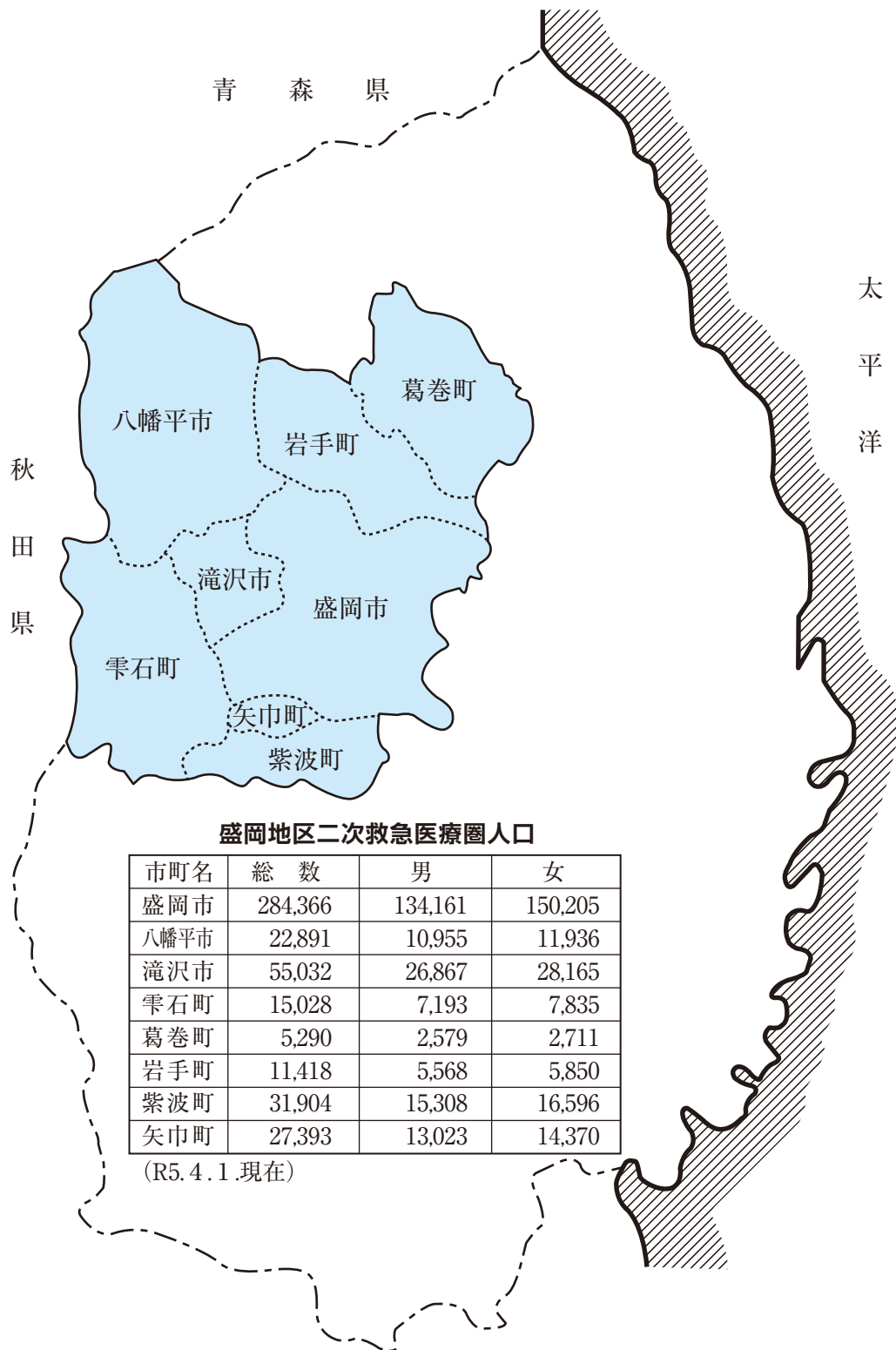


△1—盛岡市夜間急患診療所 神明町3-29 TEL 654-1080	⑧—盛岡つなぎ温泉病院 繫字尾入野64-9 TEL 689-2101
②—岩手県立中央病院 上田一丁目4-1 TEL 653-1151	⑨—盛岡友愛病院 永井12-10 TEL 638-2222
③—盛岡市立病院 本宮五丁目15-1 TEL 635-0101	⑩—川久保病院 津志田26-30-1 TEL 635-1305
④—盛岡赤十字病院 三本柳6-1-1 TEL 637-3111	⑪—国立病院機構盛岡医療センター 青山一丁目25-1 TEL 647-2195
△5—岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 内丸19-1 TEL 613-6111	⑫—八角病院 好摩字夏間木70-190 TEL 682-0201
⑥—遠山病院 下ノ橋町6-14 TEL 651-2111	⑬—岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター 矢巾町医大通二丁目1-1 TEL 613-7111
⑦—栃内病院 西仙北一丁目15-7 TEL 681-3575	



盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



盛岡地区二次救急医療圏人口

市町名	総数	男	女
盛岡市	284,366	134,161	150,205
八幡平市	22,891	10,955	11,936
滝沢市	55,032	26,867	28,165
雫石町	15,028	7,193	7,835
葛巻町	5,290	2,579	2,711
岩手町	11,418	5,568	5,850
紫波町	31,904	15,308	16,596
矢巾町	27,393	13,023	14,370

(R5.4.1.現在)

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2024年版

目次			
序	盛岡市医師会会長		
	盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長	吉田 耕太郎	6
挨拶	盛岡市保健所 所長	星 進 悦	7
	盛岡地区広域消防組合 消防長	瀬川 浩 樹	8
I	盛岡市夜間急患診療所 47年目のあゆみ		9
1.	実態報告		9
2.	経過報告・決算・予算		13
3.	診療所日誌から		14
4.	診療所の現状		19
①	出勤医名簿		19
②	役職員名簿		23
5.	運営協議会		24
	令和5年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会		24
	令和5年度第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会		26
II	岩手県高度救命救急センター報告		28
1.	疾病別患者数（令和5年）		29
2.	来院時間帯別入院患者数		30
3.	地域別入院患者数		30
4.	搬入先・搬入方法別入院患者数		31
5.	主な手術件数および内視鏡的治療件数		31
III	お盆及び年末年始の救急医療		32
1.	令和5年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告		32
2.	令和5年度年末年始外来患者実態調査報告		43
IV	盛岡地区二次救急医療体制 44年目のあゆみ		51
1.	実態報告		51
2.	経過報告		100
3.	盛岡地区二次救急医療対策委員会		102
4.	盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会		109
5.	二次救急医療体制検討委員会		110
6.	盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会		112

7. 第40回救急医療学術講演会	117
8. 令和5年度盛岡市総合防災訓練	120
9. 令和4年度盛岡地区二次救急医療打合せ会議（市町会議）R5.3.27 書面	124
令和5年度盛岡地区二次救急医療打合せ会議（市町会議）R5.12.6 書面	125
10. 岩手県小児救急電話相談事業（令和5年1月から令和5年12月までのまとめ）	126
V 救急医療年譜	132
VI 規程・協定書及び設置要項等資料	135
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	135
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	136
① 岩手県と岩手県医師会との協定書	137
② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	139
③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書	141
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	143
VII 編集後記	145



序 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」

盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長

吉 田 耕太郎

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2024」の発行にあたりご挨拶申し上げます。

盛岡地区救急医療体制は昭和 51 年に「夜間急患診療所」が開設され、54 年には「盛岡地区二次救急医療体制」の運用が開始されました。さらに昭和 55 年には「高次救急センター」の開設、平成 24 年からはドクターヘリの運行も開始され、救急医療体制が整備され運用されて来ました。その後令和元年に岩手医科大学附属病院が矢巾に移転した事で救急医療体制の維持が不安視されましたが、関係医療機関の皆様方のご尽力で堅持されています。また、2 年前から県立中央病院が救命救急センターに指定されて三次救急の更なる充実に貢献されています。この救急体制整備に頭初からご尽力を頂いた多くの方々と現在も運用にご協力いただいている全ての関係各位に心から感謝致します。

新型コロナウイルス感染症は昨年 5 月 8 日から 5 類に移行し、全件報告が定点報告となりました。その事もあり住民に感染状況が伝わり難くなり、感染に対する危機感が非常に希薄化している様に思われます。感染発症数は減少していましたが 7 月は全国的に増加し、クラスターも確認されていますので、医療機関では今後も post コロナでなく with コロナの認識で危機管理を維持して行かなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の蔓延でコロナ関連の救急搬送困難事例が全国的に問題になりました。盛岡圏域でも同様な問題が生じましたが、未だ解消しておりません。今回、新型コロナウイルス感染症に限らず救急患者受入先選定基準の見直し等が必要と判断し、脳卒中、心筋梗塞の受け入れ先病院、吐血、下血、軽度外傷などの受け入れ病院の把握、連携構築等を検討中です。

また、在宅や施設からの治療方針不明の高齢者の救急搬送が増加しており、DNAR (do not attempt resuscitation) 関連で救急現場が混乱するケースが問題になっています。早期から本人、家族との信頼関係のもとでの話し合いは非常に重要となりますので対応が必要と思われます。これには ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の啓発をおこない連携構築をしていかななくてはならないと感じています。

住民の命を守るための救急体制の堅持には医療機関、救急に関わる全ての方々のスキルアップ、情報共有、学術の場での顔の見える連携構築が最重要と考えます。今後その様な機会を多く設定していきたいと思っておりますのでご協力の程よろしくご協力致します。



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ — 2024 —」に寄せて

盛岡市保健所

所 長 星 進 悦

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ—2024—」の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。今年度より盛岡市保健所に転勤して来ました。前任地の両磐、釜石、気仙、胆江でも二次医療圏救急医療体制（メディカルコントロール協議会）に関わってきました。各医療圏とも救急医療体制は医師不足や医師の高齢化、さらには医師の働き方改革で弱体化しており、三次救急を担う県立大船渡病院でさえも例外ではありませんでした。県も苦肉の政策として、既存の周産期医療や精神科救急医療を参考にして、がん、脳卒中と心血管疾患で疾患別医療圏や事業別医療圏を設定することになり、県民のご理解を得ているところであります。

新型コロナウイルス感染症パンデミックを経験し飛沫感染・空気感染対策が強化された感があり、少子高齢化も進み、地域医療での病病・病診連携における各医療機関の役割が明確に求められるようになったことも実感しております。

盛岡医療圏は、医師数は充足しているが高齢化が進行していると聞いています。そのような中で、三次救急を担う岩手医科大学附属病院と県立中央病院におきましては十分に機能しており、他の医療圏から見れば住民の期待に十分応えられる救急医療体制を有していると感じるところであり、関係各位の御尽力の賜物と深く感謝申し上げます。救急医療の課題はどの医療圏でも同じで、一次救急を担う「かかりつけ医」（診療所）機能、二次救急における軽症患者、下り搬送、精神疾患対応など、と医療介護連携であると考えています。診療科別では、精神科救急医療の他、小児救急と周産期救急が主要な課題として残っています。盛岡市保健所としては、適正受診の啓発による二次救急における軽症患者の受け入れの減少、地域包括ケアシステムの構築に寄与することを目標に活動しています。その他、医師会や各病院の先生方との連携を深め、病病・病診連携推進を支援・調整する役割を担う覚悟であります。現に一次救急を担う盛岡市夜間急患診療所の機能強化と効率化を検討しています。今後も盛岡地区救急医療提供体制の継続・効率化のために盛岡市保健所として何ができるか検討しながら支援・調整をしていきたいと考えています。

結びに、盛岡地区の救急医療体制にご尽力いただいている盛岡市医師会の先生方をはじめ、関係各位のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉いたします。



「盛岡地区救急医療体制のあゆみ - 2024 -」に寄せて

盛岡地区広域消防組合

消防長 瀬川 浩 樹

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ-2024-」の発刊に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から当消防組合の救急業務の円滑な推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

盛岡地区の救急医療体制につきましては、盛岡市医師会、岩手西北医師会、紫波郡医師会及び関係医療機関のご尽力により、盛岡地域メディカルコントロール協議会、初期救急医療、二次救急医療及び三次救急医療の体制が確立されるとともに、二次救急病院及び小児救急病院の輪番体制が定着し、救急医療が円滑に行われておりますことに深く感謝を申し上げます。

さて、昨年度は、震度7を観測した令和6年能登半島地震のほか、台風や線状降水帯による集中豪雨など、全国各地で住民の命と生活を脅かす大きな災害が発生したところであり、当消防組合は「災害に強く、安心して暮らせる安全な地域づくり」の実現に向けて取り組んでいるところです。

また、新型コロナウイルス感染症につきましては、令和5年5月8日に感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、医療提供体制の移行期間は本年3月末をもって終了し、本年4月以降は、通常の医療体制となりました。

一方、全国的に高齢化の進展等により、救急需要は増加の一途をたどっており、当消防組合においても令和5年の救急出動件数は、前年に比べて1,223件増の20,405件となり、初めて2万件を超えるとともに、広域消防組合発足以来の最大の件数となり、救急活動時間の延伸を防ぐとともに、これに伴う救命率の低下を防ぐための対策が課題とされているところです。

このような状況を踏まえ、当消防組合は本年4月、盛岡中央消防署中野出張所に救急隊1隊を新たに配備したところであり、これにより、当消防本部管内の救急隊は19隊となり、救急搬送体制が益々充実強化されたところです。

今後におきましても、増加が見込まれる救急需要への対応はもとより、あらゆる感染症への臨機応変な対応、各種の災害対応、救急隊員の教育訓練の充実、救急救命士及び指導救命士の養成と円滑な運用、岩手県ドクターヘリとの連携による救急体制の強化など、関係機関のご理解とご協力をいただきながら救急業務の高度化を積極的に推進し、地域住民の信頼と負託に応えるよう一層努力して参る所存であります。

結びに、プレホスピタルケアの充実と社会的要請に応えるため、引き続き救急隊員に対し、より一層のご指導とご鞭撻を賜りますとともに、盛岡市医師会のますますのご発展と皆様方の更なるご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

I 盛岡市夜間急患診療所 47年目のあゆみ

1. 実態報告

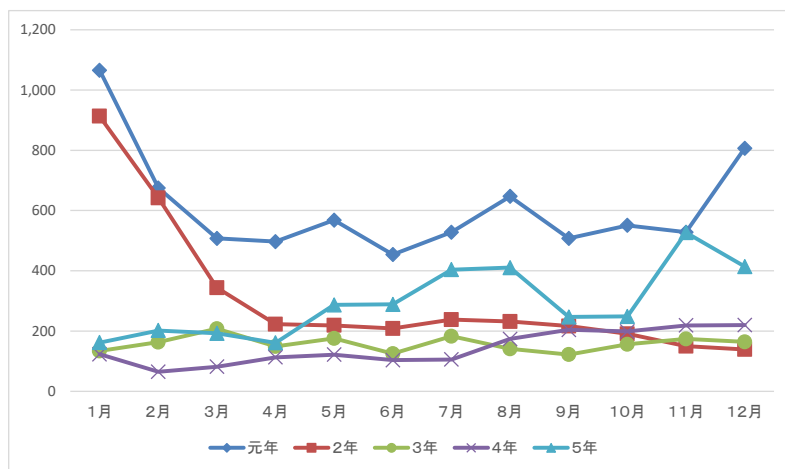
盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

吉田 耕太郎 ・ 金子 博 純 ・ 工 藤 卓 次
金 濱 誠 己 ・ 久保田 公 宜 ・ 小 林 有 一
高 橋 明 雄 ・ 齋 藤 明 宏

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※R 5.12.31 現在

図1 過去5年間の月別患者分布 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
元年	1,066	675	508	497	568	454	528	647	508	551	528	807	7,337	20.1
2年	913	642	344	223	219	209	238	232	217	191	150	139	3,717	10.2
3年	134	163	208	149	176	125	183	141	122	156	174	164	1,895	5.2
4年	123	65	82	113	122	104	106	174	204	199	219	220	1,731	4.7
5年	162	202	193	161	287	289	404	411	247	249	527	414	3,546	9.7



表(1) 患者総数及び科別実績 (人)

区分	月												合計	比率 (%)	前年実績	増減	
	5年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月					12月
患者総数	162	202	193	161	287	289	404	411	247	249	527	414	3,546	100.0	1,731	1,815	
一日患者数	(5.2)	(7.2)	(6.2)	(5.4)	(9.3)	(9.6)	(13.0)	(13.3)	(8.2)	(8.0)	(17.6)	(13.4)	(9.7)	(4.7)	(5.0)		
科別	内科	98	51	75	60	115	110	140	209	96	90	217	216	1,477	41.7	718	759
		(3.2)	(1.8)	(2.4)	(2.0)	(3.7)	(3.7)	(4.5)	(6.7)	(3.2)	(2.9)	(7.2)	(7.0)	(4.0)	(2.0)	(2.1)	
小児科	64	151	118	101	172	179	264	202	151	159	310	198	2,069	58.3	1,013	1,056	
	(2.1)	(5.4)	(3.8)	(3.4)	(5.5)	(6.0)	(8.5)	(6.5)	(5.0)	(5.1)	(10.3)	(6.4)	(5.7)	(2.8)	(2.9)		

- ・患者総数は3,546人で前年より1,815人の増。
- ・一日の患者数は平均9.7人。年間を通じては11月が最も多かった。
- ・内科と小児科との利用割合は、内科41.7%、小児科58.3%。患者の約6割が小児科で占められている。

表(2) 年齢別患者分布

(人)

年齢	月	5年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
年齢別	0	7	7	4	14	21	17	132	35	16	10	18	16	197	5.6	162	35
	1～5	29	46	47	55	84	116	135	91	70	71	111	87	942	26.6	523	419
	6～12	20	80	58	27	50	35	82	74	54	59	143	72	754	21.3	282	472
	13～15	8	19	9	7	20	15	18	12	14	22	43	25	212	6.0	62	150
	16～24	30	7	17	10	35	34	38	38	22	26	78	61	396	11.2	130	266
	25～34	22	12	19	13	18	24	32	38	19	18	36	47	298	8.4	145	153
	35～44	13	16	16	12	11	10	24	34	10	13	47	35	241	6.8	109	132
	45～54	17	11	12	6	14	18	16	30	11	10	28	33	206	5.8	134	72
	55～64	6	1	5	9	8	9	13	22	8	7	13	22	123	3.5	76	47
	65～74	5	1	3	6	10	5	6	20	12	7	5	9	89	2.5	53	36
75～	5	2	3	2	16	6	8	17	11	6	5	7	88	2.5	55	33	
計														3,546	100.0	1,731	1,815

・年齢別では、1～5歳児が最も多く、全体の26.6%を占めている。

表(3) 地域別患者分布

(人)

地域	月	5年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
地域別	盛岡市	128	160	165	116	230	221	310	309	179	201	424	329	2,772	78.2	1,355	1,417
	雫石町	1	2	4	2	5	3	4	3	4	4	5	1	38	1.1	17	21
	葛巻町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	△1
	岩手町	0	0	0	1	1	1	3	5	1	2	0	2	16	0.5	9	7
	八幡平市	0	0	3	2	5	1	8	3	2	3	3	1	31	0.9	13	18
	滝沢市	17	25	10	23	18	27	41	32	27	17	41	34	312	8.8	175	137
	紫波町	5	3	3	4	9	12	13	15	13	6	18	9	110	3.1	55	55
	矢巾町	4	9	7	5	9	9	11	9	12	11	26	16	128	3.6	54	74
	その他の県内	4	0	0	2	3	8	9	9	4	2	6	8	55	1.6	18	37
	県外	3	3	1	6	7	7	5	26	5	3	4	14	84	2.4	34	50
計														3,546	100.0	1,731	1,815

・地域別で1番多いのは盛岡市の2,772人(全体比78.2%)。前年より1,417人増。

・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の312人(同8.8%)、3番目が矢巾町の128人(同3.6%)。

表(4) 曜日別患者分布

(人)

曜日		5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
曜 日 別	月	26	24	19	16	30	27	49	75	34	48	44	32	423	11.9	240	183
	火	19	22	27	11	45	32	44	74	17	36	46	39	418	11.8	180	238
	水	22	15	31	11	43	31	40	47	24	30	65	47	412	11.6	243	169
	木	17	32	21	15	42	35	47	57	34	21	76	29	426	12.0	193	233
	金	16	26	21	13	36	38	29	35	32	21	82	74	425	12.0	189	236
	土	37	40	38	27	56	62	115	65	66	45	134	115	818	23.1	394	424
	日	25	43	36	20	35	64	80	58	40	48	80	78	624	17.6	292	332
計														3,546	100.0	1,731	1,815

・曜日別では、土・日曜が多くなっており、合わせて40.7%を占めている。

表(5) 時間帯別患者分布

(人)

時間帯		5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後7:00~	79	88	73	51	105	97	174	178	119	115	236	199	1,514	42.7	622	892
	午後8:00~	42	64	67	47	79	87	104	109	52	53	149	116	969	27.3	553	416
	午後9:00~	25	33	37	41	73	63	84	78	44	57	97	65	697	19.7	343	354
	午後10:00~	15	17	16	22	30	40	42	43	30	22	44	34	355	10.0	206	149
	午後11:00~	1	0	0	0	0	2	0	3	2	2	1	0	11	0.3	7	4
計														3,546	100.0	1,731	1,815

・時間帯別では、午後7:00~8:00までが多く、42.7%を占めている。

表(6) 時間帯別有救急度患者分布

(人)

時間帯		5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後7:00~	21	4	13	5	15	17	29	25	20	20	38	43	250	43.7	108	142
	午後8:00~	15	5	10	5	9	16	14	20	11	4	29	21	159	27.8	88	71
	午後9:00~	4	6	6	3	8	8	10	12	9	12	12	10	100	17.5	53	47
	午後10:00~	4	2	4	6	7	5	7	4	7	5	5	5	61	10.7	33	28
	午後11:00~	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0.3	5	△3
計														572	100.0	287	285

・有救急度患者は患者全体の16.1%を占め、時間帯別では、午後7:00~8:00までが多く、43.7%を占めている。

表(7) その他事項別人数

(人)

事項	月	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
電 話 問 合	医師指導	1	3	0	20	19	24	38	7	9	7	4	7	139	3.2	77	62
	看護師等助言	476	560	427	341	321	277	314	348	255	258	261	299	4,137	95.2	4,930	△793
救急車搬入		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
二次救急転送		1	3	3	3	10	9	5	7	8	10	8	3	70	1.6	39	31
計														4,346	100.0	5,046	△700

・電話問合に対する看護師等の助言件数は4,137件で前年より793件減少した。

表（８） 転送先二次・三次救急病院別診療科別患者分布（令和５年１月～令和５年１２月）

救急病院	診療科	内科	小児科	外科	耳鼻科	泌尿器科	眼科	産婦人科	歯科	計
岩手県高度救命救急センター										0
岩手県立中央病院		14	17							31
盛岡市立病院										0
盛岡赤十字病院		1	9							10
岩手医科大学附属病院		5	2							7
遠山病院										0
栃内病院										0
高松病院										0
盛岡つなぎ温泉病院										0
友愛病院										0
川久保病院										0
盛岡医療センター			20							20
盛岡療育センター										0
計		20	48	0	0	0	0	0	0	68
比率（％）		29.4	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

- ・内科が29.4%、小児科が70.6%を占めている。
- ・岩手県立中央病院が最も多く、転送件数の約半数45.6%を占めている。

表（９） 転送患者疾患別分類（令和５年１月～令和５年１２月）

疾患名	人	疾患名	人
胃・腸炎（急性・感冒性他）	5	気管支炎（急性・喘息様他）	27
虫垂炎	6	気管支喘息	10
急性腹症	4	上気道炎（急性他）	2
腸重積	1	肺炎	8
腹痛	0	その他呼吸器系	2
便秘	0	インフルエンザ	0
イレウス	3	心臓疾患等循環器系	2
その他消化器系	1	脳血管障害等循環器系	1
脱水症	2	尿管結石等泌尿器系	2
嘔吐	1	その他	10
じんま疹・アナフィラキシー	1	計	68

- ・消化器系が33.8%、呼吸器系が42.6%を占めている。

2. 経過報告・決算・予算

経過報告

令和5年 4月13日
令和5年 10月19日

第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

予算・決算

歳入

(円)

科目	4年度決算	5年度予算	説明
使用料	32,681,260	56,117,000	診療報酬収入
県補助金	10,061,704	0	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金
雑入	0	1,000	事務手数料等
合計	42,742,964	56,118,000	

歳出

(円)

科目	4年度決算	5年度予算	説明
報酬	17,950,857	17,040,000	管理者、看護師報酬
共済費	1,985,829	2,284,000	社会保険料
報償金	172,800	192,000	運営協議会委員謝金
旅費	344,697	281,000	研修会参加旅費、看護師通勤手当
需用費	4,215,953	4,382,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	463,336	468,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	53,595,982	53,485,000	医療事務委託料、診療業務委託料等
使用料及び賃借料	2,339,585	2,892,000	医事会計システム借上料等
備品購入費	0	0	機械器具購入費
合計	81,069,039	81,024,000	

3. 診療日誌から

内 科

令和5年1月4日(水) K.K

多分今夜が私の夜間急患の最終日になると
思われます。父の代役で来はじめて40年位
でしょうか。ついに念願の患者ゼロの日は経
験せずに終わります。昔は患者の合間にタバ
コ吸っていましたが、今更ながら年月を感
じます。お世話になりました。後続の先生方
あとはよろしく!

令和5年1月15日(日) H.T

ここ2回0名です。

令和5年1月25日(水) Y.N

1. 19才 発熱外来 38℃(頭痛 前日昼
39℃)

インフル(-) コロナ(-)

今月2回目ですがだいぶ楽になりました。

令和5年3月10日(金) N.C

1. 58F 急性じんま疹

No pt a/pyrexia

WBC 日韓戦の影響か?

令和5年3月11日(土) M.I

3.11 12周年。亡くなられた方の13回忌
私の従兄弟も2名亡くなりました。

春の星 こんなに人が死んだのか

照井 翠『龍宮』より

令和5年3月17日(金) S.T

25才 男性 covid(-) インフル(-)

39才 女性 腹痛→中央病院紹介したが
拒否

令和5年3月28日(火) H.T

過去2回は0名が続いていましたが久しぶ
りにと言うか初めて1階のプレハブ診療室で
診察しました。

令和5年5月17日(水) N.K

16♀ 頸部腫痛(血腫疑い)

→県立中央へ問い合わせたが「専門医がい
ませんがそれでもいいか」との返事、岩
手医大へ紹介した。

♂発熱 検査せず、コロナル処方

令和5年5月26日(金) J.K

小児科は5人

内科は0でした。

令和5年7月6日(木) K.K

本日4名

受診者は明らかに増えている。

令和5年8月13日(月) K.I

思っている以上に新型コロナ抗原検査陽性が
多かった。

令和5年8月14日(月) S.S

20-86歳まで発熱患者多数

COVID-19(+) 2~3人

60代♀じんま疹

16~70代まで発熱者多数

COVID-19(+) 1人

20代♂発熱→COVID-19(+)

total 17人

令和5年8月26日(土) M.I

コロナ非常に増えていますね。

当院では駐車場も特別の診察室もないので風除室の一角で診察・検査を行っています。ギリギリの努力ですが、漢方が非常に役立っています。

令和5年9月10日(日) T.S

COVID-19 (+) 3名

これだけ毎日発熱者に対応していると自分もいつか感染するのではないかと不安があります。今日のような休日の当番の時に発熱しCOVID-19 (+) だったらどうすればよいのでしょうか。自分でだれか先生を探してお願いするしかないのですか。ルールがあれば教えて下さい。

[回答]

基本的には、先生ご自身が出勤できなくなった場合、可能な限り先生ご自身で交代の先生をみつけていただきたいです。平日においては、交代の連絡を医師会事務局宛にお願いいたします。また、交代の先生が見つからない場合は、医師会事務局にご相談ください。休日につきましては、盛岡市の代表番号(019-651-4111)にかけていただくと、当直経由で夜間急患診療所の担当に連絡することが可能ですので、交代の旨、早急にお伝えください。

また、交代の先生が見つからない場合も、早急に盛岡市の代表番号あてに御連絡ください。夜間急患診療所担当から医師会事務局に確認いたします。

企画総務課

令和5年10月3日(火) K.K

保健所が夜間診療所運営協議会に提出予定の冬期同時流行期の配置図の確認をしている

時だった。廊下を見ていたら向こう側のスライドドアが何もしていないのに閉じていった。それを一緒にみていたNrs.は驚き私の腕をつかむ始末。当然、私も恐ろしくなったが、何と扉の向こう側から警備員がでてきたではないか。何の事はない、警備員が扉を開けて部屋に入った時、自動的に閉まるのを見ていただけ。皆で大笑いをした。

令和5年11月16日(木) N.M

発熱者多数受診、ほぼインフルエンザAですが、コロナも1人出ています。

令和5年11月25日(土) T.S

本日は18名でした。

(全員発熱、風邪症状)

令和5年12月28日(木) Y.S

5名来院、キット不足しているとのこと。

小児科

令和5年1月1日(日) Y.K

あけましておめでとうございます。

明日は休日当番医です。コロナ対応、インフル対応で忙しくなりそうですが、とりあえず雪は降らなそうですので、その点は一安心です。

今年もよろしく願いいたします。

発熱外来 4名(インフル、コロナ陰性)

プレハブで今は12℃程度、M先生の防寒着は使用しませんでした、それほど寒くはなかったです。ただ、手指は冷えるので、今回設置してもらった電気ストーブは助かりました。

一般外来 2名

令和5年1月3日(火) Y.S

・発熱外来 3人 → 3人ともコロナ(+)

・一般 3人

4才男児—ネフローゼ症候群疑い(眼瞼浮腫、体重増加、蛋白尿3+)

明日かかりつけ医より中央病院紹介予定

・腹痛 2人 —どちらも浣腸で軽快 ↓

1/4本日受診され、入院加療の方針としました。ありがとうございました。K

令和5年1月11日(水) T.T

コロナ第8波の高止まり、死者の増加が続いています。まだまだ続くと思われれます。高齢者の死亡例が多数を占める一方、若年者では軽症例が多いようです。

本日は、小児受診者 0名

内科 5名

令和5年2月8日(水) T.T

コロナ感染は減少傾向。インフルエンザは増加、ノロウイルス感染もあり。発熱で受診すると21時以降はどうなるのかな？

本日小児科1名(11ヶ月男児)

コロナ陽性

令和5年2月11日(木) Y.K

一般 0名

発熱外来 10名

インフル・コロナ検査を9名実施し

インフルエンザA 9名いた

コロナは全て陰性

本日、自宅でインフルエンザ抗原検査を実施し、インフルエンザA陽性の児が1名いました。母が医療関係者の方で、自宅にキットがあったそうです。検査なしでインフルエンザAと診断し内服を処方しようとしたのですが、夜間急患診療所ではそのような扱いはできないとのことでしたので、検査を実施し、陽性を確認して内服を処方しました。

コロナもみなし陽性とはしない扱いのことですが法定伝染病2類相当のコロナの場合は理解できますが、インフルエンザについてはもう少し担当医の自由度があっても良いかと思いましたが(臨床的にインフルと診断するとか)。

令和5年3月8日(水) T.T

コロナ感染は減少傾向だが、替わってインフルエンザA流行とまらない。脳症や合併症での死亡の話も聞かえている。いずれにしても感染症は怖い。

小児科 6名

内 インフルエンザ2名、発熱2名あり

内科 6名 (コロナ1名)

令和5年4月5日(水) N.T

岩手県のコロナも100名越えが続いています。再び増加しなければよいが！ 2週間以上も早く桜が咲き始めました。春は来たが、インフルエンザもまだ発症例あり。

小児科3名(発熱外来2名 1名インフルエンザA)

内科 3名

令和5年4月13日(木) T.M

患者3名

発熱外来 なし

頻回の嘔吐 2人

全身性じんま疹1名

本日、委嘱状をいただいた。交付者は盛岡市医師会吉田耕太郎会長になっていたが、前から交付者は盛岡市医師会長でしたでしょうか？ 市長 or 保健所長ではなかったでしょうか？

[回答]

令和2年度から、診療業務委託先である医師会の代表である医師会長名で交付しております。それ以前は、盛岡市長名で交付していました。 企画総務課

令和5年5月10日(水) T.T

コロナが5類となったがまだまだ感染者は続いているようです。昨日も輪番で北海道からの修学旅行の中学生が受診、コロナ陽性がありました。油断は出来ません。

小児科 4名(帯状疱疹、じんま疹、頭痛など)

内科 5名

令和5年6月13日(火) H.S

4人

発熱2人

腹痛1人

じんま疹1人でした。

Xpのデバイス調子悪くエラーとなりました。メンテナンスをお願い致します。

[回答]

6/14に業者によるメンテナンスを行いました。撮影室のモニターのバックアップバッテリーの寿命により、日時が初期設定時の2008年12月8日に戻る状態になります。その影響で2008年12月8日以降の生年月日の受診者は、撮影室のモニターでは撮影できません。今後の代替措置として、診療室PCから撮影する操作をしてからの撮影を行っていただくようお願いいたします。

企画総務課

令和5年7月12日(水) T.T

原因不明のウイルス感染症と肺炎の合併症が多く見られ入院が増加しています。RSVも多数認められるようです。中にコロナが混じる状況。

小児科 9名

発熱の患児多し。

内科 4名

急性腹症の疑いの14才男児

医大小児科に紹介

S先生多謝

令和5年8月9日(水) T.T

再びコロナ増加あり。検査もしないまま拡大しているのだろう。本日は発熱の患者多数(いつもより)、コロナ陽性はなかった。

小児 7名 発熱5名

内科 4名

3才女児肺炎の疑いあり医療センターS先生

に紹介。(多謝)

令和5年8月17日(木) K.T

9名受診

発熱患者のみでした。

そのほとんどは家族がコロナ陽性でした。

本日夕方からの発熱でしたので検査はしていません。明日市販の検査キットを利用するように説明。1名発熱6日間続いたため中央病院へ紹介しました。

令和5年10月4日(水) T.T

急に秋めいて来ましたが、最近ヒトメタニューモウイルス感染症の児が入院しています。x-p 上肺炎像が強く、白血球増加CRPが陽性となり、混合感染の様です。コロナはかなり減少しています。

小児科 3名

内科 2名

令和5年11月26日(日) Y.K

小児科 15名

インフル・コロナ検査1名→ともに陰性でした。

インフルみなし陽性 2名

インフルA自己検査陽性 1名

検査キット不足しており、残り少ないとのことでしたので、明日かかりつけでの検査をおすすめいたしました。

コルドリン処方しようとしたら無くなってしまったためレスプレン処方としました。

検査キットも足りない、クスリも足りない、大変ですね。

令和5年11月30日(木) Y.M

急患9名 (FluA 2名)

(発熱6名、一般3名)

・今晚は盛岡市小児科医会の忘年会であった。

参加できず残念。

・現状での発熱患者の割合を見ると通常の診察室をPPE対応にして特診室で一般患者を診た方が効率的であると思う。

[回答]

令和5年度第2回夜間急患診療所運営協議会にて、冬季期間の感染症に対応した診療体制について検討した結果、院内感染のため、発熱患者の導線を重視し、診療スペースは、現行の特診室のみとし、複数の患者に対応する必要があることから、検査結果及び会計待ちの患者は、1階にて待機する体制に決定いたしました。

ご理解ご協力の程、よろしく願いいたします。
企画総務課

令和5年12月8日(金) Y.K

小児科 10名

インフル・コロナ検査 3名

そのうち 1名インフルA

じんま疹 2名

ミニリンメルトにセレスタミンが禁忌とは、知らなかった。

令和5年12月27日(水) Y.K

鎮咳薬の錠剤が足りない。

本日開始時点でアスベリン2錠

レスプレン2錠、コルドリン35錠でした。

検査キットも入手困難だし、いろいろ不足していますね。

小児科 1名でした。

4. 診療所の現状

① 夜間急患診療所出動医名簿

令和5年1月1日～令和5年12月31日

青 山 洋 二	向中野二丁目 54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
朝 倉 慎 一	茶畑一丁目 8-2	あさくらクリニック
朝 倉 賀 子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
阿 部 弘 一	菜園二丁目 5-29	あべ菜園内科クリニック
阿 部 礼 司	長橋町 17-45	あべ内科・消化器科クリニック
池 田 亘 政	上太田弘法清水 10-3	池田内科
石 井 基 嗣	中ノ橋通一丁目 4-20 水晶堂ビル 4F	いしい内科・糖尿病クリニック
石 井 基 弘	東緑が丘 23-26	石井内科消化器科医院
石 川 健	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
板 澤 正 明	中央通一丁目 7-25 1F	ポランの内科クリニック
伊 藤 俊 一	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
伊 藤 雅 天	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
臼 井 由紀子	松園二丁目 2-10	臼井循環器呼吸器内科
梅 木 郁 美	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
永 塚 健	緑が丘四丁目 1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
小 穴 修 平	永井 17-36-1	いわて飯岡駅前内科クリニック
及 川 寛 太	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
及 川 慶 介	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
大 井 清 貴	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 脳神経内科・老年科
大 浦 雅 之	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
大 澤 宏 之	茶畑二丁目 8-3	大澤クリニック
大 庭 英 樹	盛岡駅前通 13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
大 平 篤 志	梨木町 2-2	おおひら内科循環器科クリニック
大 屋 敬一郎	西青山一丁目 16-43	大屋内科胃腸科クリニック
荻 野 義 信	本宮一丁目 6-12	荻野病院
小 田 淳 一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
小 田 翔 一	八幡平市大更 25-328-1	八幡平市立病院
戒 能 明	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
角 田 亮	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
桂 永 行	本宮字小坂小瀬 13-2	かつら内科クリニック
加 藤 隆 幸	天神町 11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
加 藤 幸	津志田 26-30-1	川久保病院 内科

金澤格	上堂一丁目 18-24	かなざわ内科クリニック
金矢宣紀	津志田中央三丁目 7-7	循環器内科 金矢クリニック
金山広海	浅岸一丁目 12-22	かなやま内科医院
金子博純	乙部 13-135-3	金子胃腸科内科
金濱誠己	向中野三丁目 10-6	杜のこどもクリニック
鎌田潤也	大通二丁目 7-23	おおどおり鎌田内科クリニック
鎌田響	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科消化管分野
鎌田広基	本宮二丁目 20-1	鎌田内科クリニック
上原充郎	岩手郡雫石町八卦 1-16	上原小児科医院
川村光郎	志家町 4-4	川村内科医院
菅野啓一	山岸二丁目 11-36	菅野小児科医院
菊池光洋	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 放射線治療科
金正門	向中野五丁目 18-30	まさと脳神経内科クリニック
金正めぐみ	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
金野寛史	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
久喜寛之	緑が丘三丁目 2-34	久喜内科・脳神経内科医院
工藤卓次	前九年三丁目 16-15	くどう医院
工藤宏紀	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
工藤真大	中ノ橋通一丁目 7-13	工藤内科ハートクリニック
久保田公宜	大館町 26-10	久保田医院
久保田望	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
黒田咲季	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
肥田龍彦	菜園一丁目 4-7	菜園循環器内科医院
肥田親彦	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
小坂崇	永井 19-258-1	小坂内科消化器科クリニック
児島陽一	みたけ三丁目 11-36	児島内科医院
小谷康慈	上厨川字横長根 76-3	こたに内科・甲状腺クリニック
小林仁	盛岡駅西通二丁目 9-1	マリオス小林内科クリニック
小林有一	三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
才川博敬	菜園一丁目 6-13 公園通りプラザビル 2F	公園通りクリニック
齋藤明宏	月が丘二丁目 2-60	さいとう小児科クリニック
齊藤慎二	みたけ四丁目 11-46	みたけ消化器内科クリニック
斉藤宏之	みたけ二丁目 21-42	みんなのクリニック
佐々木駿	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
佐々木透	高松二丁目 27-27	おはようクリニック
佐々木朋子	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐々木正孝	中野一丁目 27-10	ささき医院

佐藤 邦彦	中ノ橋通二丁目 3-2	もりおか胃腸科内科クリニック
佐藤 悠	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
佐藤 由香子	下ノ橋町 4-15	船山内科クリニック
澤田 哲伸	上田一丁目 6-11	澤田内科医院
塩畑 健	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
清水 潤	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
小豆嶋 立頼	仙北三丁目 13-20	小豆嶋胃腸科内科クリニック
菅原 啓司	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
鈴木 一彦	津志田 13-18-4	盛岡南病院
鈴木 啓二郎	下米内二丁目 4-12	中津川病院
鈴木 俊洋	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
鈴木 知己	八幡町 2-17	鈴木内科医院
鈴木 康之	北松園二丁目 15-4	内科クリニックすずき
田金星 都	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
高野 長邦	三本柳 6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科
高橋 明雄	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
高橋 智	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
高橋 進	下米内二丁目 4-12	中津川病院
滝川 佐波子	西松園三丁目 22-1	西松園内科クリニック
田口 真理奈	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
武田 薫	花巻市東宮野目 13-112	介護老人保健施設サンホーム
田中 健太郎	紫波郡矢巾町大字西徳田 5-2-4	けんたろうこどもクリニック
田中 洋	永井 22-29-6	田中循環器内科クリニック
田村 悦子	下ノ橋町 6-14	遠山病院 内科
足澤 美樹	下米内二丁目 4-12	中津川病院
千田 明紀	東安庭一丁目 23-60	ちだ内科・外科クリニック
千葉 直樹	中央通三丁目 1-10	ちばクリニック
千葉 芳久	向中野三丁目 10-3	本宮Cクリニック
富樫 弘文	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
栃内 秀貴	神明町 10-35	栃内内科医院
中島 淳	月が丘二丁目 8-30	中島内科クリニック
中塚 明彦	中太田新田 25-270	なかつか消化器内科クリニック
中村 富雄	上厨川字杉原 50-47	中村こどもクリニック
中村 義明	若園町 2-5	中村内科医院
二宮 由香里	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
原田 達男	山岸 3-2-1 山岸中央ビル 1F	原田内科脳神経機能クリニック

樋口清一	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
平井大士	紫波町日詰字下丸森 138-2	平井医院
藤井裕	八幡平市柏台 2-8-2	東八幡平病院
藤島敏智	愛宕町 4-18	藤島内科医院
前多治雄	盛岡駅前通 9-10 丸善ビル 5F	前多小児科クリニック
蒔苗剛	津志田 26-30-1	川久保病院 小児科
増本佳泰	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
松嶋大	仙北二丁目 1-20	なないろのとびら診療所
三浦義孝	中野一丁目 16-10	みうら小児科
三上仁	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
水沼吉美	中央通二丁目 11-12 明治生命館 1F	水沼内科循環器クリニック
三船俊英	天昌寺町 9-10	三船内科
宮本康弘	上厨川字杉原 101-4	みやもと内科クリニック
武藤秀和	紫波中央駅前 2-3-94	紫波中央小児科
村田淳	紺屋町 3-4	村田小児科医院
村田望	北飯岡一丁目 2-25	ゆうあいの街クリニック
森田順	緑が丘四丁目 1-50 アステイ緑が丘 1F	森田小児科医院
森田友明	緑が丘四丁目 1-50 アステイ緑が丘 1F	森田小児科医院
森谷耕太郎	高松三丁目 11-29	森谷医院
八木千栄	北飯岡三丁目 20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
山内航	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
山口淑子	滝沢市鷓鴣御庭田 65-2	鷓鴣こどもクリニック
山田峻	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科
山田宏之	津志田中央二丁目 18-31	やまだ胃腸内科クリニック
吉田研一	梨木町 2-13	吉田小児科
吉田信一	西仙北一丁目 30-50	よしだクリニック
吉田太郎	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
吉田俊巳	東見前 8-20-16	吉田消化器科内科
渡邊活見	高松三丁目 9-8	わたなべ内科・神経内科クリニック
渡邊健	永井 12-10	盛岡友愛病院 消化器内科

② 役員名簿

(令和5年12月31日現在)

開設者	盛岡市長	内 舘 茂
管理者	盛岡市医師会会長	吉 田 耕太郎
運営協議会		
委 員	盛岡市医師会副会長	金 子 博 純
〃	盛岡市医師会副会長	工 藤 卓 次
〃	盛岡市医師会理事	金 濱 誠 己
〃	〃	久保田 公 宜
〃	〃	小 林 有 一
〃	盛岡市医師会小児科医会会長	高 橋 明 雄
〃	盛岡市医師会小児科医会幹事	齋 藤 明 宏
〃	盛岡薬剤師会会長	佐々木 俊
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 宣 好
〃	岩手県看護協会会長	相 馬 一二三
〃	盛岡市保健福祉部保健衛生監	加 藤 彩 子
〃	盛岡市保健所次長	高 橋 宏 英
事務局	盛岡市医師会事務局長	及 川 敬一郎
〃	盛岡市医師会事務局次長	水 本 達 彦
〃	盛岡市医師会事務局課長	谷 藤 慎 治
〃	盛岡市保健所企画総務課長	田 村 聡
〃	盛岡市保健所企画総務課長補佐	木 村 寛 之
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係長	向 田 瑠 夏
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係主事	織 田 敬 太

5. 運営協議会

令和5年度 第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和5年4月13日（木） 午後7時
場 所：盛岡市医師会館会議室

令和5年度の第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会が盛岡市医師会館会議室において開催された。会に先立ち、運営協議会会長に加藤 彩子 盛岡市保健福祉部保健衛生監が選出された。加藤 彩子 会長、および管理者の盛岡市医師会 吉田 耕太郎 会長から挨拶があった。

その後、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の診療方法等について協議を行い、下記のことが決定した。

1. 診療体制について

	現 行	変更後
電話予約	要	不要
発熱患者の診療時間	19時から21時	19時から23時
診察場所	プレハブ	診療所内
発熱患者待機場所	車	保健所1階ロビー、プレハブ、車

2. コロナウイルス陽性者への事後指導について

外出自粛推奨機関	発症日を0日目として5日間は外出を控えること かつ、症状軽快から24時間経過するまでの間は外出を控える
周りへの配慮	10日間の経過するまでは、マスク着用やハイリスク者との接触は控えていただくことを推奨する

3. 防護具の着用について

発熱患者の診療の際には、これまで通りサージカルマスク、フェイスシールド、手袋、ガウンを装着する。

4. 新型コロナウイルス、季節性インフルエンザウイルス以外の検査について

当面の間、行わないこととした。

5. 発熱患者の処置について

点滴など滞在時間の長くなるものに関しては、担当医師の判断により二次輪番病院への紹介も考慮する。

6. その他

委員から換気の重要性について指摘があり、現時点での対策についての下記の回答があった。

発熱患者用診察室（A-1、A-2）にHEPAフィルターを設置する。発熱患者用診察室（A-1）には窓があるため、検査時は窓を開けて対応することとしたい。

また、診療所内にはロスナイが設置されており、24時間換気を実施しているほか、必要に応じて、加湿器（現在、診療所内に2つ設置あり）を増設する。

（小林有一）

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長
会長	加藤 彩子	盛岡市	保健福祉部保健衛生監
委員	金子 博純	盛岡市医師会	副会長
	工藤 卓次		副会長
	金濱 誠己		理事
	久保田 公宜		理事
	小林 有一		理事
	西島 浅香		小児科医会会長
	中村 富雄		小児科医会幹事
	佐々木 俊	盛岡薬剤師会	会長
	佐々木 宣好		副会長
	相馬 一二三	岩手県看護協会	会長
	高橋 宏英	盛岡市	保健所次長
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本 達彦		次長
	谷藤 慎治		課長
	田村 聡	盛岡市保健所	企画総務課長
	木村 寛之		企画総務課長補佐
	向田 瑠夏		企画係長
	明地 幹子		主任
	織田 敬太		主事

令和5年度 第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和5年10月19日（木） 午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



令和5年10月19日(木)午後7時から盛岡市医師会館会議室において開催された。会に先立ち、会長である加藤 彩子 盛岡市保健福祉部保健衛生監、および管理者の吉田耕太郎 盛岡市医師会会長から挨拶があった。

1. 報告事項

- 1) 仮設待機所（プレハブ）撤去に係る対応について
 - (1)仮設待機所（プレハブ）は、設置許可が終了する令和5年10月29日までに撤去をする。
 - (2)現在、待機場所として使用している1階ロビーを整理し、待機人数を現在の4人程度から10人程度まで収容できるよう、スペースを広げる。
 - (3)1階ロビーの待機人数が収容目安を超える場合は、来所手段を確認し、自家用車で来た患者は、自家用車で待機するよう案内する。

2) 薬品等の廃止及び採用について

ラシックス注、ジギラノゲンC注、ヒルドイドクリーム0.3%、タフマックE配合カプセルは廃止する。

ラピッドテストSARS-CoV-2、クイックチェイサー SARS-COV-2スマート、クイックナビ-COVID19 A、イムノエースSARS-COV-2 II、COVID-19Antigenラピッドテスト、アルソニックCOVID-19 Agを採用し、流通状況により入手可能な検査キットを整備する。

2. 協議事項

- 1) 冬季のインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の同時流行に備えた診療方法等の検討について
 - (1)診療体制（案）について
診療所内の感染拡大防止・混雑回避のため、一般患者と発熱患者の診察室及び待機場所を分ける体制等に

ついて協議したが、結論が出ないため事務局持ち帰り検討事項となった。

(2) 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザに係る検査キットの整備(案)について

新型コロナウイルス抗原検査キット、インフルエンザ抗原検査キット、同時検査キットを整備し、流通状況に応じ入手できた検査キットを整備する。

(3) 防護具の着用(案)について

これまでどおり着用する。

(4) 新型コロナウイルス、季節性インフルエンザウイルス以外の検査再開(案)について

緊急性がないため、後日かかりつけ医で診てもらおうよう案内する。

(5) 発熱患者の処置(案)について

医師の指示に従う。

応について

- ・緊急時に、当日出勤する医師本人と連絡を取る必要があるため、出勤医の携帯電話番号を把握し、医師の出勤がない場合、1 診療所 2 携帯電話 3 自宅の順に連絡をする。
- ・出勤依頼の連絡を、FAXと電話で行う。

3) 新規要望薬品について

アセトアミノフェン500mgとアズノールうがい液と2つの薬剤について要望があった。アセトアミノフェン500mgについては、出荷調整中であり納品が難しいという問題はあるが、採用する。アズノールうがい液については、ハチアズレ顆粒のうがい薬の在庫が多量にあるため、まずは在庫を消費する。

1) の(2)~(5)、2)、3) については協議の結果承認された。

2) 出勤医師と連絡が取れない場合の対

(小林有一)

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名	
管理者	吉田 耕太郎	盛岡市医師会	会長
会長	加藤 彩子	盛岡市	保健福祉部保健衛生監
	工藤 卓次	盛岡市医師会	副会長
	金濱 誠己		理事
	久保田 公宜		理事
	小林 有一		理事
	齋藤 明宏		小児科医会幹事
	佐々木 俊	盛岡薬剤師会	会長
	佐々木 宣好		副会長
	相馬 一二三	岩手県看護協会	会長
	高橋 宏英	盛岡市	保健所次長
事務局	及川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長
	水本 達彦		次長
	谷藤 慎治		係長
	田村 聡	盛岡市保健所	企画総務課長
	木村 寛之		企画総務課長補佐
	向田 瑠夏		企画係長
	明地 幹子		主任
織田 敬太	主事		

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(令和5年1月～12月)

診療状況

1. 疾病別患者数
2. 来院時間帯別入院患者数
3. 地域別入院患者数
4. 搬入先・搬入方法別入院患者数
5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

診 療 状 況

1. 疾病別患者数

1) 令和5年1月～12月

全身疾患		患者数	患者数	
感染症		113 (40)	栄養疾患	2 (1)
寄生虫病		0 (0)	代謝疾患	38 (10)
新生物		148 (5)	免疫異常	1 (0)
内分泌疾患		2 (1)		
小 計				304 (57)

系統疾患		患者数	患者数	
血液・造血器疾患		21 (1)	泌尿器生殖器疾患	131 (37)
精神障害		124 (6)	周産期	1 (0)
神経・感覚器疾患 (てんかんを含む)		206 (23)	皮膚皮下組織	26 (4)
心不全・不整脈など		365 (17)	筋骨格・結合組織	65 (22)
虚血性心疾患など		245 (17)	先天異常	0 (0)
(心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)			妊娠	3 (0)
脳血管障害		326 (25)	症状・徴候	326 (20)
呼吸器疾患		194 (83)	診断不明確	1 (0)
消化器疾患		428 (168)	その他	59 (8)
小 計				2,521 (431)

損傷・中毒					患者数
	交通事故	その他の事故	事故の後遺症	故意的加害	小 計
骨折	50 (41)	230 (169)	0 (0)	11 (8)	291 (218)
関節脱臼	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)
捻挫	2 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (0)
頭蓋内損傷	25 (14)	120 (94)	0 (0)	3 (1)	148 (109)
内臓損傷	13 (8)	11 (11)	0 (0)	2 (1)	26 (20)
開放創	4 (0)	40 (6)	0 (0)	10 (2)	54 (8)
血管損傷	1 (1)	2 (1)	0 (0)	2 (1)	5 (3)
表在損傷	4 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (1)
挫創	26 (3)	50 (12)	0 (0)	4 (1)	80 (16)
圧挫損傷	3 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (4)
異物	0 (0)	10 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (4)
熱傷	0 (0)	30 (16)	0 (0)	2 (2)	32 (18)
神経損傷	5 (5)	23 (20)	0 (0)	0 (0)	28 (25)
中毒・薬物中毒	0 (0)	9 (2)	0 (0)	101 (33)	110 (35)
毒作用	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
後遺症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他・外因作用	8 (1)	75 (15)	0 (0)	9 (3)	92 (19)
外科・内科合併症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小 計	141 (73)	618 (356)	0 (0)	146 (53)	905 (482)
合 計					3,730 (970)

総患者数 3,730人 () はセンター入院患者数 970人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 令和5年1月～12月

月	AM0時～AM6時		AM6時～AM9時		AM9時～PM5時		PM5時～PM8時		PM8時～PM12時		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	5	6	3	0	34	31	7	女	5	2	54	43	97
2月	5	0	2	2	33	19	9	4	5	6	54	29	83
3月	0	1	2	3	32	14	2	2	5	2	41	30	71
4月	2	3	2	0	32	15	7	10	8	2	51	24	75
5月	2	4	4	0	23	15	7	4	5	4	41	31	72
6月	1	3	3	1	22	23	14	8	6	6	46	36	82
7月	4	5	1	2	27	19	7	3	12	6	51	34	85
8月	3	3	2	3	38	22	5	2	4	2	52	34	86
9月	6	0	1	2	30	17	4	4	4	6	45	33	78
10月	5	2	1	2	30	22	6	8	3	5	45	37	82
11月	4	3	0	0	30	14	10	6	5	4	49	28	77
12月	1	2	0	0	36	17	8	7	10	4	55	27	82
合計	38	32	21	15	367	228	86	62	72	49	584	386	970

3. 地域別入院患者数

1) 令和5年1月～12月

地域別	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛岡市		37	32	22	22	27	29	30	33	25	20	29	34	340	28.3	35.1%
滝沢市		4	3	6	4	2	2	2	3	6	2	1	2	37	3.1	3.8%
八幡平市・岩手郡		8	6	5	4	2	6	5	8	5	12	5	6	72	6.0	7.4%
紫波郡		19	19	16	19	21	23	23	12	17	17	19	11	216	18.0	22.3%
花巻市		10	10	6	8	2	5	5	9	4	6	3	14	82	6.8	8.5%
北上市・西和賀町		2	3	1	5	1		2	3	1	5	2	3	28	2.3	2.9%
奥州市・水沢江刺		3	3	4	2	2	3	2	3	5	4	1	1	33	2.8	3.4%
一関市・西磐井郡				1	3	2	1	2	1	3	2	1	4	20	1.7	2.1%
大船渡市・気仙郡				2	1	3		1		1		1		9	0.8	0.9%
釜石市・遠野市		3	1	2	1	3	1	4	5	3	2	4	1	30	2.5	3.1%
宮古市・下閉伊郡		1	3	1		1	1			3	2	2		14	1.2	1.4%
久慈市・九戸郡		1	1	1	1		2	3	1	1	1	1	1	14	1.2	1.4%
二戸市・二戸郡		1			2		2	2	2	1	4	2	3	19	1.6	2.0%
青森県		2		2	2	1	1		1		2	2	1	14	1.2	1.4%
秋田県		1	1			2	1	3	3	1		1		13	1.1	1.3%
宮城県		1				1	2		1		1	1		7	0.6	0.7%
その他の		4	1	2	1	2	3	1	1	2	2	2	1	21	1.8	2.2%
合計		97	83	71	75	72	82	85	86	78	82	77	82	970	80.8	100%

4. 搬入先・搬入方法別入院患者数

1) 令和5年1月～12月

搬入先 区分	初期救急医療施設			2次救急医療施設			3次救急医療施設			その他			小計		計
	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	
1月	26	2	28	13	4	17	0	0	0	46	6	52	985	12	97
2月	14	2	16	7	4	11	0	0	0	50	6	56	71	12	83
3月	9	1	10	15	4	19	0	0	0	34	8	42	58	13	71
4月	19	1	20	16	6	22	0	0	0	28	5	33	63	12	75
5月	6	3	9	8	5	13	1	0	1	43	6	49	58	14	72
6月	24	1	25	10	4	14	1	0	1	35	7	42	70	12	82
7月	15	1	16	10	6	16	1	0	1	43	9	52	69	16	85
8月	13	2	15	11	3	14	0	0	0	52	5	57	76	10	86
9月	14	1	15	15	7	22	1	0	1	33	7	40	63	15	78
10月	17	0	17	18	3	21	1	0	1	41	2	43	77	5	82
11月	20	3	23	10	2	12	1	0	1	32	9	41	63	14	77
12月	20	0	20	17	1	18	0	0	0	38	6	44	75	7	82
合計	197	17	214	150	49	199	6	0	6	475	76	551	828	142	970

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 令和5年1月～12月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎・脊髄損傷	内視鏡的治療 対象疾患	計
1月	6	0	1	7	4	5	23
2月	3	0	2	20	8	10	43
3月	3	0	3	16	3	4	29
4月	3	0	4	17	10	7	41
5月	5	0	3	25	3	3	39
6月	3	0	1	16	4	6	30
7月	2	0	2	18	2	4	28
8月	6	0	3	14	5	3	31
9月	3	0	6	15	2	8	34
10月	6	0	1	18	1	7	33
11月	7	0	2	29	6	13	57
12月	4	0	5	14	3	6	32
合計	51	0	33	209	51	76	420

Ⅲ お盆及び年末年始の救急医療

1. 令和5年度お盆休み期間中の外来患者数 実態調査報告

令和5年8月11日(金・祝)～16日(水)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は28病院、210診療所、計238医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所および病院数を表2に、上記期間の診療状況を表3に示す。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	210	210	100%
合計	238	238	100%

※予防医学協会・対がん協会・健康管理センターは除く

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	100	210
	外科	38	
	産婦人科	11	
	小児科	13	
	眼科	18	
	皮膚・泌尿器科	18	
	耳鼻咽喉科	11	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	11	28
	その他の病院	17	

表3. お盆期間中の休診・診療状況(237医療機関)

	8月11日 (金・祝)	8月12日 (土)	8月13日 (日)	8月14日 (月)	8月15日 (火)	8月16日 (水)
全日休診	230	151	230	217	214	204
半日休診	1	76	0	1	3	11
診療	2	10	2	19	20	22
休日救急当番医	4	0	5	0	0	0

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

	8月11日 (金・祝)	8月12日 (土)	8月13日 (日)	8月14日 (月)	8月15日 (火)	8月16日 (水)
新型コロナ外来 対応医療機関	6	34	7	15	14	21

表 4. 病院及び診療所（令和 5 年 8 月 11 日～ 8 月 16 日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時間 期間	AM0時	AM6時	AM9時	PM5時	PM8時	合計
			～ AM6時	～ AM9時	～ PM5時	～ PM8時	～ PM12時	
8 月 11 日	金・祝	病 院	12	14	281	44	42	393
		診療所	15	49	347	60	8	479
		合 計	27	63	628	104	50	872
8 月 12 日	土	病 院	18	47	485	32	28	610
		診療所	0	204	2,692	45	47	2,988
		合 計	18	251	3,177	77	75	3,598
8 月 13 日	日	病 院	25	31	139	35	34	264
		診療所	0	0	467	43	6	516
		合 計	25	31	606	78	40	780
8 月 14 日	月	病 院	15	220	3,234	42	70	3,581
		診療所	0	2	287	63	8	360
		合 計	15	222	3,521	105	78	3,941
8 月 15 日	火	病 院	24	202	3,074	47	53	3,400
		診療所	0	5	263	40	7	315
		合 計	24	207	3,337	87	60	3,715
8 月 16 日	水	病 院	7	196	3,641	28	34	3,906
		診療所	0	3	709	65	2	779
		合 計	7	199	4,350	93	36	4,685
総 計		病 院	101	710	10,854	228	261	12,154
		診療所	15	263	4,765	316	78	5,437
		総 計	116	973	15,619	544	339	17,591

8月11日（金・祝）は主に休日救急当番医だけの診療体制であるため、患者数は872名と少なめであった。

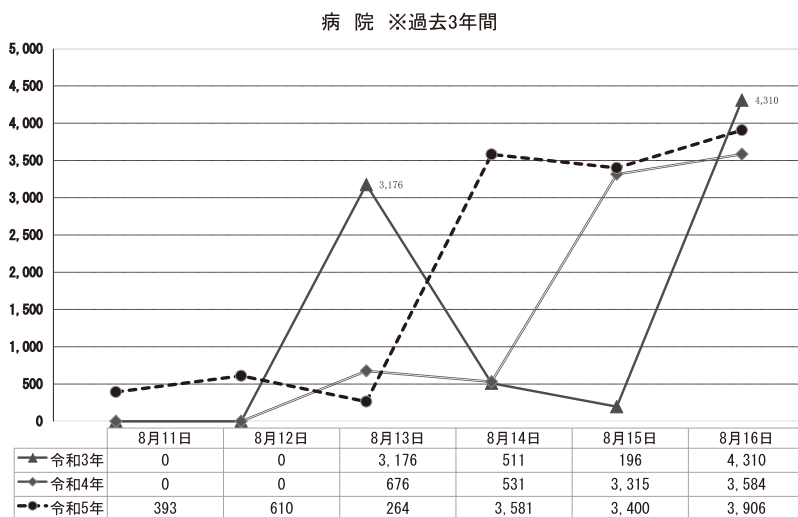
8月12日(土)は一般診療所は午前中診療が多かったため、3,598人と多かった。

8月13日(日)は780名で、昨年より526人の減少であった。これは昨年が土曜日であった影

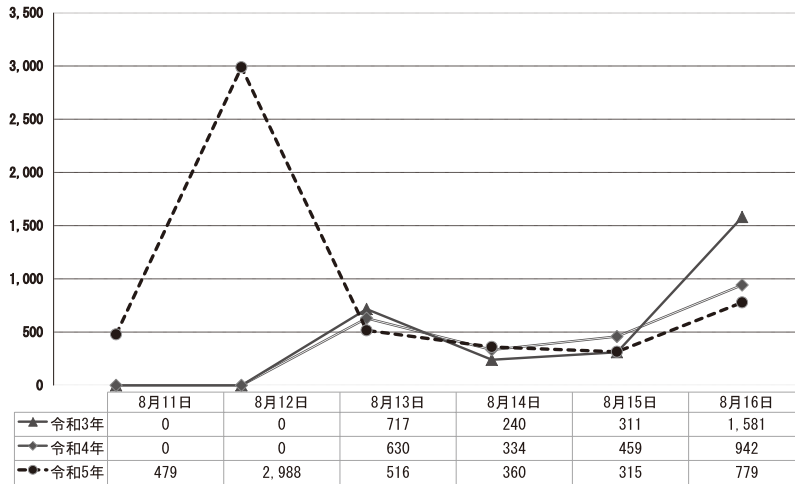
響が考えられた。

8月14日(月)～16日(水)は診療を行っている医療機関（主に病院関係）が多かった事もあり、14日：3,941人（R4：865人）15日：3,715人（R4：3,774人）、16日：4,685人（R4：4,523人）と令和4年と比較すると3日間で3,179人多かった。（表4、図1）

図 1. お盆中外来患者実態調査（3年間）



診療所 ※過去3年間

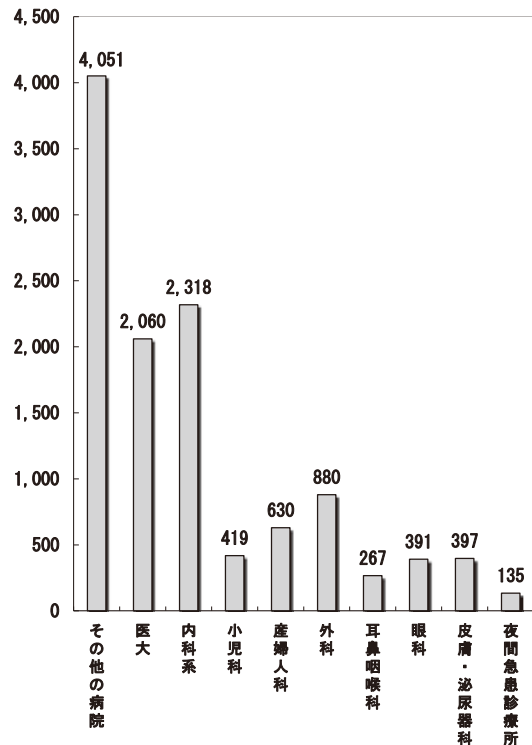


各科別の外来患者の受診状況を図2に示す。岩手医大（矢巾）は2,060人（昨年1,389人）で671人の増加がみられ、その他の病院受診者4,051人（昨年6,717人）で、2,666人減少した。診療所受診者の内訳は、内科系2,318人、

外科系880人、産婦人科630人、小児科419人であった。

期間中の夜間急患診療所は135人（昨年43人）で、123人の増加であった。

図2. 各科別の外来患者状況



8月11日(金)～16日(水)の時間帯別の病院および診療所来院患者比率を図3から図8に円グラフに示す。

今年度は8月11日(金)～13日(日)までは診療所での受診3,983人(75.9%)と多く、14日(月)

から16日(水)の多くの来院患者は病院：10,887人(88.2%)であり、岩手医大(2,060人)、県立中央病院(2,046人)・盛岡赤十字病院(1,069人)、その他の二次救急病院で多くの診療を受けていた。

図3. 病院および診療所来院患者比率

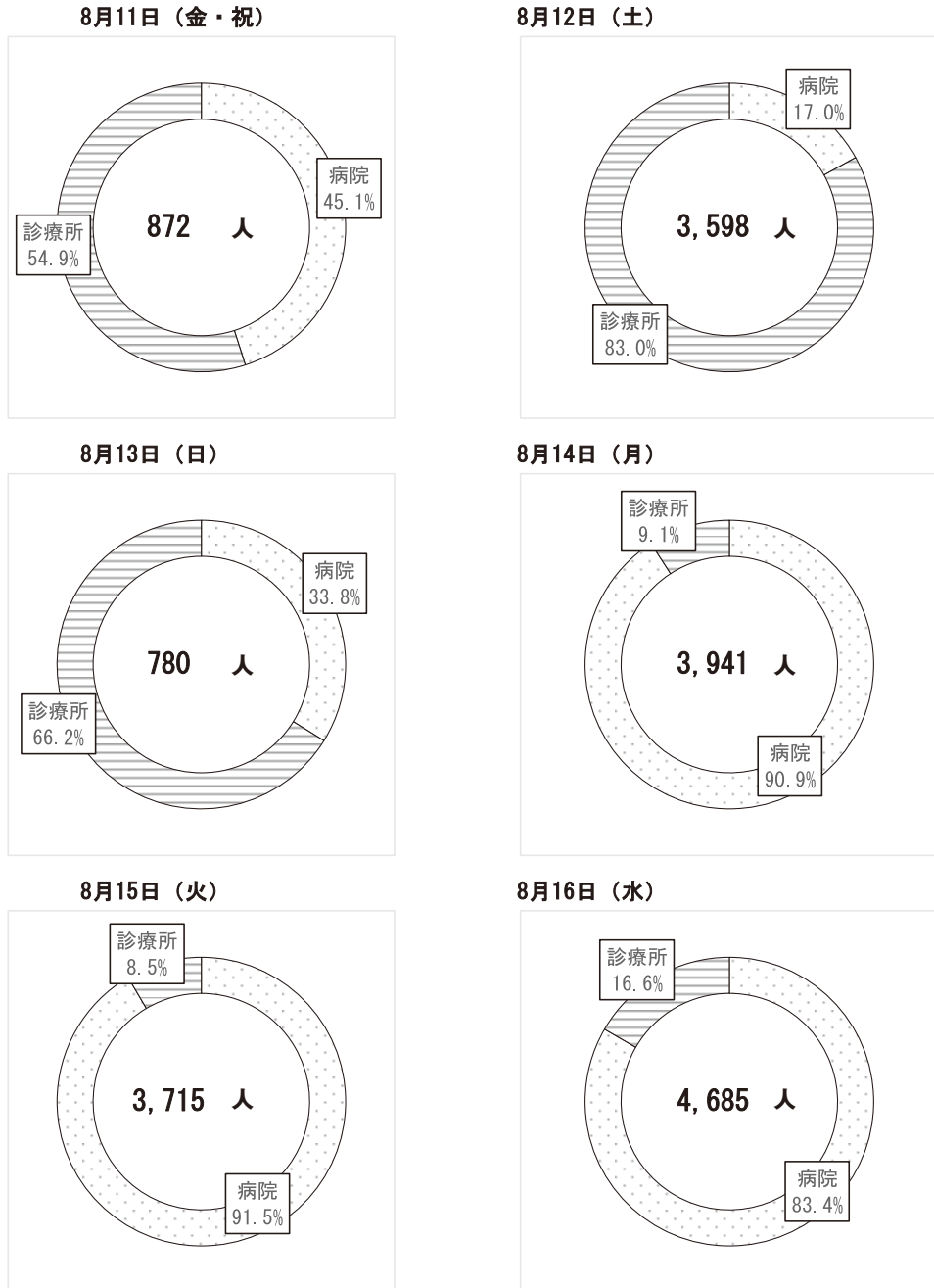
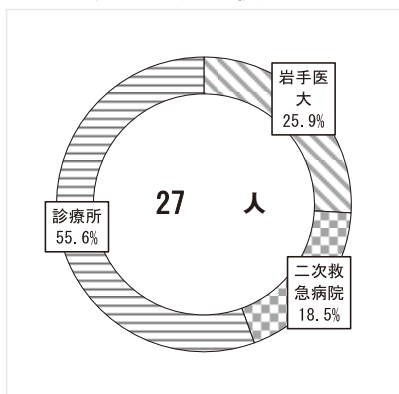
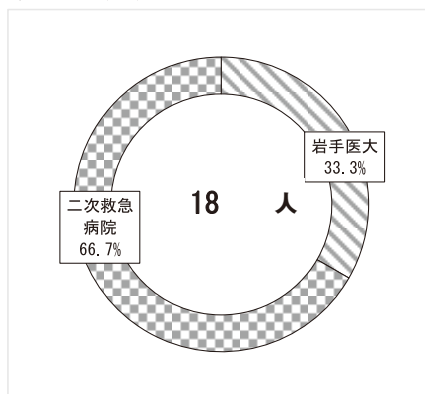


図4. 深夜（AM0:00～6:00）の来院患者比率

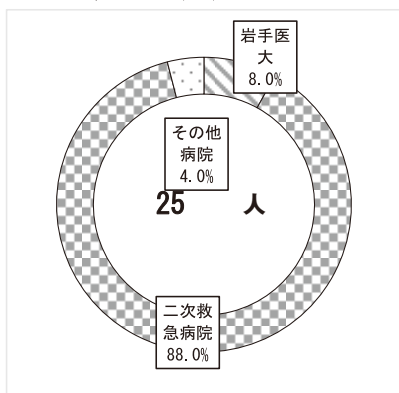
8月11日（金・祝）



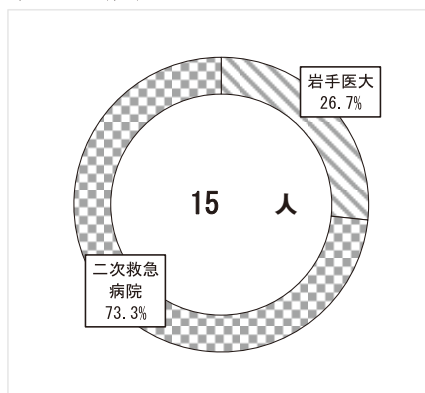
8月12日（土）



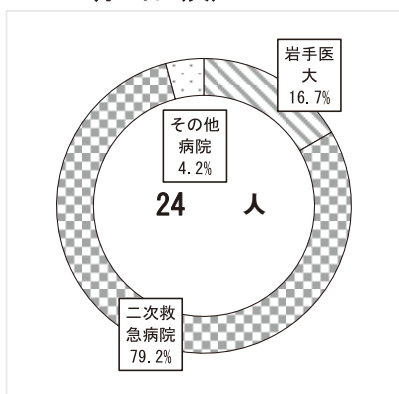
8月13日（日）



8月14日（月）



8月15日（火）



8月16日（水）

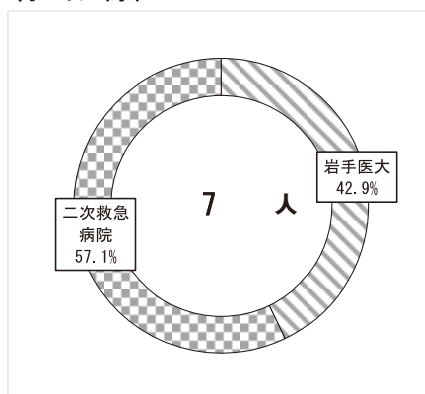


図 5. 時間外 A (AM6:00~AM9:00)の来院患者比率

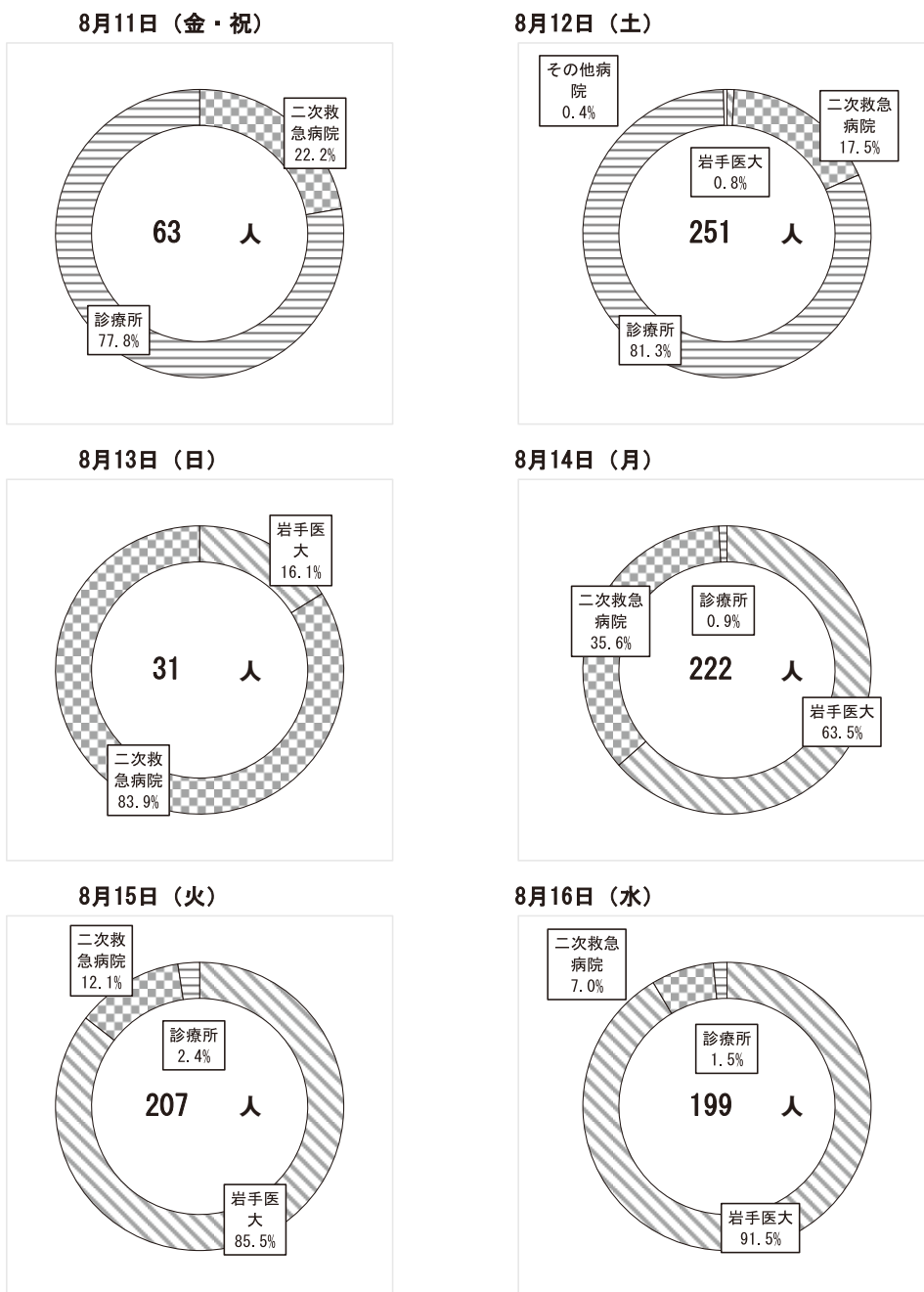


図 6. 日中 (AM9:00~PM5:00) の来院患者比率

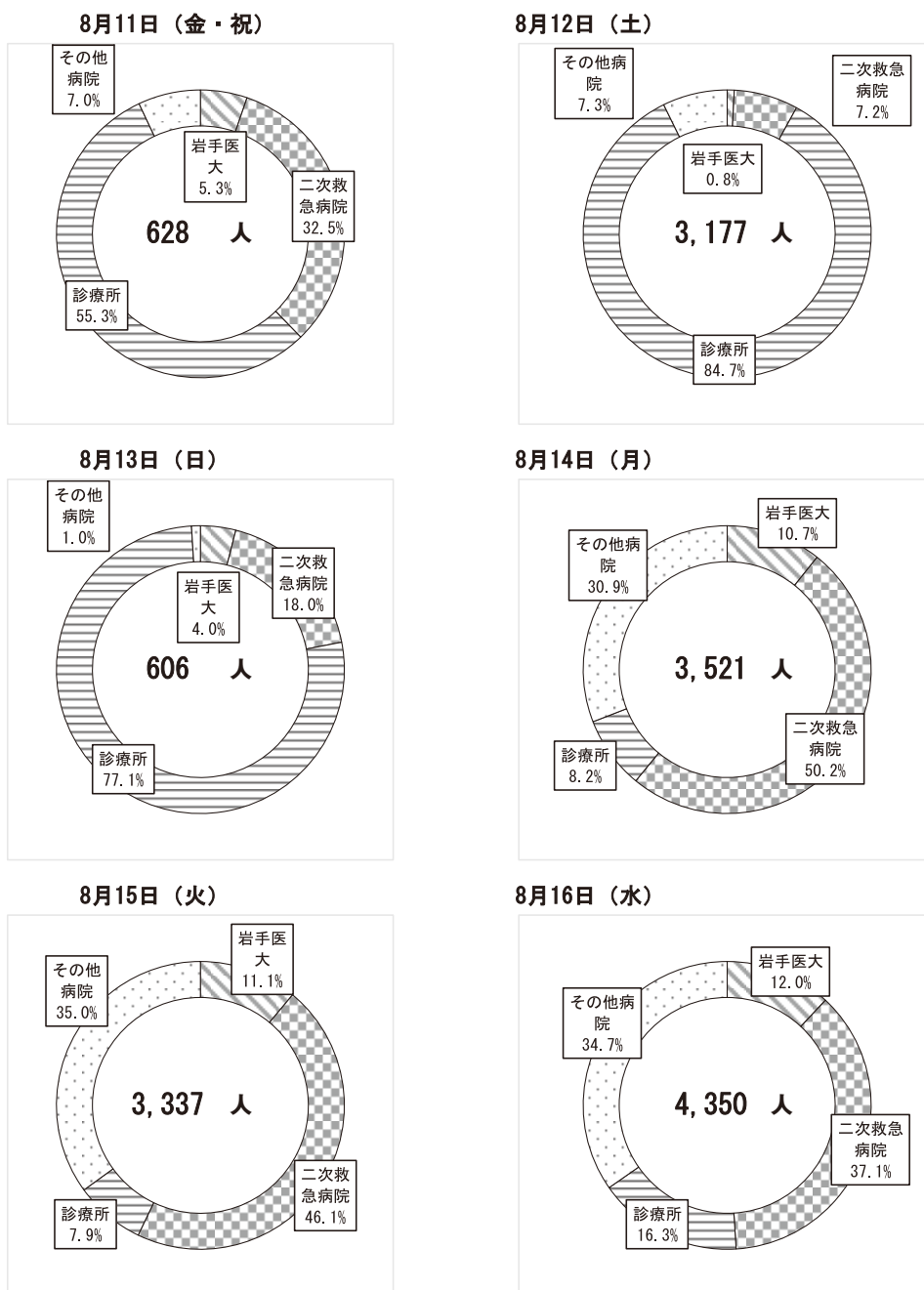


図 7. 時間外B (PM5:00~PM8:00) の来院患者比率

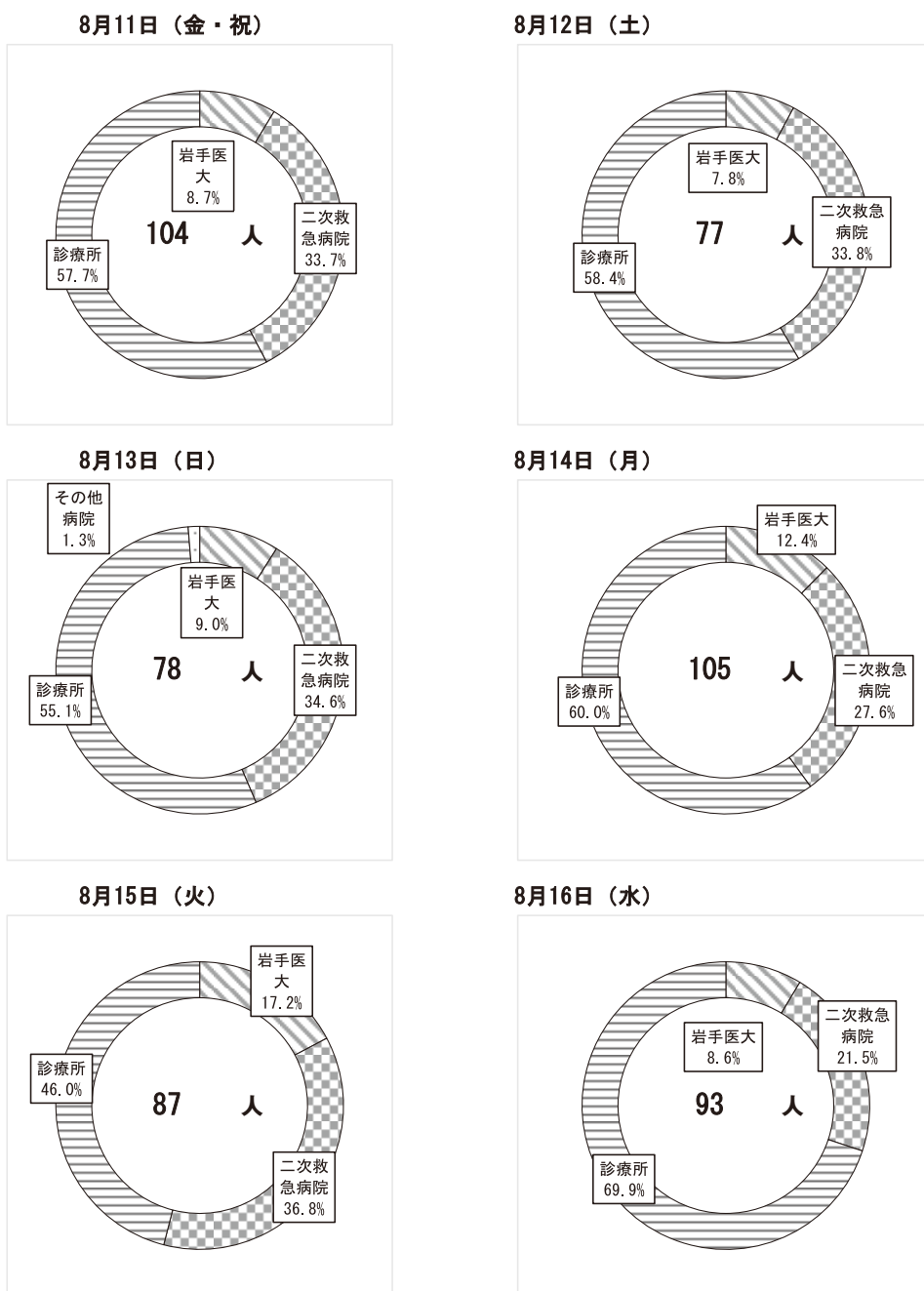
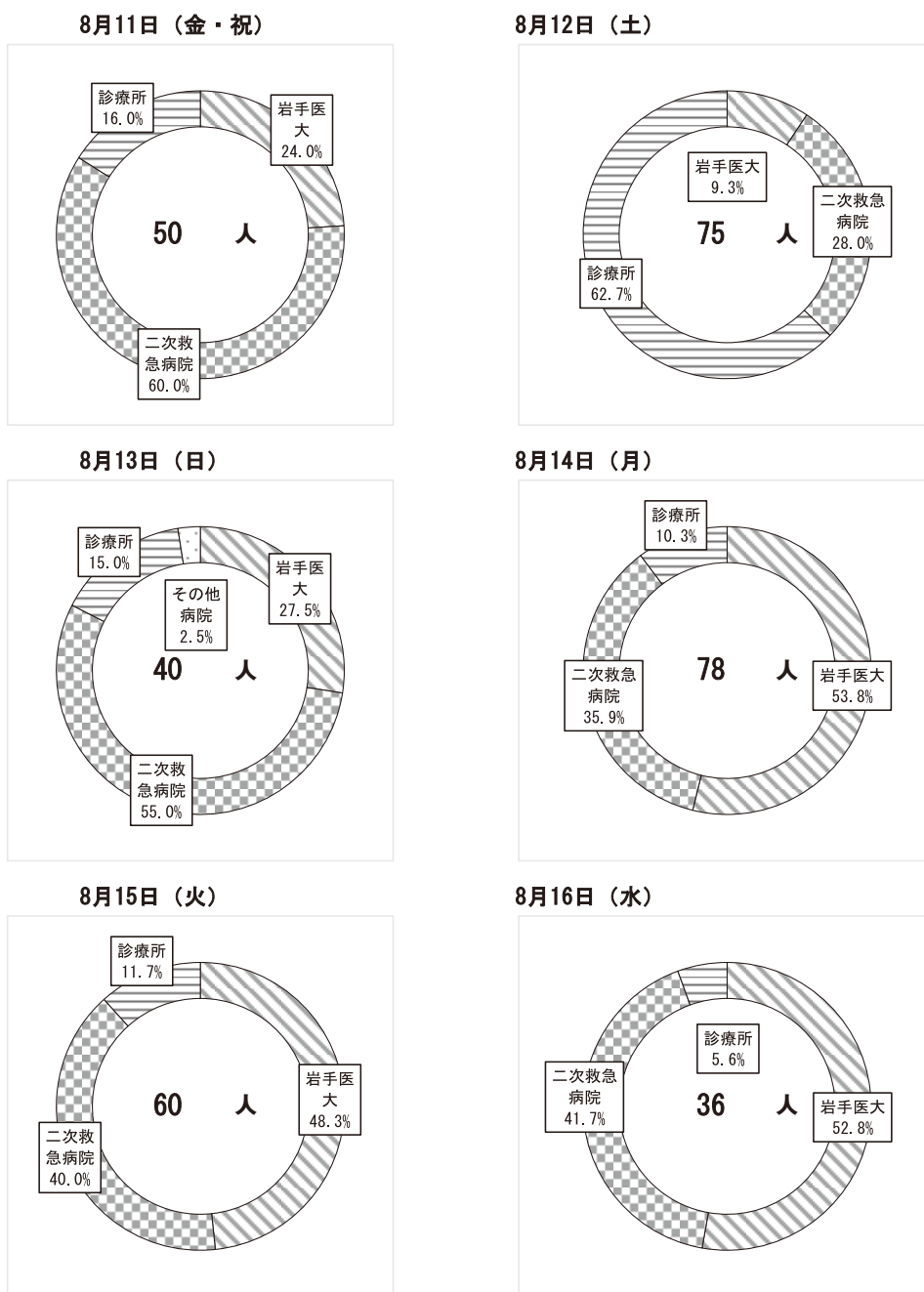


図 8. 夜間診療時間 (PM8:00~PM12:00) の来院患者比率



※夜間急患診療所のみ現行時間 (PM7:00 ~ PM11:30) とする。

【その他】

お盆期間中の診療・検査体制の確保について

1. 外来対応医療機関の検査体制について

日付	開設医療機関数	コロナ検査数	陽性者数
8/11 (金・祝)	6	274	134
8/12 (土)	34	307	183
8/13 (日)	7	336	184
8/14 (月)	15	347	210
8/15 (火)	14	400	221
8/16 (水)	21	377	196
合計	97	2,041	1,128

陽性率 55.3%

2. 盛岡市夜間急患診療所 受診者について

日付	内 科			小児科		
	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数
8/11 (金・祝)	11	4	0	8	2	0
8/12 (土)	4	1	0	17	3	0
8/13 (日)	13	8	0	10	0	0
8/14 (月)	17	5	0	15	0	0
8/15 (火)	14	3	0	13	1	0
8/16 (水)	8	3	0	5	0	0
合計	67	24	0	68	6	0

3. 休日救急当番医患者数について

	8月11日(金・祝)	患者数	コロナ陽性者数 (陽性率)		インフルエンザ陽性者数	終了時刻
内 科 (南)	遠山病院 (内科)	103	53	51.5	0	18:00
内 科 (北)	おはようクリニック	48	30	62.5	0	17:20
外科・整形外科 ・脳神経外科	双木整形外科医院	49	-	-	-	17:30
小 児 科	西島こどもクリニック	108	6	5.6	0	18:45

	8月13日(日)	患者数	コロナ陽性者数 (陽性率)		インフルエンザ陽性者数	終了時刻
内 科 (南)	小坂内科消化器科クリニック	90	46	51.1	1	17:20
内 科 (北)	澤田内科医院	64	48	75.0	0	20:30
外科・整形外科 ・脳神経外科	池田外科・消化器内科医院	65	4	6.2	0	17:50
小 児 科	よしだクリニック	129	11	8.5	0	17:15

最後に、新型コロナウイルスが感染症法5類に分類されて初めて迎えた連休であり、今後の年末年始や来年のゴールデンウィークを考える上で貴重な統計データであると思いません。

7月下旬から新型コロナ患者が増え始め、8月下旬から9月上旬に第8波のピークを迎えました。新型コロナ陽性率をみると成人は過半数であり、増加途上であることをうかがい知ることができました。

一方で、休日救急当番医では終了時刻を大きく超えた医療機関もありましたが、曜日を重ねてみれば、昨年8月14日(月)と比較し、8月13日(日)は受診患者数も減少し、大きな混

乱にはならず乗り越えられたと思われま

す。
今回のアンケート結果より、年末年始や来年のゴールデンウィークなど、今後の連休を混乱なく乗り切るにあたっては、新型コロナやインフルエンザなどの呼吸器感染症の動向をみながら、必要に応じ臨時の感染症外来の設置を検討する必要があるのではないかと考えました。

本アンケート調査に当たりましては、お忙しい中、各医療機関の皆様にご協力いただきました。誌上をもちまして感謝申し上げます。

(鈴木知己)

2. 令和5年度 年末年始外来患者実態調査報告

— 医療機関アンケート集計結果 —

令和5年12月29日(金)～令和6年1月3日(水)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は28病院、210診療所、計238の医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所及び病院数を表2に、上記期間の診療状況を表3に示します。

6日間の来院患者数は病院3,869人、診療所4,866人の合計8,735人となりました(表4)。

過去5年間における年末年始の来院患者数は表5をご覧ください。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	28	28	100%
診療所	210	210	100%
合計	238	238	100%

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	100	210
	外科	39	
	産婦人科	11	
	小児科	13	
	眼科	18	
	皮膚/泌尿器科	17	
	耳鼻咽喉科	11	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	11	28
	その他の病院	17	

表3. 年末年始診療状況(237医療機関)

	12月29日 (金)	12月30日 (土)	12月31日 (日)	1月1日 (月)	1月2日 (火)	1月3日 (水)
全日診療	35	1	1	1	1	2
午前診療	14	4	0	0	0	0
休診	183	227	232	232	231	231
休日救急当番医	5	5	4	4	5	4

※盛岡市夜間急患診療所は除く

	12月29日 (金)	12月30日 (土)	12月31日 (日)	1月1日 (月)	1月2日 (火)	1月3日 (水)
新型コロナ外来 対応医療機関	34	11	6	8	7	7

表 4. 病院及び診療所（令和 5 年 12 月 29 日～令和 6 年 1 月 3 日）の来院患者数（時間帯別）

月 日	曜日	時刻 機関	0 AM	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	合 計
			6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM	
12月29日	金	病 院	11	209	2,070	31	40	2,361
		診 療 所	0	69	1,750	121	10	1,950
		合 計	11	278	3,820	152	50	4,311
12月30日	土	病 院	11	31	208	43	25	318
		診 療 所	0	28	675	63	20	786
		合 計	11	59	883	106	45	1,104
12月31日	日	病 院	18	22	159	36	34	269
		診 療 所	0	4	420	45	4	473
		合 計	18	26	579	81	38	742
1月1日	月	病 院	17	21	173	53	26	290
		診 療 所	0	0	507	38	11	556
		合 計	17	21	680	91	37	846
1月2日	火	病 院	12	22	218	74	26	352
		診 療 所	0	14	508	52	7	581
		合 計	12	36	726	126	33	933
1月3日	水	病 院	14	20	182	41	22	279
		診 療 所	0	0	456	57	7	520
		合 計	14	20	638	98	29	799
総 計		病 院	83	325	3,010	278	173	3,869
		診 療 所	0	115	4,316	376	59	4,866
		総 計	83	440	7,326	654	232	8,735

(人)

表 5. 過去 5 年間ににおける年末年始来院患者総数の比較

年度 月日	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
12月28日	8,744 (土)	未調査	未調査	未調査	未調査
12月29日	1,159 (日)	4,461 (火)	4,894 (水)	4,012 (木)	4,311 (金)
12月30日	1,752 (月)	672 (水)	858 (木)	859 (金)	1,104 (土)
12月31日	1,085 (火)	588 (木)	552 (金)	629 (土)	742 (日)
1月1日	932 (水)	525 (金)	492 (土)	461 (日)	846 (月)
1月2日	893 (木)	450 (土)	422 (日)	680 (月)	933 (火)
1月3日	1,093 (金)	338 (日)	584 (月)	727 (火)	799 (水)
1月4日	6,879 (土)	未調査	未調査	未調査	未調査
計	22,537	7,034	7,802	7,368	8,735

(人)

表 6. 夜間急患診療所来院患者数

月日 時間帯	12月29日(金)	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	計
午後 7 時 午後 8 時	0	23	14	16	29	20	122
午後 8 時 午後 11 時 30 分	9	6	4	11	7	6	43
計	29	29	18	27	36	26	165

(人)

表7. 夜間診療時間（8：00P.M.～12：00P.M.）の来院患者数 ()内%

	12月29日(金)	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	計
二次救急病院 (医大を除く)	30 (60.0)	16 (35.6)	26 (68.4)	18 (48.6)	21 (63.6)	17 (58.6)	128 (55.2)
岩手医大附属病院 (矢巾)	10 (20.0)	9 (20.0)	8 (21.1)	8 (21.6)	4 (12.1)	5 (17.2)	44 (19.0)
その他の病院	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	1 (0.4)
診療所	1 (2.0)	14 (31.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	16 (6.9)
夜間急患診療所 (8:00～11:30)	9 (18.0)	6 (13.3)	4 (10.5)	11 (29.7)	7 (21.2)	6 (20.7)	43 (18.5)
計	50 (100)	45 (100)	38 (100)	37 (100)	33 (100)	29 (100)	232 (100)

(人)

表8. 二次救急病院各病院別来院患者数 ()内%

	12月29日(金)	12月30日(土)	12月31日(日)	1月1日(月)	1月2日(火)	1月3日(水)	合計
岩手医科大学	567 (49.6)	58 (22.4)	62 (23.8)	60 (24.2)	62 (20.2)	52 (22.4)	861 (35.2)
岩手県立中央病院	73 (6.4)	78 (30.1)	57 (21.8)	89 (35.9)	63 (20.5)	54 (23.3)	414 (16.9)
盛岡赤十字病院	21 (1.8)	11 (4.2)	86 (33.0)	35 (14.1)	90 (29.3)	47 (20.3)	290 (11.8)
盛岡市立病院	17 (1.5)	17 (6.6)	12 (4.6)	21 (8.5)	14 (4.6)	17 (7.3)	98 (4.0)
遠山病院	2 (0.2)	4 (1.5)	3 (1.1)	0 (0.0)	2 (0.7)	1 (0.4)	12 (0.5)
栃内病院	89 (7.8)	2 (0.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	3 (1.0)	7 (3.0)	103 (4.2)
盛岡つなぎ温泉病院	52 (4.6)	8 (3.1)	7 (2.7)	6 (2.4)	6 (2.0)	8 (3.4)	87 (3.6)
盛岡友愛病院	141 (12.3)	4 (1.5)	6 (2.3)	2 (0.8)	3 (1.0)	7 (3.0)	163 (6.7)
川久保病院	145 (12.7)	7 (2.7)	2 (0.8)	7 (2.8)	2 (0.7)	1 (0.4)	164 (6.7)
国立病院機構盛岡医療センター	17 (1.5)	20 (7.7)	12 (4.6)	14 (5.6)	5 (1.6)	10 (4.3)	78 (3.2)
八角病院	18 (1.6)	50 (19.3)	13 (5.0)	13 (5.2)	57 (18.6)	28 (12.1)	179 (7.3)
合計	1,142 (100)	259 (100)	261 (100)	248 (100)	307 (100)	232 (100)	2,449 (100)

(人)

表9. 二次救急病院来院患者数

時間 月日	AM 0 }	AM 6 }	AM 9 }	PM 5 }	PM 8 }	合計
	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月29日(金)	10	209	852	31	40	1,142
12月30日(土)	11	29	153	41	25	259
12月31日(日)	18	21	153	35	34	261
1月1日(月)	17	20	133	52	26	248
1月2日(火)	12	22	174	74	25	307
1月3日(水)	14	20	135	41	22	232
合計	82	321	1,600	274	172	2,449

(人)

夜間診療時間帯の来院患者数は6日間で232人（昨年196人）、岩手医大附属病院（矢巾）が44人（昨年47人）、二次救急病院（医大除く）が128人（昨年110人）でした（表7）。

二次救急病院の全時間帯における来院総数は2,449人（昨年2,457人）で、そのうち岩手医大附属病院は35.2%を占める結果となりました（表8）。

二次救急病院の来院患者数2,449人のうち、最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時の時間帯に1,600人（昨年1,790人）でした（表9）。

岩手県高度救命救急センター（3次）の来院患者数は58人（昨年67人）で、最も多かった時間帯は午前9時～午後5時の32人（昨年34人）でした（表10）。

病院受診者が3,008人（昨年2,755人）と最も多く、続いて内科受診者が2,548人（昨年1,564人）でした（図1）。

表10. 岩手県高度救命救急センター来院患者数（3次）

時間 月日	AM 0 } AM 6	AM 6 } AM 9	AM 9 } PM 5	PM 5 } PM 8	PM 8 } PM 12	合 計
12月29日(金)	0	0	10	2	0	12
12月30日(土)	2	2	6	0	2	12
12月31日(日)	3	1	4	2	1	11
1月1日(月)	0	0	3	2	2	7
1月2日(火)	1	2	2	1	0	6
1月3日(水)	0	1	7	0	2	10
合 計	6	6	32	7	7	58

(人)

図1. 病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数

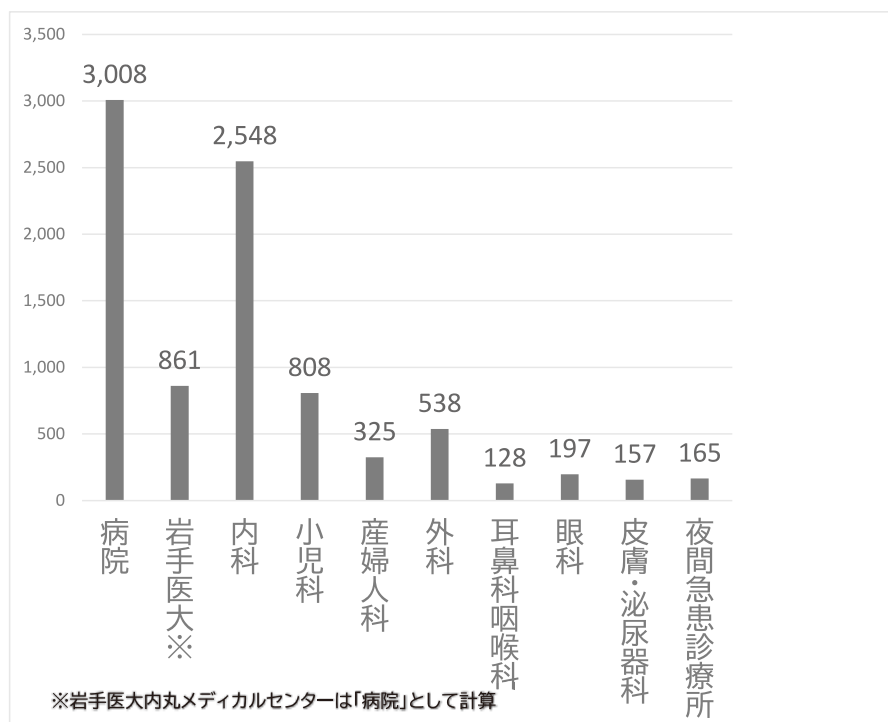
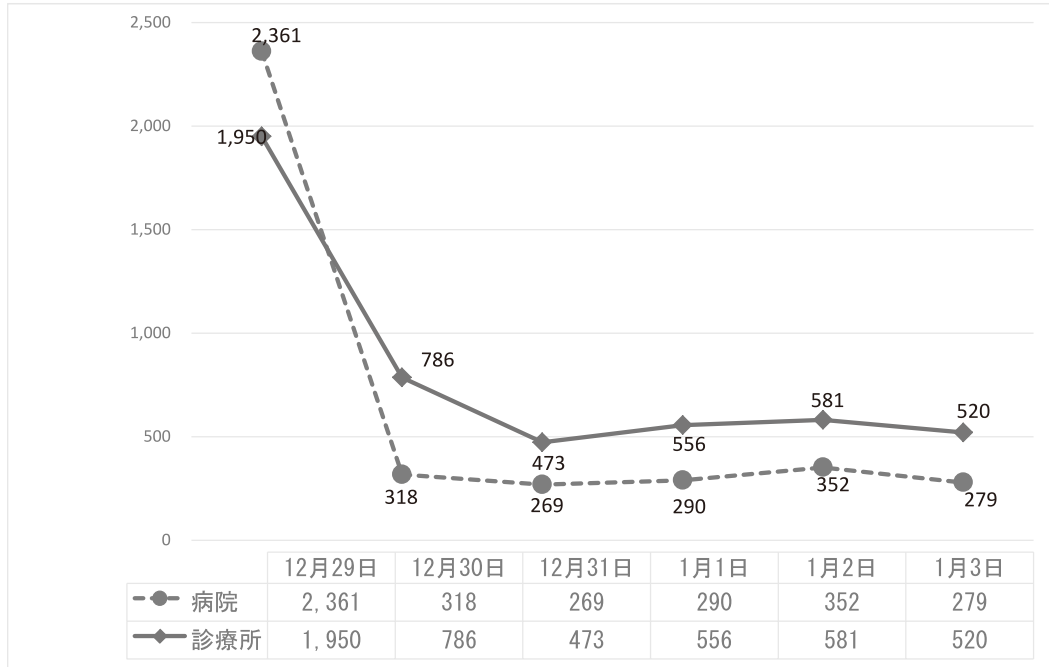


図 2. 病院および診療所来院患者数



年末年始期間中における休日救急当番医・夜間急患診療所・外来対応医療機関の患者数

1. 新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ発生状況について（検査数・陽性者数）

日付	インフルエンザ検査数	陽性者数	比率 (%)	コロナ検査数	陽性者数	比率 (%)
12/29(金)	384	106	27.6	237	52	21.9
12/30(土)	306	104	27.1	202	45	19.0
12/31(日)	344	101	26.3	297	56	23.6
1 / 1(月)	262	89	23.2	246	51	21.5
1 / 2(火)	350	156	40.6	302	86	36.3
1 / 3(水)	310	106	27.6	268	65	27.4
合 計	1,956	662	-	1,552	355	-

①インフルエンザ（検査数に対する陽性率） 33.8%

②コロナ（検査数に対する陽性率） 22.9%

2. 盛岡市夜間急患診療所 受診者について

日付	内 科			小 児 科		
	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数
12/29(金)	10	2	3	19	0	2
12/30(土)	17	4	6	12	0	0
12/31(日)	14	3	4	4	0	1
1 / 1(月)	16	0	5	11	0	0
1 / 2(火)	25	2	6	11	0	1
1 / 3(水)	10	4	0	16	3	2
合 計	92	15	24	73	3	6

3. 休日救急当番医患者数について

☆は新型コロナ外来対応医療機関

12月29日(金)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	33	2	6.1	10	30.3	17:00
☆	内科(北)	38	6	15.8	11	28.9	17:30
☆	内科(玉山)	16	4	25.0	6	37.5	17:15
	外科・整形外科・脳神経外科	29	-	-	-	-	18:10
☆	小児科	124	2	1.6	14	11.3	17:00

12月30日(土)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	71	3	4.2	10	14.1	22:40
☆	内科(北)	89	20	22.5	20	22.5	18:30
☆	内科(玉山)	46	2	4.3	22	47.8	17:30
	外科・整形外科・脳神経外科	43	-	-	-	-	17:30
☆	小児科	154	1	0.6	18	11.7	18:10

12月31日(日)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	116	21	18.1	17	14.7	19:10
☆	内科(北)	115	19	16.5	38	33.0	20:00
	内科(玉山)	-	-	-	-	-	-
	外科・整形外科・脳神経外科	45	-	-	-	-	18:50
☆	小児科	101	1	1.0	8	7.9	17:00

1月1日(月)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	90	16	17.8	27	30.0	19:00
☆	内科(北)	126	17	13.5	34	27.0	17:30
	内科(玉山)	-	-	-	-	-	-
☆	外科・整形外科・脳神経外科	54	-	-	1	1.9	17:25
☆	小児科	109	1	0.9	14	12.8	17:25

1月2日(火)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	186	47	25.3	78	41.9	17:45
	内科(北)	33	-	-	-	-	17:00
☆	内科(玉山)	58	11	19.0	10	17.2	17:30
	外科・整形外科・脳神経外科	26	-	-	-	-	17:05
☆	小児科	153	5	3.3	21	13.7	17:15

1月3日(水)		患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
☆	内科(南)	102	18	17.6	39	38.2	19:45
☆	内科(北)	69	13	18.8	20	29.0	19:15
	内科(玉山)	-	-	-	-	-	-
	外科・整形外科・脳神経外科	14	-	-	-	-	17:00
☆	小児科	94	4	4.3	18	19.1	17:30

お元気ですか

●医師会だより No.284 2023.12月号

みんなでよりせい すこやか いわて

朝9時～夕方5時 ※地域によって異なる場合があります。ご確認ください。

年末年始保存版

年末年始の当番医

お子さんが急病の場合 ●お子さんの具合が悪い時は早めに「日中の当番医」を受診してください。 ●夜間におけるお子さんの病状への対応や応急措置の相談は「こども救急相談電話」(夜7時～翌朝8時)TEL.019-605-9000が対応します。

●急変に備えて 普段から「かかりつけ医」に相談しましょう。●受診した際には、その後の対応についても相談しましょう。なるべく昼間に受診を!お子さんの急変に注意!!

年末年始の当番医一覧(夜間救急医療機関ではありません。)※当番医が変更になる場合もございますので、受診前にあらかじめご確認ください。

Table with columns for date (12月29日, 30日, 31日, 1月1日, 2日, 3日) and lists of medical facilities with their names, addresses, and phone numbers.

熱のある方、新型コロナウイルス感染症の疑いがある方の受診に注意が必要です



院内感染の原因となるかもしれませんので、いきなり医療機関を受診することは避けましょう。検査ができるかどうか、受診してよい時間帯など注意事項の確認をしてください。かかりつけ医が休診の場合や当番医が検査・受診出来ない場合もあります。その場合は、「いわて健康フォローアップセンター」に電話で相談し、最寄りの診療・検査医療機関を確認してください。



※岩手県ホームページで県内の「外来対応医療機関(診療・検査医療機関)一覧」があります。

いわて健康フォローアップセンター 受付時間: 24時間/全日(土日・祝日を含む) 電話: 0570-089-005 FAX: 050-3730-7658

※夜間のご相談の場合は診療時間外である医療機関が多いため、実際の受診が翌日以降になる場合があります。

Advertisement for children's emergency consultation phone (019-605-9000) with a QR code and contact information.

Advertisement for Iwate Medical Association (岩手県医師会) with QR code and contact information.

〒020-8584 盛岡市葉園2丁目8-20 TEL.019-651-1455 FAX.019-654-3589 協賛 岩手県医師会信用組合・岩手県予防医学協会・JA岩手県厚生連

令和5年12月23日(土)

岩手日報

以上が令和5年度の年末年始外来患者実態調査の結果です。

最後に、新型コロナウイルスが感染症法5類に分類されて初めて迎えた年末年始でした。新型コロナウイルス感染症に加え、令和2年度から4年度の年末年始では流行しなかったインフルエンザウイルス感染症が令和5年12月に大流行し、年末年始目前の第49週には定点当たりの患者数が40.06とピークを迎えました。その後、年末に向けて患者数は減少していったものの、第52週は定点当たりの患者数が21.79と、注意報レベルのまま年

末年始入りしました。このためか今年度の年末年始の受診者数は、コロナ禍であった過去3年間と比較して2割ほど増加しており、一部の休日救急当番医では終了時刻が17時を大きく超過し、23時近くになった医療機関もありました。数字はお示ししませんが、昨年度は臨時発熱外来を設置したこともあり、ひとつの休日救急当番医(内科)への受診患者数が100人を超えることはありませんでしたが、今年度は12月31日から1月3日まで、計5つの内科医療機関で100人以上の受診がありました。小児科の患者数も昨年度の495人から

今年度は808人と1.6倍になっており、終了時刻が遅くまでずれ込んだ医療機関の存在とあわせ、休日救急当番医の負担をうかがい知ることができます。感染症の流行を事前に予測することはかなり困難ではありますが、今年のゴールデンウィークや次の年末年始など、数週前における5類感染症の動向によっては、臨時の発熱外来の設置を検討する必要性

があるのではないかと考えました。

お陰様をもちまして、本アンケートは毎回100%の回収率となっております。こちらにつきましても、来年度以降もご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(鈴木知己)

Ⅳ 盛岡地区二次救急医療体制 44年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

2023年の二次救急医療体制について、表1から表3に示すような各病院の割当回数と日程により行われた。二次救急および小児救急における患者データはそれぞれ表4、表5のように報告されている。表6には病院毎の月別患者数と年間総数を示す。2023年の二次救急患者総数は34,754名であり、2022年に比して981名増であった。図1に2021年1月1日～2023年12月31日までの3年間の月別患者数分布を示す。2023年は6月までは前2年間とほぼ同様の患者数であるが、7月以降増加を示し、特に8月に著しい増加を示した。

二次救急病院来院患者数においては外来受診のみ患者が27,504名であり、前年比で479名の増加、入院を要した患者は7,250名、前年比で502名増加した。病院別割合では県立中央病院が40.2%、岩手医科大学附属病院が20.2%、盛岡赤十字病院が11.8%であり、市立病院、八角病院、盛岡医療センターの3病院は約6%であった。他の5病院は3%未満であった。救急車搬送数は9,971名で、前年より713名増加した。救急者搬送数の病院別割合は県立中央病院が54.1%、盛岡赤十字病院が13.5%、盛岡医療センターが8.4%、市立病院が5.8%であり、他の病院は4%未満であった。

2023年も各病院で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による病棟閉鎖や救急受け入れ中止などの事態が多発した。

表2 令和5年（2023年1月～12月）二次救急輪番病院年間回数

区分 病院	年 末 年 始	祝 祭 日	日 曜 日	土 曜 日	平 日	年 間 回 数	総 回 数
盛岡市立病院	1	2	6	7	30	46	55
八角病院	0	1	6	6	32	45	52
盛岡つなぎ温泉病院	1	2	7	6	30	46	56
県立中央病院	4	5	21	18	95	143	173
岩手医大附属病院	2	6	19	21	94	142	169
盛岡赤十字病院	0	4	12	11	53	80	96
遠山病院	1	1	7	6	31	46	55
栃内病院	0	2	7	6	30	45	54
盛岡友愛病院	1	0	6	7	32	46	53
川久保病院	2	3	7	7	27	46	58
国立盛岡医療センター	0	4	6	5	30	45	55
計	12	30	104	100	484	730	876

令和5年（2023年1月～12月）小児救急各病院当番コマ数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
中 央	20	18	19	18	20	17	21	21	18	20	20	19	231
日 赤	13	10	11	12	13	11	10	9	11	11	9	12	132
盛岡医療センター	10	9	10	10	9	10	11	10	11	10	11	11	122
合 計	43	37	40	40	42	38	42	40	40	41	40	42	485

表3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表
(令和5年1月～3月)

1月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	日	医大友愛	日赤	日赤
2	月	中中央つなぎ	国立	国立
3	火	中中央川久保	中中央	中中央
4	水	医大遠山	国立	立
5	木	中中央市立	日赤	
6	金	日赤	栃内	中中央
7	土	医大	国立	中中央
8	日	中中央八角	日赤	日赤
9	月	日赤友愛	中中央	中中央
10	火	医大つなぎ	日赤	
11	水	中中央川久保	国立	
12	木	医大遠山	日赤	
13	金	医大市立	日赤	
14	土	中中央	栃内	国立
15	日	日赤	国立	中中央
16	月	医大	八角	中中央
17	火	中中央友愛	日赤	
18	水	日赤	つなぎ	国立
19	木	医大川久保	中中央	
20	金	中中央遠山	日赤	
21	土	中中央市立	中中央	中中央
22	日	医大	栃内	国立
23	月	中中央	国立	日赤
24	火	日赤	八角	中中央
25	水	医大	友愛	国立
26	木	中中央つなぎ	中中央	
27	金	日赤	川久保	中中央
28	土	医大	遠山	日赤
29	日	中中央	市立	中中央
30	月	医大	栃内	日赤
31	火	医大	国立	中中央

中中央 20
日赤 13
国立 10
合計 43

2月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	水	中中央	八角	国立
2	木	日赤	友愛	中中央
3	金	医大	つなぎ	中中央
4	土	中中央	川久保	日赤
5	日	日赤	遠山	中中央
6	月	医大	市立	中中央
7	火	中中央	栃内	日赤
8	水	中中央	八角	国立
9	木	医大	友愛	中中央
10	金	中中央	友愛	日赤
11	土	日赤	つなぎ	国立
12	日	医大	川久保	中中央
13	月	中中央	市立	日赤
14	火	日赤	市立	中中央
15	水	医大	栃内	国立
16	木	中中央	国立	中中央
17	金	医大	八角	国立
18	土	医大	友愛	中中央
19	日	中中央	つなぎ	日赤
20	月	日赤	川久保	中中央
21	火	医大	遠山	日赤
22	水	中中央	市立	国立
23	木	日赤	栃内	中中央
24	金	医大	国立	日赤
25	土	中中央	八角	中中央
26	日	中中央	友愛	国立
27	月	医大	つなぎ	中中央
28	火	中中央	川久保	日赤

中中央 18
日赤 10
国立 9
合計 37

3月	二次救急		小児救急	
	日曜日	A	B	宿直 日直
1	水	日赤	遠山	国立
2	木	医大	市立	中中央
3	金	中中央	栃内	日赤
4	土	日赤	国立	中中央
5	日	医大	八角	国立
6	月	中中央	友愛	日赤
7	火	医大	つなぎ	中中央
8	水	医大	川久保	国立
9	木	中中央	遠山	中中央
10	金	日赤	市立	国立
11	土	医大	栃内	日赤
12	日	中中央	国立	中中央
13	月	日赤	八角	中中央
14	火	医大	友愛	日赤
15	水	中中央	つなぎ	国立
16	木	中中央	川久保	中中央
17	金	医大	遠山	中中央
18	土	中中央	市立	国立
19	日	日赤	栃内	中中央
20	月	医大	国立	日赤
21	火	中中央	八角	中中央
22	水	日赤	友愛	国立
23	木	医大	つなぎ	日赤
24	金	中中央	川久保	中中央
25	土	医大	遠山	日赤
26	日	医大	市立	中中央
27	月	中中央	栃内	日赤
28	火	日赤	国立	中中央
29	水	医大	八角	国立
30	木	中中央	友愛	日赤
31	金	日赤	つなぎ	中中央

中中央 19
日赤 11
国立 10
合計 40

(令和5年4月～6月)

4月	二次救急		小児救急		
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	土	医大川久保	中央	中央	中央
2	日	中央遠山	国立	国立	国立
3	月	中央市立	日赤		
4	火	医大つなぎ	中央		
5	水	中央栃内	国立		
6	木	日赤八角	中央		
7	金	医大友愛	国立		
8	土	中央川久保	日赤	日赤	中央
9	日	日赤川久保	中央	中央	中央
10	月	医大遠山	日赤		
11	火	中央市立	中央		
12	水	医大栃内	国立		
13	木	中央国立	中央		
14	金	中央八角	日赤		
15	土	日赤友愛	国立	国立	国立
16	日	医大つなぎ	中央	中央	中央
17	月	中央川久保	日赤		
18	火	日赤遠山	中央		
19	水	医大市立	国立		
20	木	中央栃内	中央		
21	金	中央国立	日赤		
22	土	医大八角	中央	中央	中央
23	日	中央友愛	日赤	日赤	中央
24	月	日赤つなぎ	中央		
25	火	医大川久保	日赤		
26	水	中央遠山	国立		
27	木	日赤市立	中央		
28	金	医大栃内	国立		
29	土	中央国立	日赤	日赤	中央
30	日	医大八角	中央	中央	中央

5月	二次救急		小児救急		
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	月	医大友愛	中央		
2	火	中央つなぎ	日赤		
3	水	日赤川久保	国立	国立	国立
4	木	医大遠山	中央	中央	中央
5	金	中央市立	日赤	日赤	中央
6	土	日赤栃内	中央	中央	中央
7	日	医大国立	日赤	日赤	中央
8	月	中央八角	中央		
9	火	中央友愛	日赤		
10	水	医大つなぎ	国立		
11	木	中央川久保	中央		
12	金	日赤遠山	国立		
13	土	医大市立	中央	中央	中央
14	日	中央栃内	日赤	日赤	中央
15	月	日赤国立	中央		
16	火	医大八角	中央		
17	水	中央友愛	国立		
18	木	医大つなぎ	日赤		
19	金	医大川久保	中央		
20	土	中央遠山	国立	国立	国立
21	日	日赤市立	中央	中央	中央
22	月	医大栃内	中央		
23	火	中央国立	日赤		
24	水	日赤八角	国立		
25	木	医大友愛	中央		
26	金	中央つなぎ	中央		
27	土	中央川久保	日赤	日赤	中央
28	日	医大遠山	中央	中央	中央
29	月	中央市立	日赤		
30	火	日赤栃内	中央		
31	水	医大八角	国立		

6月	二次救急		小児救急		
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	木	中央国立	日赤		
2	金	日赤友愛	中央		
3	土	医大つなぎ	中央	中央	中央
4	日	中央川久保	国立	国立	国立
5	月	医大遠山	日赤		
6	火	医大市立	中央		
7	水	中央栃内	国立		
8	木	日赤国立	中央		
9	金	医大八角	国立		
10	土	中央友愛	日赤	日赤	中央
11	日	日赤つなぎ	中央	中央	中央
12	月	医大川久保	日赤		
13	火	中央遠山	国立	中央	中央
14	水	中央市立	国立		
15	木	医大栃内	中央		
16	金	中央国立	日赤		
17	土	日赤八角	国立	国立	国立
18	日	医大友愛	中央	中央	中央
19	月	中央つなぎ	日赤		
20	火	日赤川久保	中央		
21	水	医大遠山	国立		
22	木	中央市立	日赤		
23	金	医大栃内	国立		
24	土	医大国立	中央	中央	中央
25	日	中央八角	日赤	日赤	中央
26	月	日赤友愛	中央		
27	火	医大つなぎ	中央		
28	水	中央川久保	国立		
29	木	日赤遠山	中央		
30	金	医大市立	日赤		

中央 18
日赤 12
国立 10
合計 40

中央 20
日赤 13
国立 9
合計 42

中央 17
日赤 11
国立 10
合計 38

(令和5年7月～9月)

7月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	土	中	中央	栃内	国立	国立
2	日	中	中央	国立	中央	中央
3	月	医	中央	八角	日赤	
4	火	中	中央	友愛	中央	
5	水	日	赤	つなぎ	国立	
6	木	医	大	川久保	中央	
7	金	中	中央	遠山	国立	
8	土	日	赤	市立	中央	中央
9	日	医	大	栃内	日赤	日赤
10	月	中	中央	国立	中央	
11	火	医	大	八角	中央	
12	水	医	大	友愛	国立	
13	木	中	中央	つなぎ	日赤	
14	金	日	赤	川久保	中央	
15	土	医	大	遠山	中央	中央
16	日	中	中央	市立	国立	国立
17	月	日	赤	栃内	中央	中央
18	火	医	大	国立	日赤	
19	水	中	中央	八角	国立	
20	木	中	中央	友愛	日赤	
21	金	医	大	つなぎ	中央	
22	土	中	中央	川久保	日赤	日赤
23	日	日	赤	遠山	中央	中央
24	月	医	大	市立	中央	
25	火	中	中央	国立	日赤	
26	水	日	赤	栃内	国立	
27	木	医	大	八角	中央	
28	金	中	中央	友愛	日赤	
29	土	医	大	つなぎ	中央	中央
30	日	医	大	川久保	国立	国立
31	月	中	中央	遠山	中央	

中央 21
日赤 10
国立 11
合計 42

8月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	火	日	赤	市立	中央	
2	水	医	大	栃内	国立	
3	木	中	中央	国立	日赤	
4	金	日	赤	八角	中央	
5	土	医	大	友愛	中央	中央
6	日	中	中央	つなぎ	日赤	日赤
7	月	中	中央	川久保	中央	
8	火	医	大	遠山	国立	日赤
9	水	中	中央	市立	国立	
10	木	日	赤	栃内	中央	
11	金	医	大	国立	中央	中央
12	土	中	中央	八角	国立	国立
13	日	日	赤	友愛	中央	中央
14	月	医	大	つなぎ	中央	
15	火	中	中央	川久保	日赤	
16	水	医	大	遠山	国立	
17	木	医	大	市立	国立	
18	金	中	中央	栃内	国立	
19	土	日	赤	国立	中央	中央
20	日	医	大	八角	日赤	日赤
21	月	中	中央	友愛	中央	
22	火	日	赤	つなぎ	中央	
23	水	医	大	川久保	国立	
24	木	中	中央	遠山	中央	
25	金	中	中央	市立	日赤	
26	土	医	大	栃内	国立	国立
27	日	中	中央	国立	中央	中央
28	月	日	赤	八角	中央	
29	火	医	大	友愛	日赤	
30	水	中	中央	つなぎ	国立	
31	木	日	赤	川久保	中央	

中央 21
日赤 9
国立 10
合計 40

9月	二次救急		小児救急			
	日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	医	大	遠山	中央	
2	土	中	中央	市立	日赤	日赤
3	日	医	大	栃内	中央	中央
4	月	医	大	国立	日赤	
5	火	中	中央	八角	中央	
6	水	日	赤	友愛	国立	
7	木	医	大	つなぎ	中央	
8	金	中	中央	川久保	国立	
9	土	日	赤	遠山	国立	国立
10	日	医	大	市立	中央	中央
11	月	中	中央	栃内	日赤	
12	火	中	中央	国立	中央	
13	水	医	大	八角	国立	
14	木	中	中央	友愛	中央	
15	金	日	赤	つなぎ	国立	
16	土	医	大	川久保	中央	中央
17	日	中	中央	遠山	日赤	日赤
18	月	日	赤	市立	中央	中央
19	火	医	大	栃内	日赤	
20	水	中	中央	八角	国立	
21	木	医	大	国立	中央	
22	金	医	大	友愛	国立	
23	土	中	中央	つなぎ	中央	中央
24	日	日	赤	川久保	国立	国立
25	月	医	大	遠山	中央	
26	火	中	中央	市立	日赤	
27	水	日	赤	遠山	国立	
28	木	医	大	国立	中央	
29	金	中	中央	八角	国立	
30	土	中	中央	友愛	日赤	日赤

中央 18
日赤 11
国立 11
合計 40

(令和5年10月～12月)

10月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	日	医大	つなぎ	中	中
2	月	中	川久保	日	赤
3	火	日	遠山	中	中
4	水	医大	市立	国	立
5	木	中	栃内	日	赤
6	金	日	赤	中	中
7	土	医大	八角	中	中
8	日	中	友愛	国	立
9	月	医大	つなぎ	中	中
10	火	医大	川久保	日	赤
11	水	中	市立	国	立
12	木	日	赤	中	中
13	金	医大	栃内	国	立
14	土	中	国	日	赤
15	日	日	赤	中	中
16	月	医大	友愛	中	中
17	火	中	つなぎ	日	赤
18	水	中	川久保	国	立
19	木	医大	遠山	中	中
20	金	中	市立	国	立
21	土	日	赤	国	立
22	日	医大	国	中	中
23	月	中	八角	日	赤
24	火	日	友愛	中	中
25	水	医大	つなぎ	国	立
26	木	中	川久保	日	赤
27	金	医大	遠山	国	立
28	土	医大	市立	中	中
29	日	中	栃内	日	赤
30	月	日	赤	中	中
31	火	医大	八角	日	赤

中 央 20
日 赤 11
国 立 10
合 計 41

11月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	水	中	友愛	国	立
2	木	日	赤	中	中
3	金	医大	川久保	中	中
4	土	中	遠山	国	立
5	日	中	市立	日	赤
6	月	医大	栃内	中	中
7	火	中	国	中	中
8	水	日	八角	国	立
9	木	医大	友愛	中	中
10	金	中	つなぎ	中	中
11	土	日	赤	中	中
12	日	医大	遠山	日	赤
13	月	中	市立	中	中
14	火	医大	国	中	中
15	水	医大	栃内	国	立
16	木	中	八角	日	赤
17	金	日	赤	中	中
18	土	医大	つなぎ	中	中
19	日	中	川久保	国	立
20	月	日	赤	日	赤
21	火	医大	市立	日	赤
22	水	中	栃内	国	立
23	木	中	国	中	中
24	金	医大	八角	国	立
25	土	中	友愛	日	赤
26	日	日	赤	中	中
27	月	医大	川久保	中	中
28	火	中	遠山	日	赤
29	水	日	市立	国	立
30	木	医大	栃内	中	中

中 央 20
日 赤 9
国 立 11
合 計 40

12月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	中	国	立	日
2	土	医大	八角	国	立
3	日	医大	友愛	中	中
4	月	中	つなぎ	日	赤
5	火	日	赤	中	中
6	水	医大	遠山	国	立
7	木	中	市立	中	中
8	金	日	赤	国	立
9	土	医大	国	立	日
10	日	中	八角	中	中
11	月	中	友愛	日	赤
12	火	医大	つなぎ	中	中
13	水	中	川久保	国	立
14	木	日	赤	中	中
15	金	中	市立	日	赤
16	土	中	栃内	国	立
17	日	日	赤	中	中
18	月	医大	八角	中	中
19	火	中	友愛	日	赤
20	水	医大	つなぎ	国	立
21	木	医大	川久保	中	中
22	金	中	遠山	日	赤
23	土	日	赤	中	中
24	日	医大	栃内	日	赤
25	月	中	国	立	中
26	火	日	赤	中	中
27	水	医大	友愛	国	立
28	木	中	つなぎ	中	中
29	金	中	川久保	国	立
30	土	医大	遠山	中	中
31	日	中	市立	日	赤

中 央 19
日 赤 12
国 立 11
合 計 42

表 4 二次救急患者データ

月	日	1日			2日 輪番日			3日 輪番日			4日			5日 輪番日			6日			7日									
曜	日	日			月			火			水			木			金			土									
病	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院				
		救急車		救急車	救急車		救急車	救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車		救急車	救急車		救急車	救急車	救急車				
深 夜	AM0 ~ AM6	内科系	1		1				1	1	2			1			1	1				1			1				
		外科系	1	1	1				1	2		1	2		1			1			1			1		1			
	産科									1																			
	その他	2			2	2	1	1	1		1	2		1	1	1	1	1					2						
時 間 外	AM6 ~ AM9	内科系	1		1	1			1				1	1	1	1									2				
		外科系			2	1						3		1	1				2							1			
	産科																												
	その他		1				2						1	2															
土 曜 日	AM9 ~ PM0	内科系																				1	1		4				
		外科系																					7	1	1				
	小児科																					1							
	産科																												
土 曜 日	PM0 ~ PM5	内科系																				1			2				
		外科系																					3		3				
	小児科																					2	1	1					
	産科																												
日 祭 日	AM9 ~ PM5	内科系	3	1	3	4	1	3	2	2	3	2	1	2															
		外科系	4			1	6	1		2	1	2	1	1															
	小児科								1	6																			
	産科								1																				
時 間 外	PM5 ~ PM8	内科系			3						2	1	1	1			1	1	2	1			1	1	1				
		外科系	2		2	1	2			1	2	2	1	1			1	3	1		1				3				
	小児科			1					1								3					3							
	産科																												
夜 間	PM8 ~ PM12	内科系	1		1	2	1	1	1	1	1	1	1									2	1	1	1	3			
		外科系	4	1	1	3	1		1	1	1	1		3			2		1	1			1		2				
	小児科							7										1	1			3							
	産科																												
合	計	23	6	6	17	26	14	2	13	34	11	5	14	12	9	2	7	7	6	2	7	16	2	1	7	29	9	6	23

二次救急患者（以下二次患者と略記す）データについては表4に示す通り、小児救急患者（以下小児患者と略記す）（以下小児患者と略記す）については表5に示す通りの資料を各二次救急医療病院より各病院事務長の責任において1ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表5 小児救急患者データ

月日		1日				2日 輪番日				3日				4日				5日 輪番日				6日				7日							
曜日		日				月				火				水				木				金				土							
病院名		外		来		入		院		外		来		入		院		外		来		入		院		外		来		入		院	
		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車		救急車			
深夜	AM0 ~ AM6																																
	時間外																																
土曜日	AM9 ~ PM0	5																															
	土曜日					2		1										1															
日曜日	AM9 ~ PM5					3																											
	時間外									3	1																						
時間外	PM8 ~ PM12	1																															
	合計	6	0	0	0	5	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中央病院	1,090	1,069	1,044	1,005	1,295	1,114	1,458	1,361	1,034	1,168	1,181	1,137	13,956	1,163	40.2
日赤病院	358	297	261	296	364	306	380	424	334	348	338	395	4,101	342	11.8
市立病院	160	126	105	126	174	137	195	198	199	180	174	195	1,969	164	5.7
遠山病院	32	13	18	15	20	17	28	49	41	26	30	42	331	28	1.0
八角病院	169	82	91	101	216	153	223	319	217	139	247	206	2,163	180	6.2
岩手医大	536	431	524	517	654	550	669	815	652	591	515	559	7,013	584	20.2
栃内病院	48	72	45	36	46	36	89	56	39	48	80	48	643	54	1.9
つなぎ温泉病院	82	36	37	37	59	32	76	108	72	49	49	118	755	63	2.2
友愛病院	58	57	67	63	75	63	90	118	81	75	70	88	905	75	2.6
川久保病院	30	16	22	157	26	21	147	42	247	36	206	48	998	83	2.9
盛岡医療センター	119	151	124	109	151	164	217	235	147	145	191	167	1,920	160	5.5
合計	2,682	2,350	2,338	2,462	3,080	2,593	3,572	3,725	3,063	2,805	3,081	3,003	34,754	2,896	100

図 1 二次救急病院来院患者総数月別分布

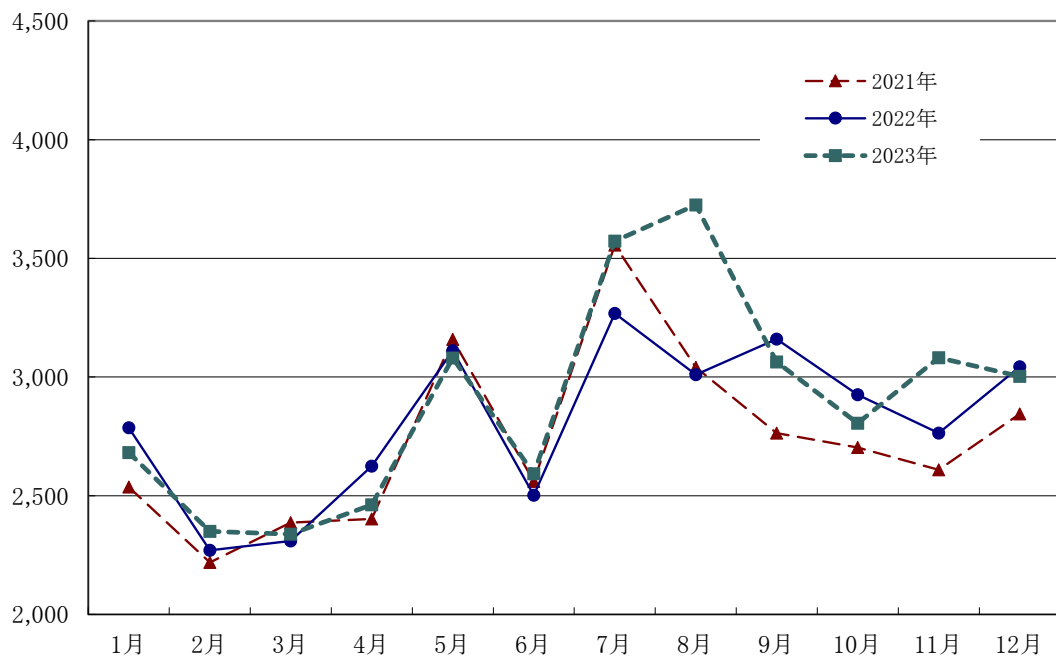


表7 二次救急病院における来院患者の実態（年間総数）

2023年1月 ～12月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	9,909 ^名	36.0 [%]	4,047 ^名	55.8 [%]	5,393 ^名	54.1 [%]	13,956 ^名
日 赤 病 院	3,213	11.7	888	12.2	1,348	13.5	4,101
市 立 病 院	1,735	6.3	234	3.2	580	5.8	1,969
遠 山 病 院	255	0.9	76	1.0	227	2.3	331
八 角 病 院	2,010	7.3	153	2.1	286	2.9	2,163
岩 手 医 大	6,040	22.0	973	13.4	214	2.1	7,013
栃 内 病 院	592	2.2	51	0.7	188	1.9	643
つなぎ温泉病院	538	2.0	217	3.0	339	3.4	755
友 愛 病 院	765	2.8	140	1.9	383	3.8	905
川 久 保 病 院	904	3.3	94	1.3	177	1.8	998
盛岡医療センター	1,543	5.6	377	5.2	836	8.4	1,920
合 計	27,504	100	7,250	100	9,971	100	34,754

表8 二次救急病院における来院患者の実態（月平均）

2023年1月 ～12月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	826 ^名	337 ^名	449 ^名	1,163 ^名
日 赤 病 院	268	74	112	342
市 立 病 院	145	20	48	164
遠 山 病 院	21	6	19	28
八 角 病 院	168	13	24	180
岩 手 医 大	503	81	18	584
栃 内 病 院	49	4	16	54
つなぎ温泉病院	45	18	28	63
友 愛 病 院	64	12	32	75
川 久 保 病 院	75	8	15	83
盛岡医療センター	129	31	70	160
合 計	2,292	604	831	2,896

図2 二次救急病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）

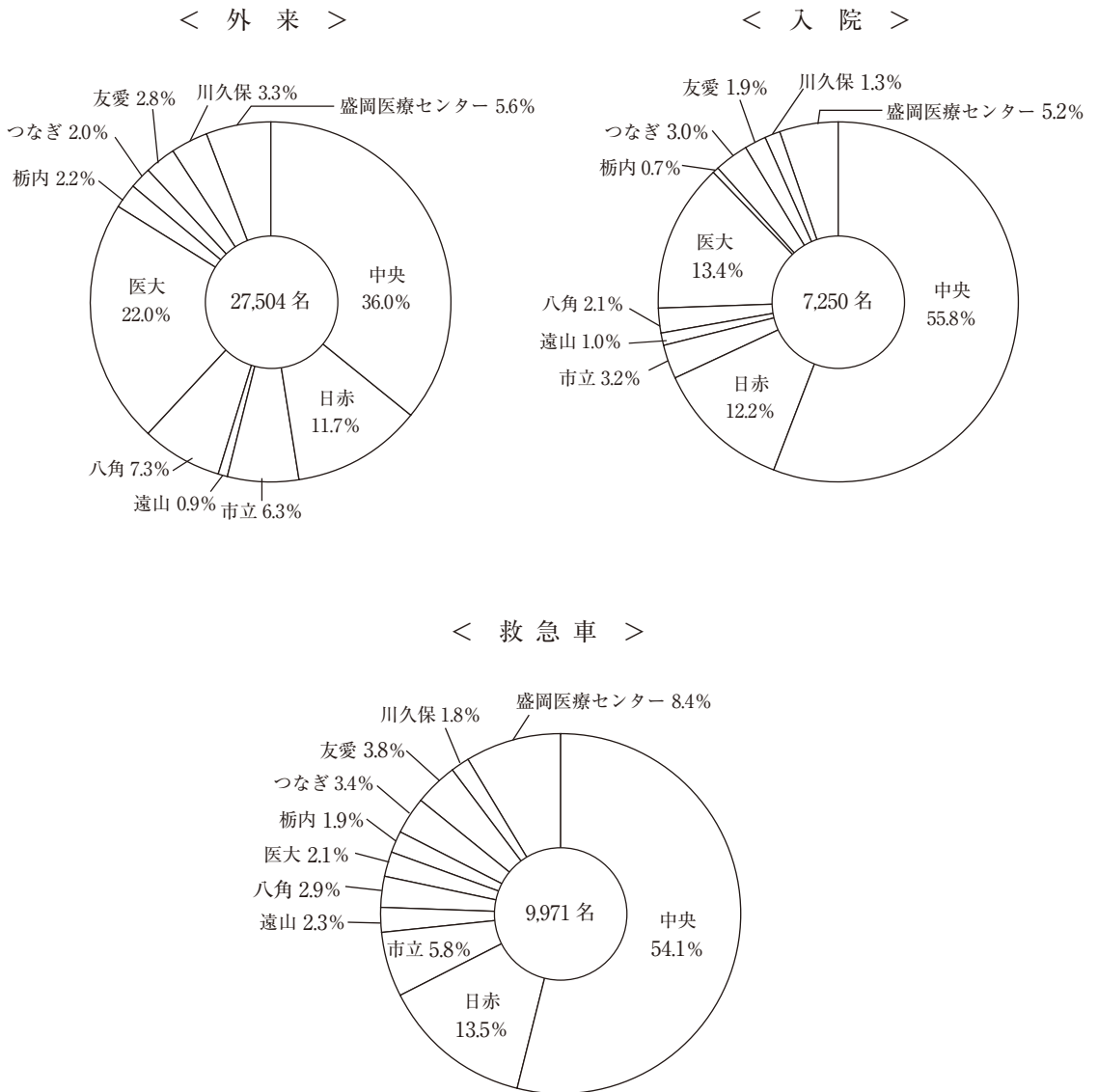


表9 二次救急病院における救急車搬入患者内訳 (2023.1～2023.12)

時間帯 (表4参照)	外 来		入 院		科 別	外 来		入 院	
	患者数	比 率	患者数	比 率		患者数	比 率	患者数	比 率
深 夜	1,000	17.1	605	14.6	内 科 系	2,104	36.1	2,189	52.9
時間外 A	747	12.8	558	13.5	外 科 系	1,761	30.2	1,241	30.0
土曜日 (1)	258	4.4	191	4.6	そ の 他	1,966	33.7	710	17.1
土曜日 (2)	463	7.9	335	8.1	計	5,831	(100)	4,140	(100)
日 祭 日	822	14.1	580	14.0					
時間外 B	1,277	21.9	1,023	24.7					
夜 間	1,264	21.7	848	20.5					
計	5,831	(100)	4,140	(100)					

図3 二次救急病院における救急車搬入内訳

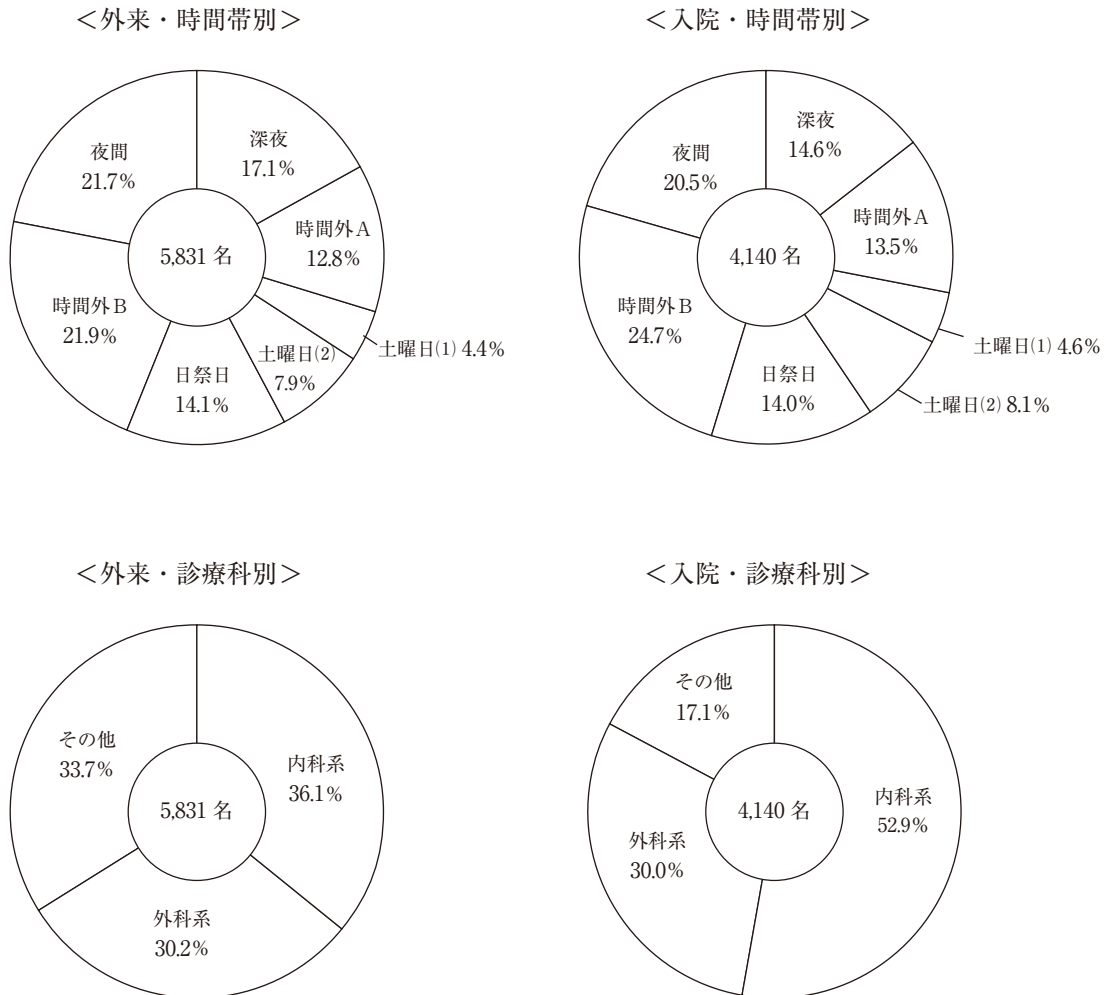
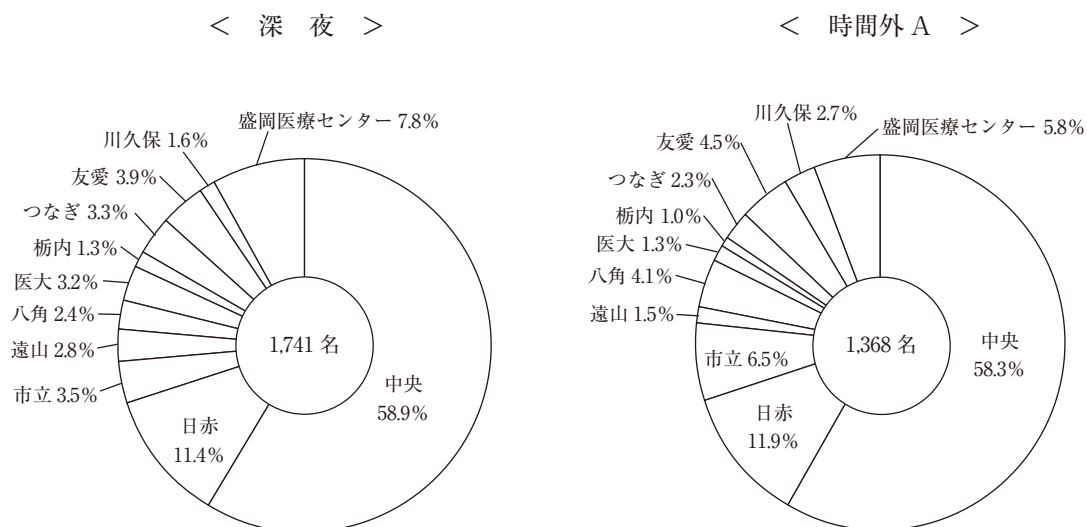


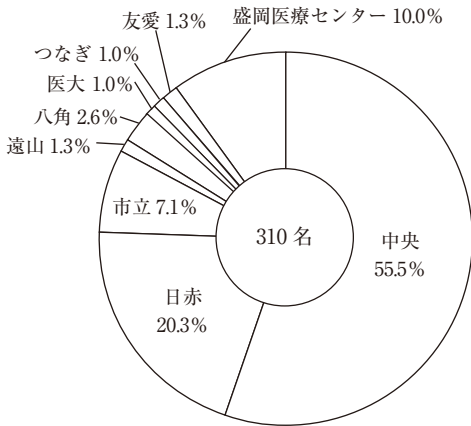
表 10 二次救急病院における病院別救急車搬入患者内訳 (2023. 1 ~ 2023. 12)

	深夜		時間外A		土曜日(1)		土曜日(2)		日祭日		時間外B		夜間		総合	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	1,025	58.9	798	58.3	172	55.5	291	49.9	604	46.5	1,292	53.5	1,211	53.7	5,393	54.1
日赤病院	199	11.4	163	11.9	63	20.3	100	17.2	202	15.6	315	13.0	306	13.6	1,348	13.5
市立病院	61	3.5	89	6.5	22	7.1	34	5.8	97	7.5	152	6.3	125	5.5	580	5.8
遠山病院	48	2.8	21	1.5	4	1.3	25	4.3	27	2.1	40	1.7	62	2.7	227	2.3
八角病院	42	2.4	56	4.1	8	2.6	22	3.8	35	2.7	59	2.4	64	2.8	286	2.9
岩手医大	55	3.2	18	1.3	3	1.0	9	1.5	36	2.8	52	2.2	41	1.8	214	2.1
栃内病院	22	1.3	14	1.0	0	0.0	4	0.7	41	3.2	61	2.5	46	2.0	188	1.9
つなぎ温泉病院	57	3.3	32	2.3	3	1.0	24	4.1	57	4.4	82	3.4	84	3.7	339	3.4
友愛病院	68	3.9	61	4.5	4	1.3	11	1.9	52	4.0	110	4.6	77	3.4	383	3.8
川久保病院	28	1.6	37	2.7	0	0.0	7	1.2	22	1.7	46	1.9	37	1.6	177	1.8
盛岡医療センター	136	7.8	79	5.8	31	10.0	56	9.6	125	9.6	207	8.6	202	9.0	836	8.4
合計	1,741	(100)	1,368	(100)	310	(100)	583	(100)	1,298	(100)	2,416	(100)	2,255	(100)	9,971	(100)

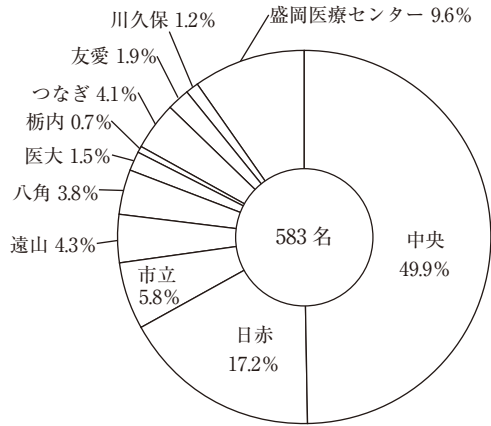
図 4 二次救急病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳



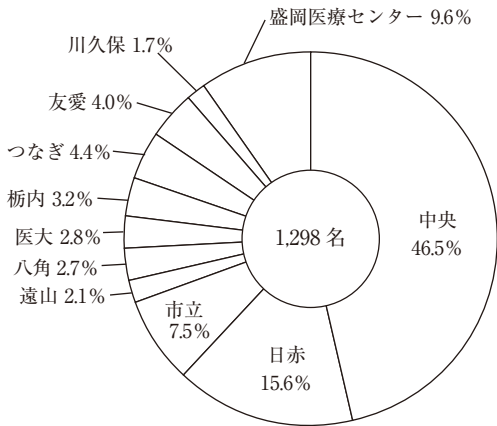
< 土曜日(1) >



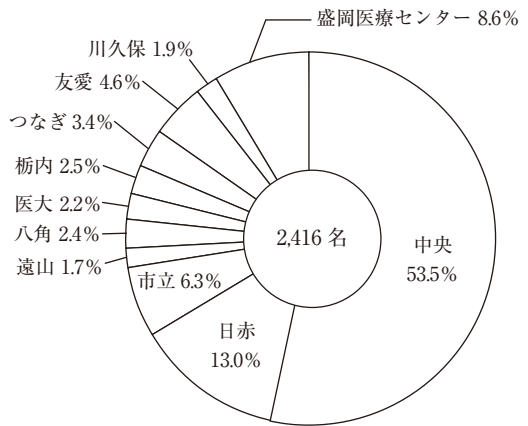
< 土曜日(2) >



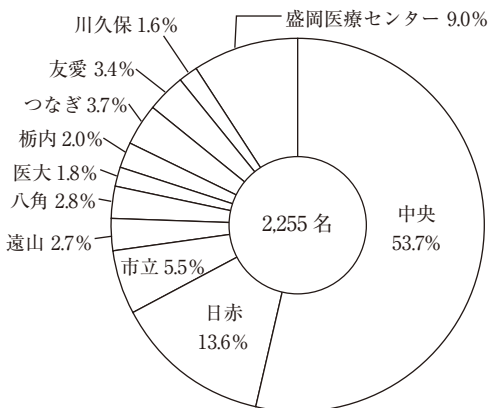
< 日祭日 >



< 時間外 B >



< 夜間 >



< 総合 >

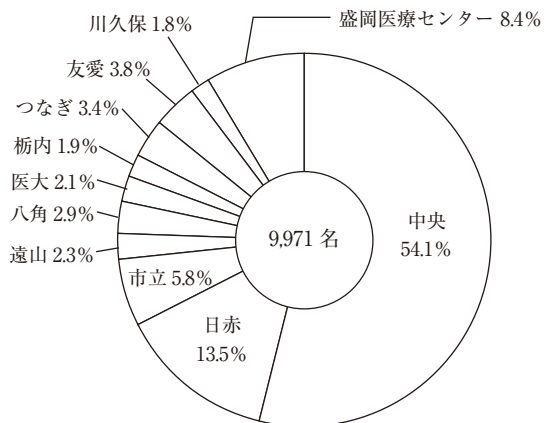


表 11 二次救急病院における外来・入院総合分布（系別による分類Ⅰ）

年間総数		総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	1,845	1,927	3,772	153.8	160.6	314.3
	外科系	2,584	1,177	3,761	215.3	98.1	313.4
	その他	5,480	943	6,423	456.7	78.6	535.3
日赤病院	内科系	758	256	1,014	63.2	21.3	84.5
	外科系	1,462	342	1,804	121.8	28.5	150.3
	その他	993	290	1,283	82.8	24.2	106.9
市立病院	内科系	814	131	945	67.8	10.9	78.8
	外科系	911	103	1,014	75.9	8.6	84.5
	その他	10	0	10	0.8	0.0	0.8
遠山病院	内科系	255	76	331	21.3	6.3	27.6
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	1,737	139	1,876	144.8	11.6	156.3
	外科系	272	14	286	22.7	1.2	23.8
	その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
岩手医大	内科系	3,063	502	3,565	255.3	41.8	297.1
	外科系	2,183	271	2,454	181.9	22.6	204.5
	その他	794	200	994	66.2	16.7	82.8
栃内病院	内科系	20	1	21	1.7	0.1	1.8
	外科系	572	50	622	47.7	4.2	51.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.1
つなぎ温泉病院	内科系	538	217	755	44.8	18.1	62.9
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	484	107	591	40.3	8.9	49.3
	外科系	61	8	69	5.1	0.7	5.8
	その他	220	25	245	18.3	2.1	20.4
川久保病院	内科系	402	92	494	33.5	7.7	41.2
	外科系	5	2	7	0.4	0.2	0.6
	その他	497	0	497	41.4	0.0	41.4
盛岡医療センター	内科系	341	165	506	28.4	13.8	42.2
	外科系	552	96	648	46.0	8.0	54.0
	その他	650	116	766	54.2	9.7	63.8
合 計	内科系	10,257	3,613	13,870	854.8	301.1	1,155.8
	外科系	8,601	2,063	10,664	716.8	171.9	888.7
	その他	8,646	1,574	10,220	720.5	131.2	851.7
総 合 計		27,504	7,250	34,754	2,292.0	604.2	2,896.2
				1日平均	75.4	19.9	95.2

表 12 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	3,772	27.2	3,761	35.3	6,423	62.8
日赤病院	1,014	7.3	1,804	16.9	1,283	12.6
市立病院	945	6.8	1,014	9.5	10	0.1
遠山病院	331	2.4	0	0.0	0	0.0
八角病院	1,876	13.5	286	2.7	1	0.01
岩手医大	3,565	25.7	2,454	23.0	994	9.7
栃内病院	21	0.2	622	5.8	0	0.0
つなぎ温泉病院	755	5.4	0	0.0	0	0.0
友愛病院	591	4.3	69	0.6	245	2.4
川久保病院	494	3.6	7	0.1	497	4.9
盛岡医療センター	506	3.6	648	6.1	766	7.5
合 計	13,870	(100)	10,664	(100)	10,220	(100)

図 5 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類）

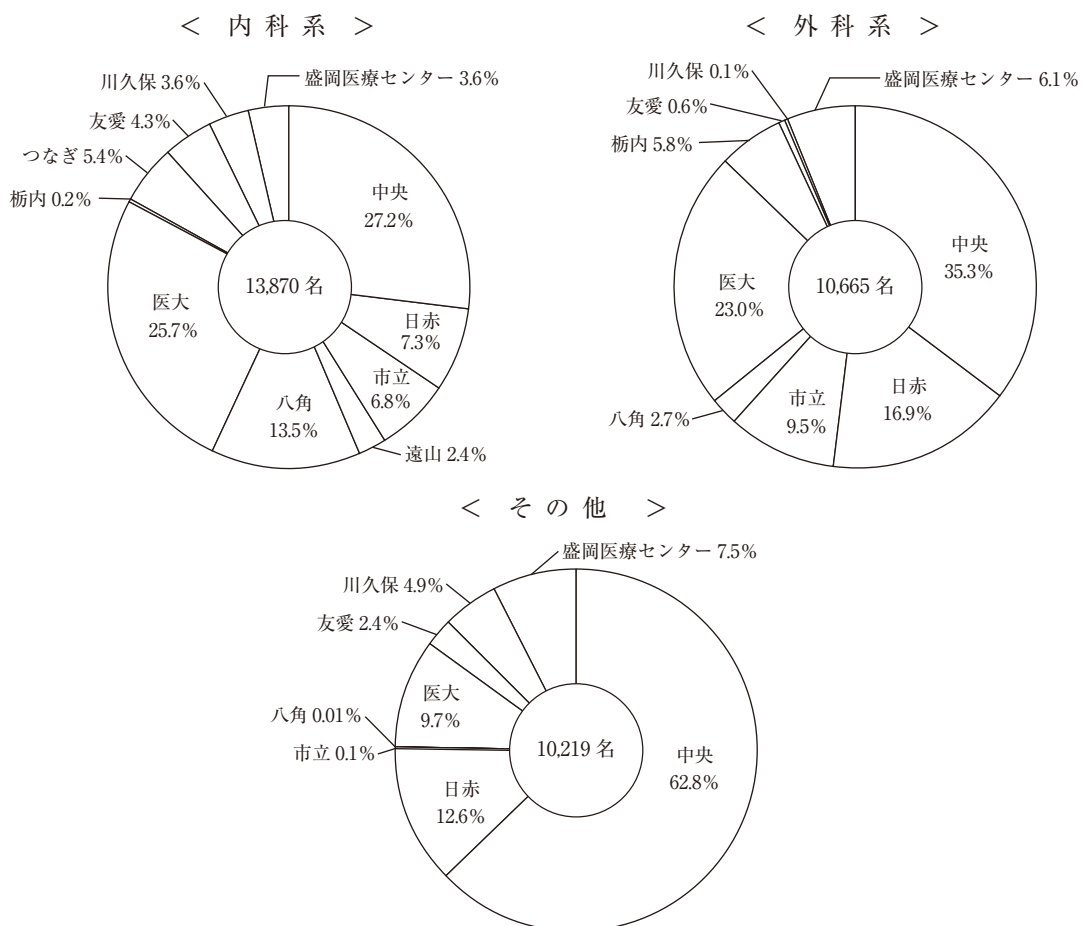


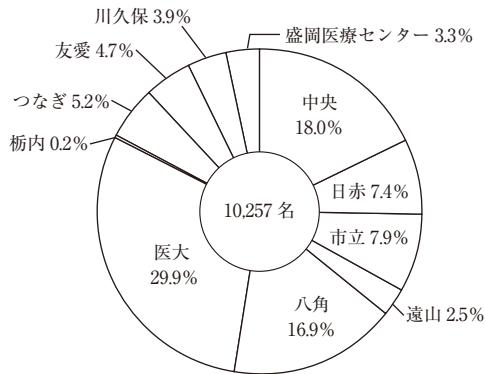
表 13 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	外 来						入 院					
	内 科 系		外 科 系		そ の 他		内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	1,845	18.0	2,584	30.0	5,480	63.4	1,927	53.3	1,177	57.1	943	59.9
日赤病院	758	7.4	1,462	17.0	993	11.5	256	7.1	342	16.6	290	18.4
市立病院	814	7.9	911	10.6	10	0.1	131	3.6	103	5.0	0	0.0
遠山病院	255	2.5	0	0.0	0	0.0	76	2.1	0	0.0	0	0.0
八角病院	1,737	16.9	272	3.2	1	0.01	139	3.8	14	0.7	0	0.0
岩手医大	3,063	29.9	2,183	25.4	794	9.2	502	13.9	271	13.1	200	12.7
栃内病院	20	0.2	572	6.6	0	0.0	1	0.03	50	2.4	0	0.0
つなぎ温泉病院	538	5.2	0	0.0	0	0.0	217	6.0	0	0.0	0	0.0
友愛病院	484	4.7	61	0.7	220	2.5	107	3.0	8	0.4	25	1.6
川久保病院	402	3.9	5	0.1	497	5.7	92	2.5	2	0.1	0	0.0
盛岡医療センター	341	3.3	552	6.4	650	7.5	165	4.6	96	4.7	116	7.4
合 計	10,257	(100)	8,602	(100)	8,645	(100)	3,613	(100)	2,063	(100)	1,574	(100)

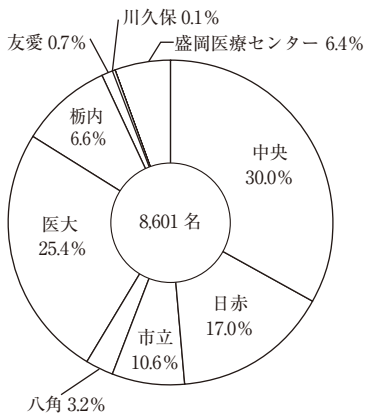
図6 二次救急病院における来院患者の外来・入院病院別分布

< 外来分布 >

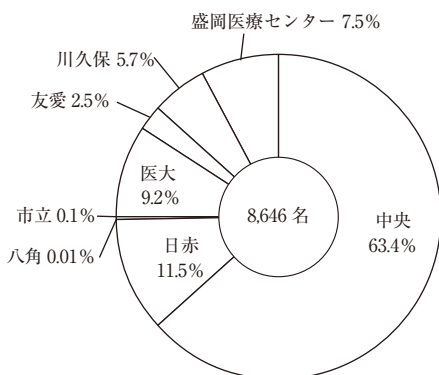
< 内科系 >



< 外科系 >

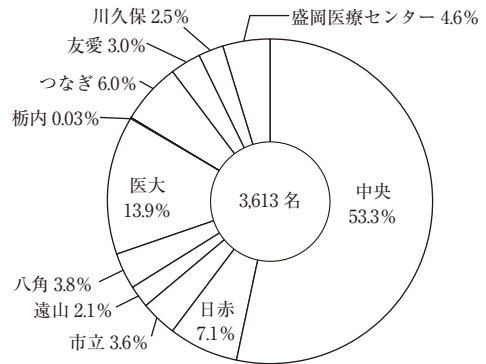


< その他 >

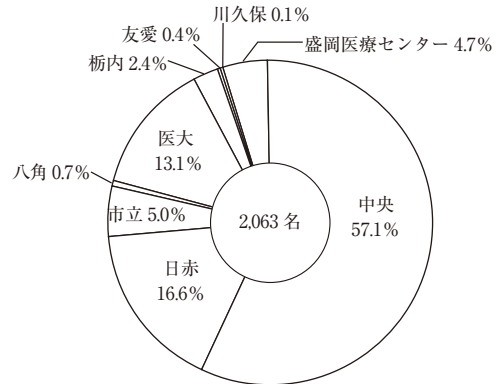


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

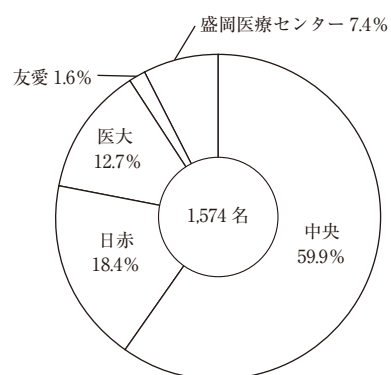


表 14 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

		外 来		入 院	
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
内 科 系	深 夜	1,215	11.9	482	13.3
	時 間 外 A	998	9.7	430	11.9
	土 曜 日 (1)	834	8.1	197	5.5
	土 曜 日 (2)	764	7.4	340	9.4
	日 祭 日	2,170	21.2	563	15.6
	時 間 外 B	2,232	21.8	939	26.0
	夜 間	2,044	19.9	662	18.3
	計	10,257	100	3,613	100
外 科 系	深 夜	675	7.8	253	12.3
	時 間 外 A	703	8.2	240	11.6
	土 曜 日 (1)	664	7.7	123	6.0
	土 曜 日 (2)	895	10.4	248	12.0
	日 祭 日	1,761	20.5	328	15.9
	時 間 外 B	2,088	24.3	510	24.7
	夜 間	1,816	21.1	361	17.5
	計	8,602	100	2,063	100
そ の 他	深 夜	1,118	12.9	255	16.2
	時 間 外 A	664	7.7	109	6.9
	土 曜 日 (1)	415	4.8	94	6.0
	土 曜 日 (2)	764	8.8	139	8.8
	日 祭 日	1,694	19.6	226	14.4
	時 間 外 B	1,947	22.5	372	23.6
	夜 間	2,043	23.6	379	24.1
	計	8,645	100	1,574	100
総 計		27,504		7,250	

図7 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

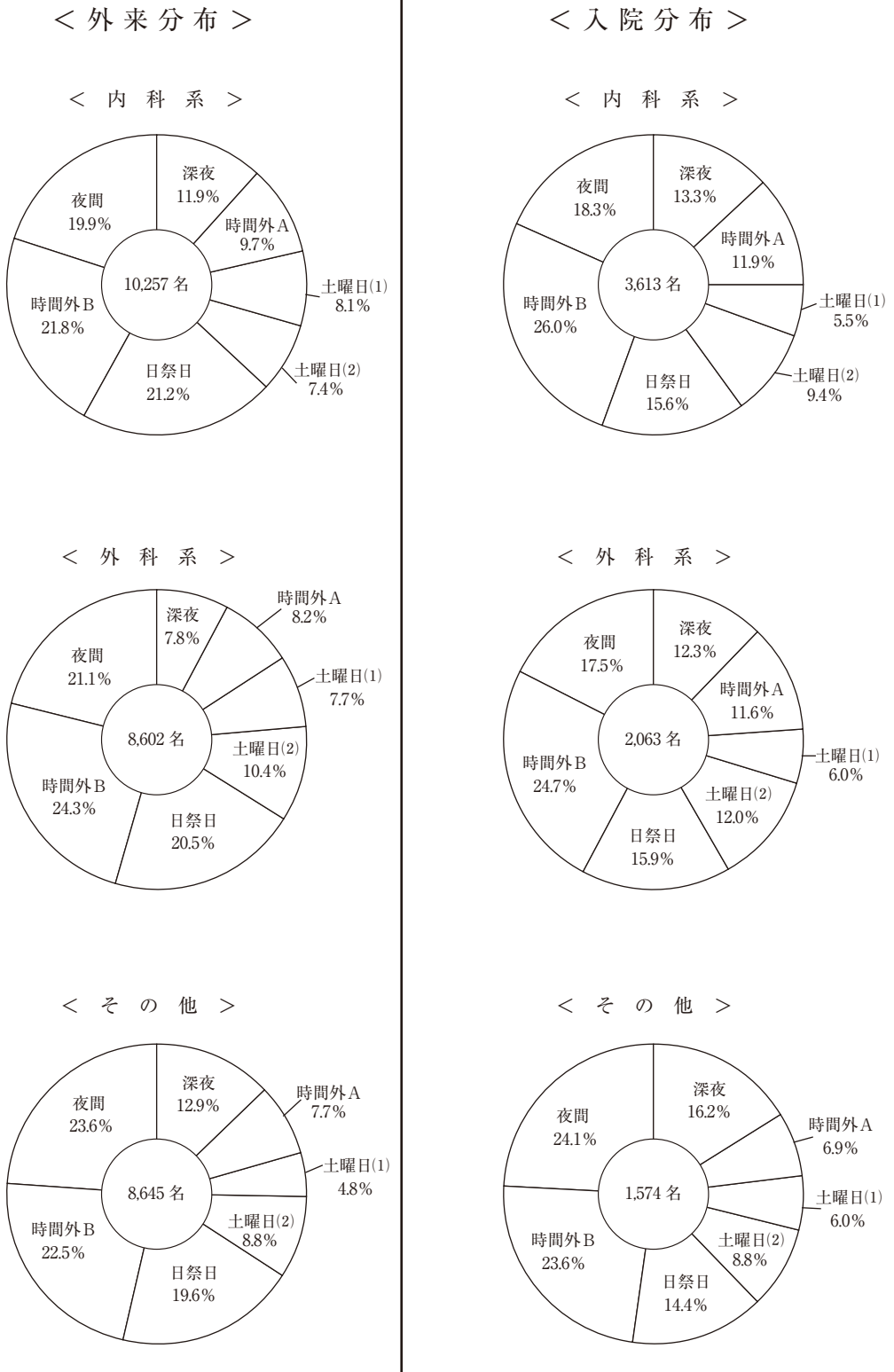


図8 二次救急病院における時間帯別外来患者比率

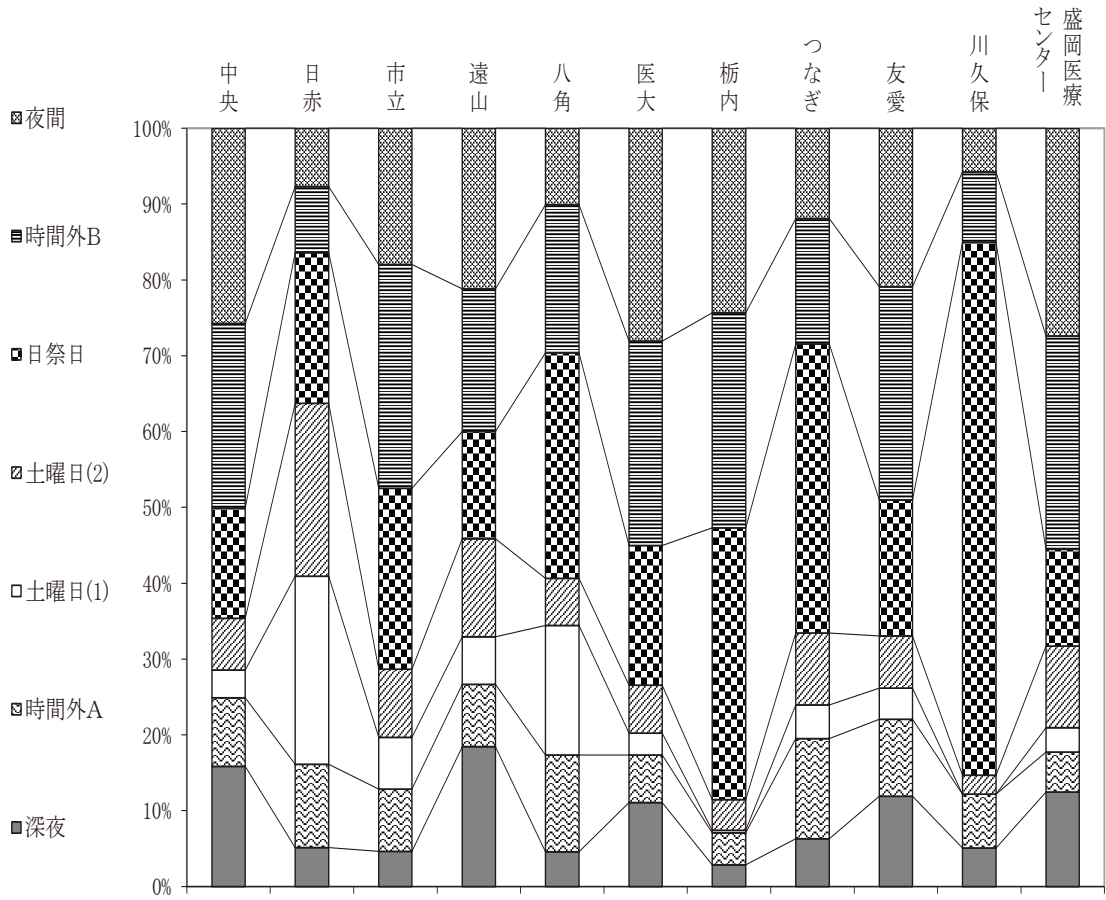


図9 二次救急病院における時間帯別入院患者比率

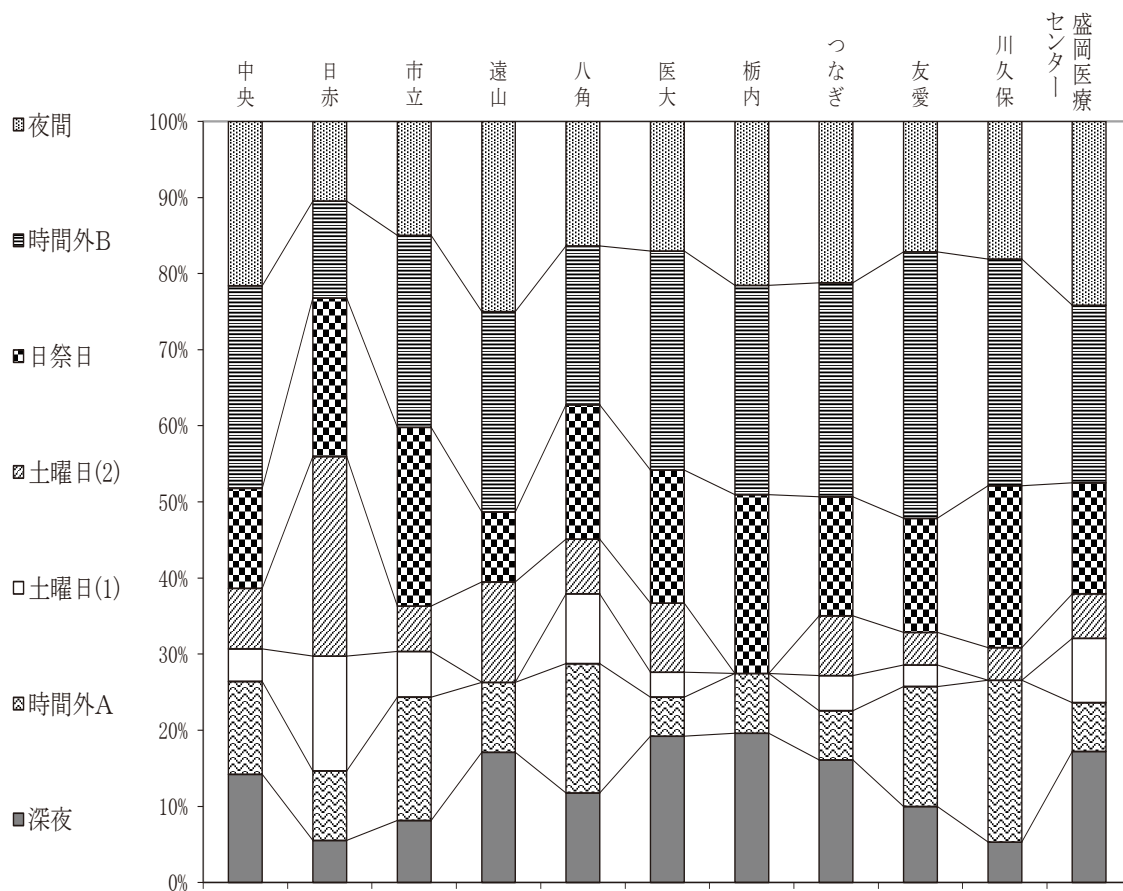


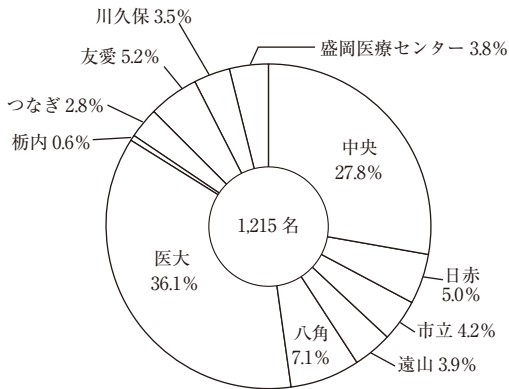
表 15 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

深夜 (AM0～AM6)	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	338	257	595	28.2	21.4	49.6
	外科系	351	152	503	29.3	12.7	41.9
	その他	883	166	1,049	73.6	13.8	87.4
日赤病院	内科系	61	12	73	5.1	1.0	6.1
	外科系	75	24	99	6.3	2.0	8.3
	その他	30	13	43	2.5	1.1	3.6
市立病院	内科系	51	10	61	4.3	0.8	5.1
	外科系	30	9	39	2.5	0.8	3.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	47	13	60	3.9	1.1	5.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	86	17	103	7.2	1.4	8.6
	外科系	6	1	7	0.5	0.1	0.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	439	95	534	36.6	7.9	44.5
	外科系	167	44	211	13.9	3.7	17.6
	その他	64	48	112	5.3	4.0	9.3
栃内病院	内科系	7	1	8	0.6	0.1	0.7
	外科系	10	9	19	0.8	0.8	1.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	34	35	69	2.8	2.9	5.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	63	9	72	5.3	0.8	6.0
	外科系	3	1	4	0.3	0.1	0.3
	その他	25	4	29	2.1	0.3	2.4
川久保病院	内科系	43	5	48	3.6	0.4	4.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
盛岡医療センター	内科系	46	28	74	3.8	2.3	6.2
	外科系	33	13	46	2.8	1.1	3.8
	その他	113	24	137	9.4	2.0	11.4
合 計	内科系	1,215	482	1,697	101.3	40.2	141.4
	外科系	675	253	928	56.3	21.1	77.3
	その他	1,118	255	1,373	93.2	21.3	114.4
総 合 計		3,008	990	3,998	250.7	82.5	333.2
				1日平均	8.2	2.7	11.0

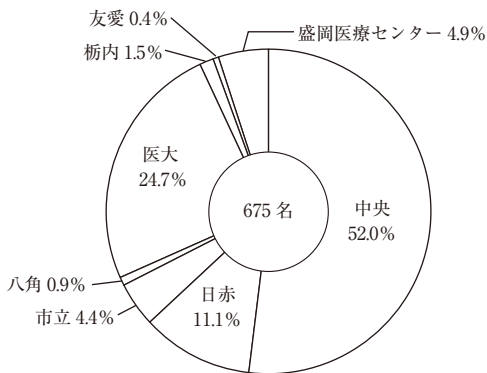
図 10 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

< 外来分布 >

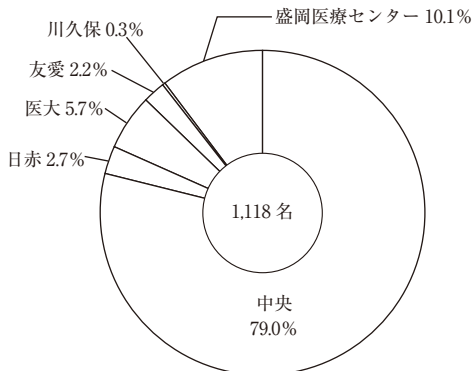
< 内科系 >



< 外科系 >

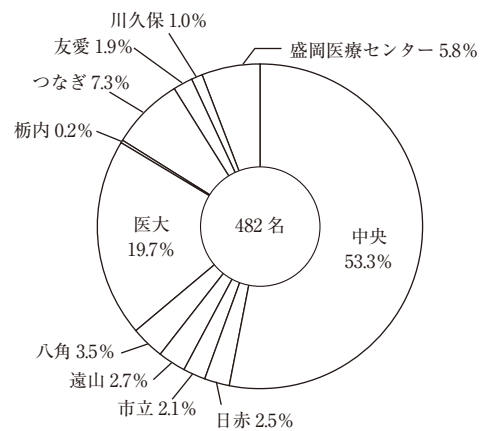


< その他 >

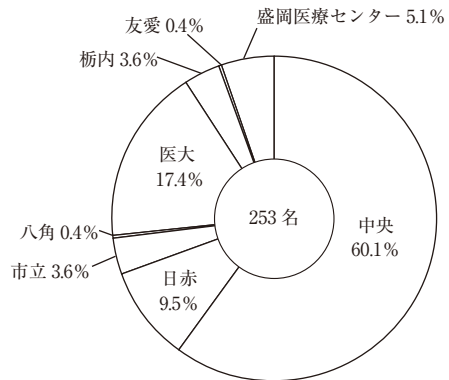


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

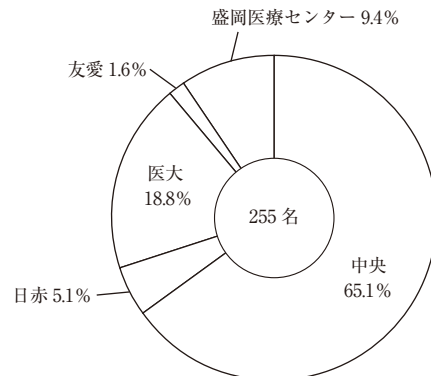


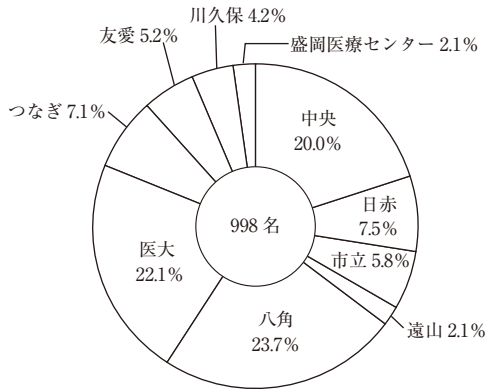
表 16 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

時間外A (AM6～AM9)	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	200	263	463	16.7	21.9	38.6
	外科系	232	161	393	19.3	13.4	32.8
	その他	462	69	531	38.5	5.8	44.3
日赤病院	内科系	75	26	101	6.3	2.2	8.4
	外科系	186	34	220	15.5	2.8	18.3
	その他	91	21	112	7.6	1.8	9.3
市立病院	内科系	58	21	79	4.8	1.8	6.6
	外科系	84	17	101	7.0	1.4	8.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	21	7	28	1.8	0.6	2.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	237	24	261	19.8	2.0	21.8
	外科系	20	2	22	1.7	0.2	1.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	221	23	244	18.4	1.9	20.3
	外科系	119	13	132	9.9	1.1	11.0
	その他	39	14	53	3.3	1.2	4.4
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	25	4	29	2.1	0.3	2.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	71	14	85	5.9	1.2	7.1
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	52	17	69	4.3	1.4	5.8
	外科系	7	2	9	0.6	0.2	0.8
	その他	19	3	22	1.6	0.3	1.8
川久保病院	内科系	42	20	62	3.5	1.7	5.2
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	22	0	22	1.8	0.0	1.8
盛岡医療センター	内科系	21	15	36	1.8	1.3	3.0
	外科系	30	7	37	2.5	0.6	3.1
	その他	31	2	33	2.6	0.2	2.8
合 計	内科系	998	430	1,428	83.2	35.8	119.0
	外科系	703	240	943	58.6	20.0	78.6
	その他	664	109	773	55.3	9.1	64.4
総 合 計		2,365	779	3,144	197.1	64.9	262.0
				1日平均	6.5	2.1	8.6

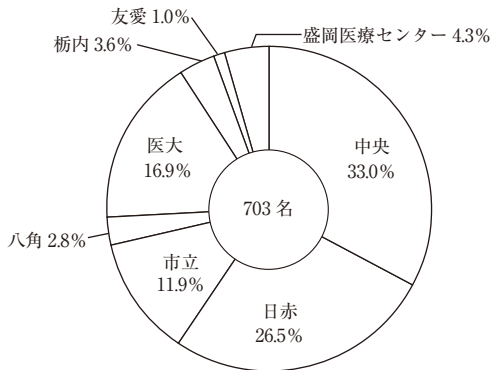
図 11 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

< 外来分布 >

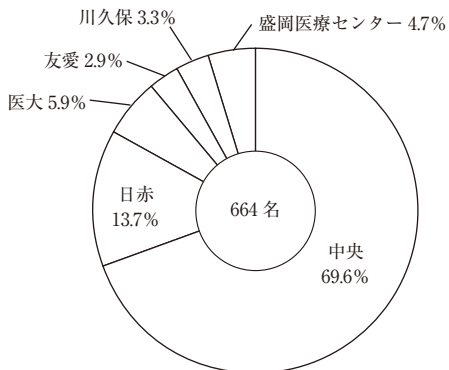
< 内科系 >



< 外科系 >

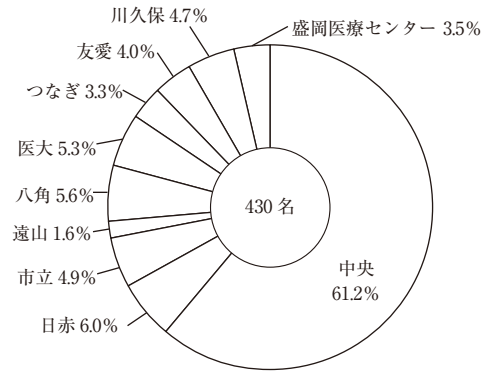


< その他 >

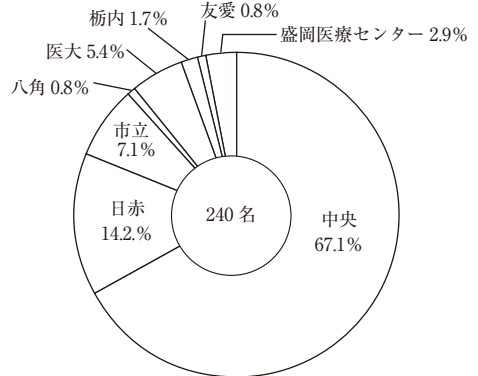


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

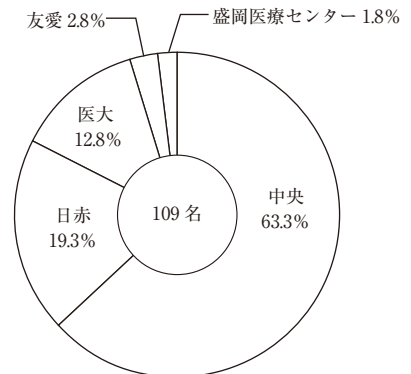


表 17 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

土曜日（1） （AM9～PM0）	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	194	101	195	7.8	8.4	16.3
	外科系	125	43	168	10.4	3.6	14.0
	その他	142	30	172	11.8	2.5	14.3
日赤病院	内科系	224	38	262	18.7	3.2	21.8
	外科系	358	45	403	29.8	3.8	33.6
	その他	215	51	266	17.9	4.3	22.2
市立病院	内科系	34	10	44	2.8	0.8	3.7
	外科系	79	4	83	6.6	0.3	6.9
	その他	5	0	5	0.4	0.0	0.4
遠山病院	内科系	16	0	16	1.3	0.0	1.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	329	10	339	27.4	0.8	28.3
	外科系	14	4	18	1.2	0.3	1.5
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	84	14	98	7.0	1.2	8.2
	外科系	59	14	73	4.9	1.2	6.1
	その他	29	4	33	2.4	0.3	2.8
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	24	10	34	2.0	0.8	2.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	23	2	25	1.9	0.2	2.1
	外科系	2	1	3	0.2	0.1	0.3
	その他	6	1	7	0.5	0.1	0.6
川久保病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
盛岡医療センター	内科系	6	12	18	0.5	1.0	1.5
	外科系	25	12	37	2.1	1.0	3.1
	その他	18	8	26	1.5	0.7	2.2
合 計	内科系	834	197	1,031	69.5	16.4	85.9
	外科系	664	123	787	55.3	10.3	65.6
	その他	415	94	509	34.6	7.8	42.4
総 合 計		1,913	414	2,327	159.4	34.5	193.9
				1日平均	5.2	1.1	6.4

図 12 二次救急病院の外來・入院分布（土曜日（1））

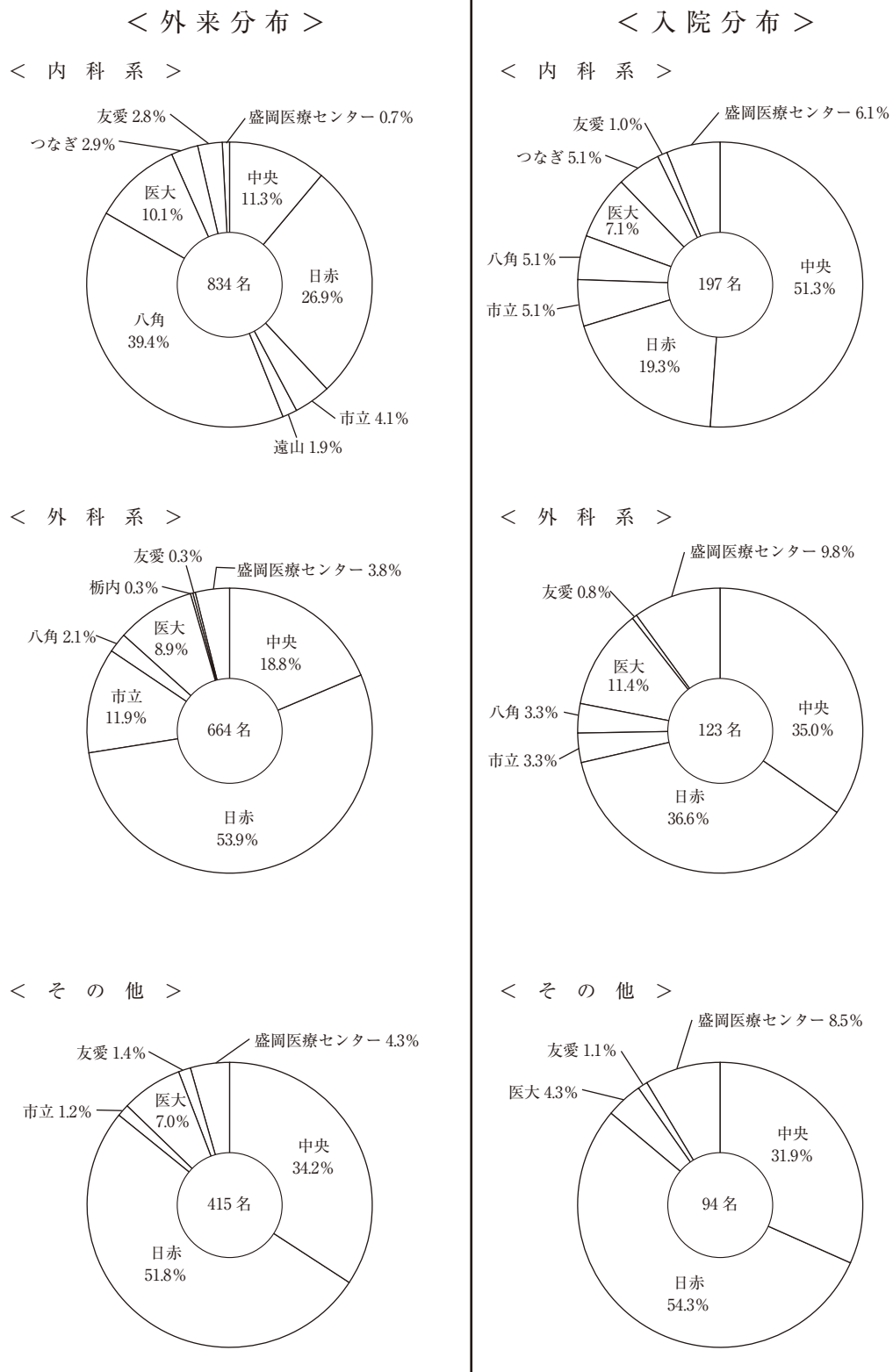


表 18 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

土曜日（2） （PM0～PM5）	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	109	172	281	9.1	14.3	23.4
	外科系	187	101	288	15.6	8.4	24.0
	その他	381	49	430	31.8	4.1	35.8
日赤病院	内科系	137	67	204	11.4	5.6	17.0
	外科系	348	100	448	29.0	8.3	37.3
	その他	247	66	313	20.6	5.5	26.1
市立病院	内科系	86	5	91	7.2	0.4	7.6
	外科系	68	9	77	5.7	0.8	6.4
	その他	2	0	2	0.2	0.0	0.2
遠山病院	内科系	33	10	43	2.8	0.8	3.6
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	93	11	104	7.8	0.9	8.7
	外科系	32	0	32	2.7	0.0	2.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	183	47	230	15.3	3.9	19.2
	外科系	153	29	182	12.8	2.4	15.2
	その他	47	12	59	3.9	1.0	4.9
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	24	0	24	2.0	0.0	2.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	51	17	68	4.3	1.4	5.7
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	31	4	35	2.6	0.3	2.9
	外科系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	その他	17	2	19	1.4	0.2	1.6
川久保病院	内科系	23	4	27	1.9	0.3	2.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
盛岡医療センター	内科系	18	3	21	1.5	0.3	1.8
	外科系	78	9	87	6.5	0.8	7.3
	その他	70	10	80	5.8	0.8	6.7
合 計	内科系	764	340	1,104	63.7	28.3	92.0
	外科系	895	248	1,143	74.6	20.7	95.3
	その他	764	139	903	63.7	11.6	75.3
総 合 計		2,423	727	3,150	201.9	60.6	262.5
				1日平均	6.6	2.0	8.6

図 13 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

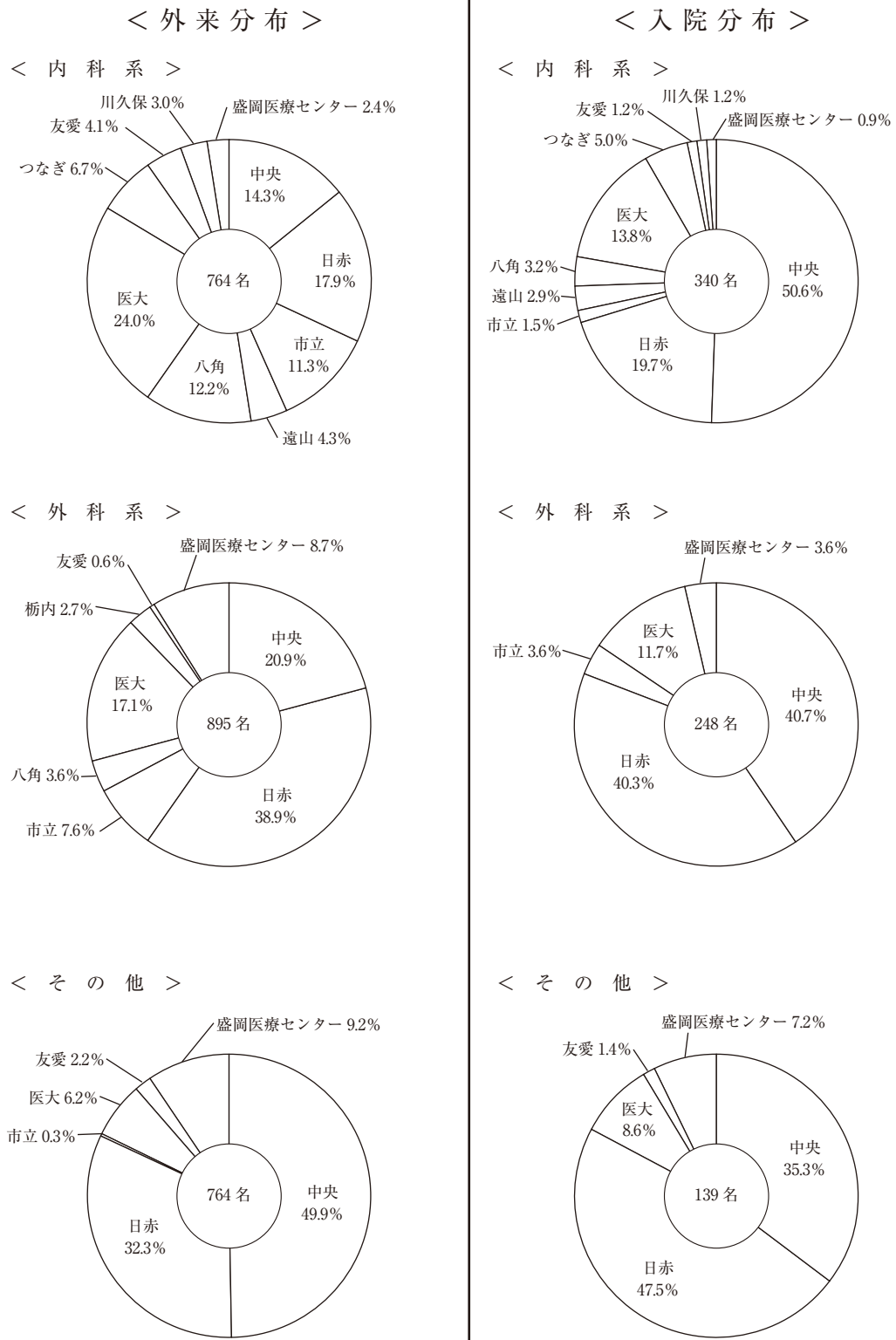


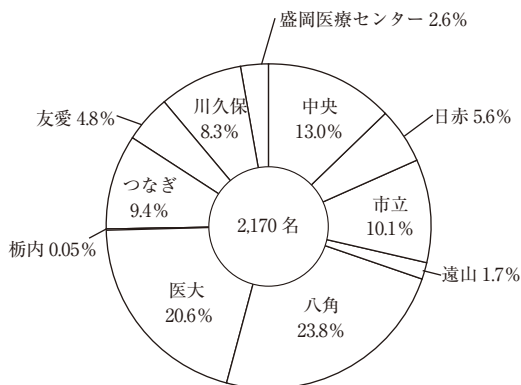
表 19 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

日 祭 日 (AM9～PM5)	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	282	275	557	23.5	22.9	46.4
	外 科 系	417	148	565	34.8	12.3	47.1
	そ の 他	741	108	849	61.8	9.0	70.8
日 赤 病 院	内 科 系	121	44	165	10.1	3.7	13.8
	外 科 系	270	65	335	22.5	5.4	27.9
	そ の 他	247	76	323	20.6	6.3	26.9
市 立 病 院	内 科 系	220	38	258	18.3	3.2	21.5
	外 科 系	191	17	208	15.9	1.4	17.3
	そ の 他	3	0	3	0.3	0.0	0.3
遠 山 病 院	内 科 系	36	7	43	3.0	0.6	3.6
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	516	23	539	43.0	1.9	44.9
	外 科 系	82	4	86	6.8	0.3	7.2
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	447	83	530	37.3	6.9	44.2
	外 科 系	477	56	533	39.8	4.7	44.4
	そ の 他	189	31	220	15.8	2.6	18.3
栃 内 病 院	内 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	外 科 系	211	12	223	17.6	1.0	18.6
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	205	34	239	17.1	2.8	19.9
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	105	19	124	8.8	1.6	10.3
	外 科 系	11	1	12	0.9	0.1	1.0
	そ の 他	21	1	22	1.8	0.1	1.8
川 久 保 病 院	内 科 系	181	18	199	15.1	1.5	16.6
	外 科 系	5	2	7	0.4	0.2	0.6
	そ の 他	449	0	449	37.4	0.0	37.4
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	56	22	78	4.7	1.8	6.5
	外 科 系	97	23	120	8.1	1.9	10.0
	そ の 他	44	10	54	3.7	0.8	4.5
合 計	内 科 系	2,170	563	2,733	180.8	46.9	227.8
	外 科 系	1,761	328	2,089	146.8	27.3	174.1
	そ の 他	1,694	226	1,920	141.2	18.8	160.0
総 合 計		5,625	1,117	6,742	468.8	93.1	561.8
				1 日 平 均	15.4	3.1	18.5

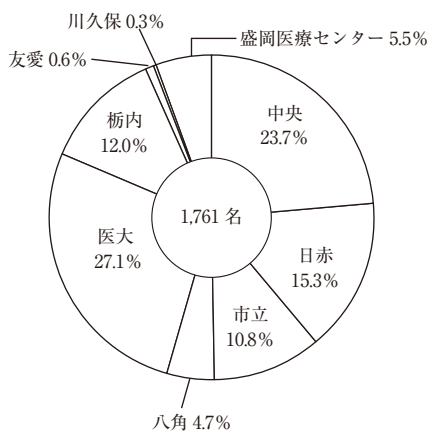
図 14 二次救急病院の外來・入院分布（日祭日）

< 外來分布 >

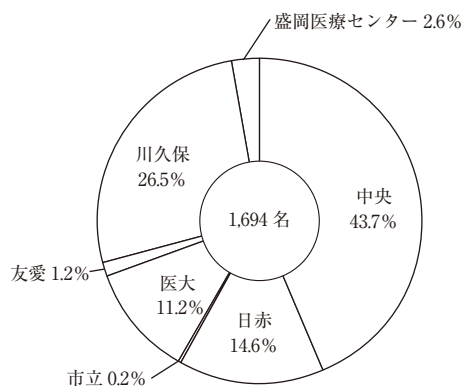
< 内科系 >



< 外科系 >

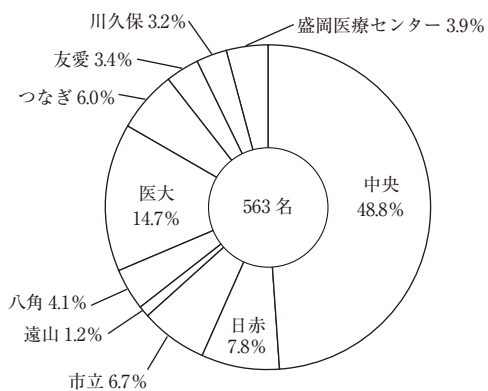


< その他 >

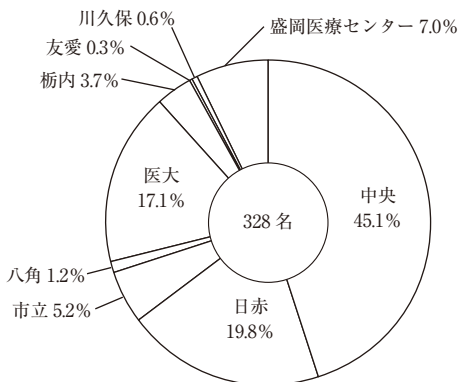


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

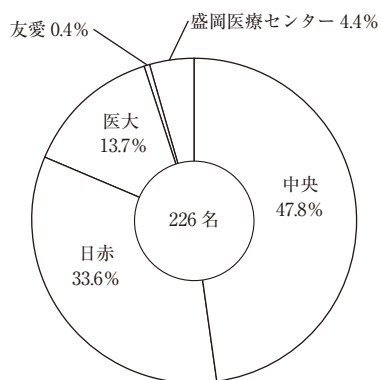


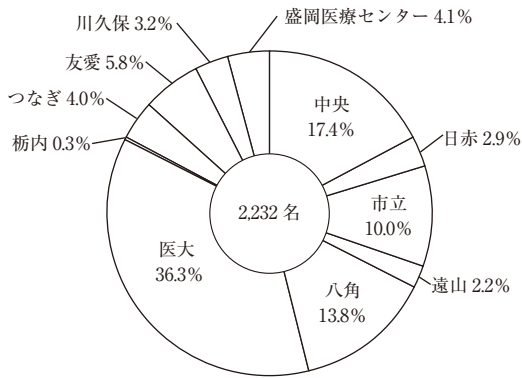
表 20 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

時間外B (PM5～PM8)	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	389	496	885	32.4	41.3	73.8
	外科系	667	328	995	55.6	27.3	82.9
	その他	1,362	253	1,615	113.5	21.1	134.6
日赤病院	内科系	65	33	98	5.4	2.8	8.2
	外科系	108	37	145	9.0	3.1	12.1
	その他	107	43	150	8.9	3.6	12.5
市立病院	内科系	223	33	256	18.6	2.8	21.3
	外科系	289	26	315	24.1	2.2	26.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	48	20	68	4.0	1.7	5.7
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	308	30	338	25.7	2.5	28.2
	外科系	83	2	85	6.9	0.2	7.1
	その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
岩手医大	内科系	811	151	962	67.6	12.6	80.2
	外科系	601	80	681	50.1	6.7	56.8
	その他	215	49	264	17.9	4.1	22.0
栃内病院	内科系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	外科系	162	14	176	13.5	1.2	14.7
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	89	61	150	7.4	5.1	12.5
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	129	41	170	10.8	3.4	14.2
	外科系	20	2	22	1.7	0.2	1.8
	その他	66	6	72	5.5	0.5	6.0
川久保病院	内科系	72	28	100	6.0	2.3	8.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	12	0	12	1.0	0.0	1.0
盛岡医療センター	内科系	92	46	138	7.7	3.8	11.5
	外科系	158	21	179	13.2	1.8	14.9
	その他	184	21	205	15.3	1.8	17.1
合 計	内科系	2,232	939	3,171	186.0	78.3	264.3
	外科系	2,088	510	2,598	174.0	42.5	216.5
	その他	1,947	372	2,319	162.3	31.0	193.3
総 合 計		6,267	1,821	8,088	522.3	151.8	674.0
				1日平均	17.2	5.0	22.2

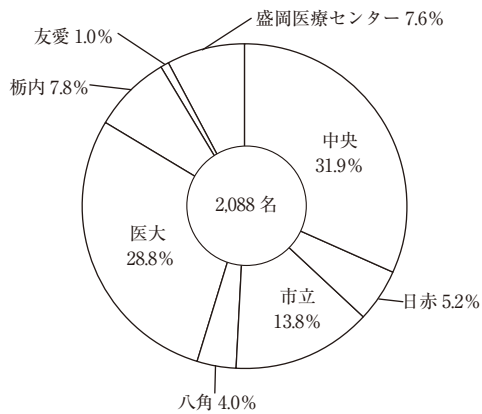
図 15 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

< 外来分布 >

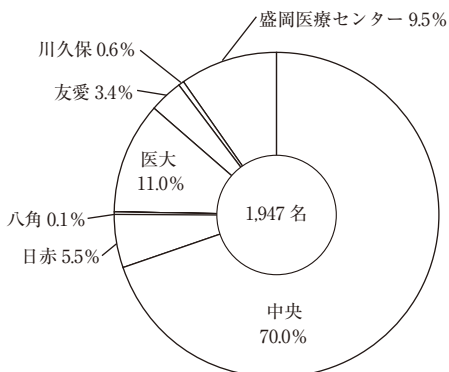
< 内科系 >



< 外科系 >

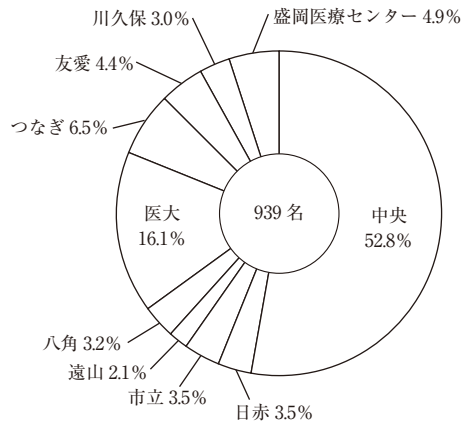


< その他 >

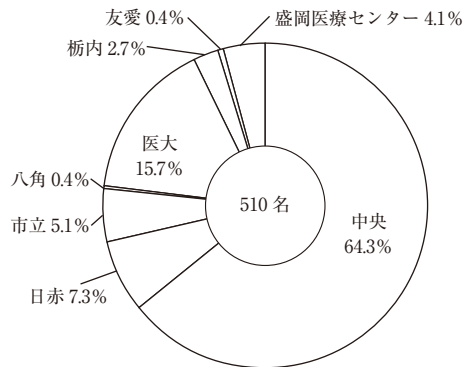


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

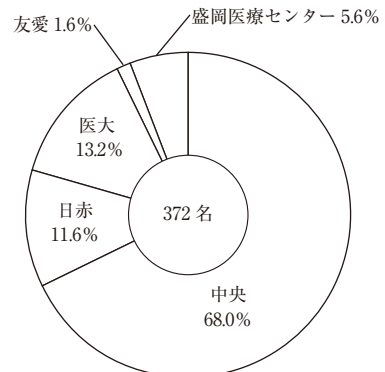


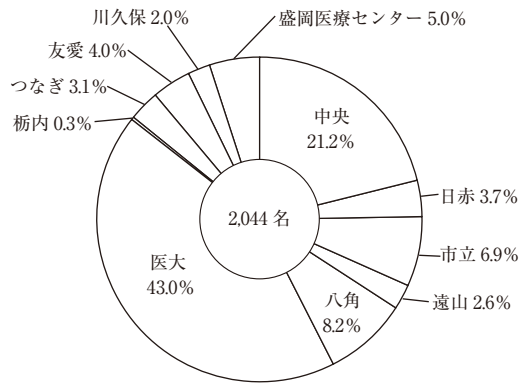
表 21 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

夜 間 (PM8～PM12)	2023.1～ 2023.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	433	363	796	36.1	30.3	66.3
	外 科 系	605	244	849	50.4	20.3	70.8
	そ の 他	1,509	268	1,777	125.8	22.3	148.1
日 赤 病 院	内 科 系	75	36	111	6.3	3.0	9.3
	外 科 系	117	37	154	9.8	3.1	12.8
	そ の 他	56	20	76	4.7	1.7	6.3
市 立 病 院	内 科 系	142	14	156	11.8	1.2	13.0
	外 科 系	170	21	191	14.2	1.8	15.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠 山 病 院	内 科 系	54	19	73	4.5	1.6	6.1
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	168	24	192	14.0	2.0	16.0
	外 科 系	35	1	36	2.9	0.1	3.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	878	89	967	73.2	7.4	80.6
	外 科 系	607	35	642	50.6	2.9	53.5
	そ の 他	211	42	253	17.6	3.5	21.1
栃 内 病 院	内 科 系	6	0	6	0.5	0.0	0.5
	外 科 系	138	11	149	11.5	0.9	12.4
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	64	46	110	5.3	3.8	9.2
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	81	15	96	6.8	1.3	8.0
	外 科 系	13	1	14	1.1	0.1	1.2
	そ の 他	66	8	74	5.5	0.7	6.2
川 久 保 病 院	内 科 系	41	17	58	3.4	1.4	4.8
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	11	0	11	0.9	0.0	0.9
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	102	39	141	8.5	3.3	11.8
	外 科 系	131	11	142	10.9	0.9	11.8
	そ の 他	190	41	231	15.8	3.4	19.3
合 計	内 科 系	2,044	662	2,706	170.3	55.2	225.5
	外 科 系	1,815	361	2,176	151.3	30.1	181.3
	そ の 他	2,044	379	2,423	170.3	31.6	201.9
総 合 計		5,903	1,402	7,305	491.9	116.8	608.8
				1 日 平 均	16.2	3.8	20.0

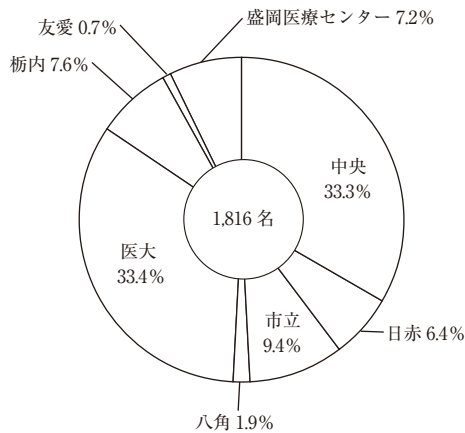
図 16 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

< 外来分布 >

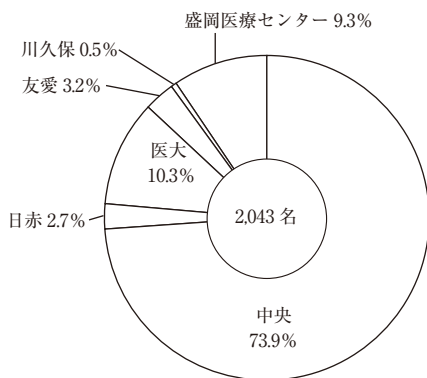
< 内科系 >



< 外科系 >

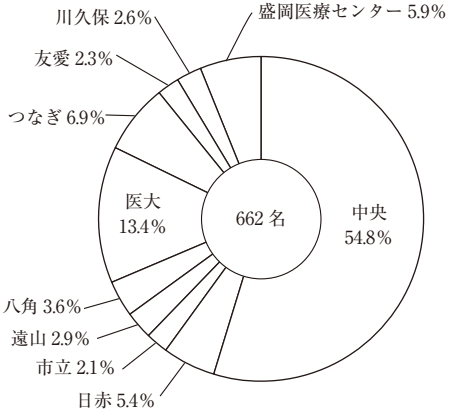


< その他 >

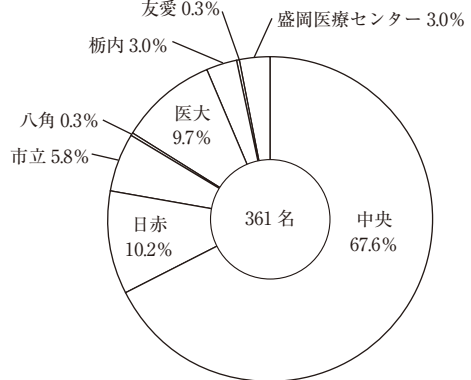


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

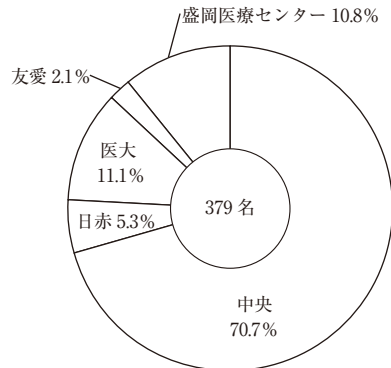
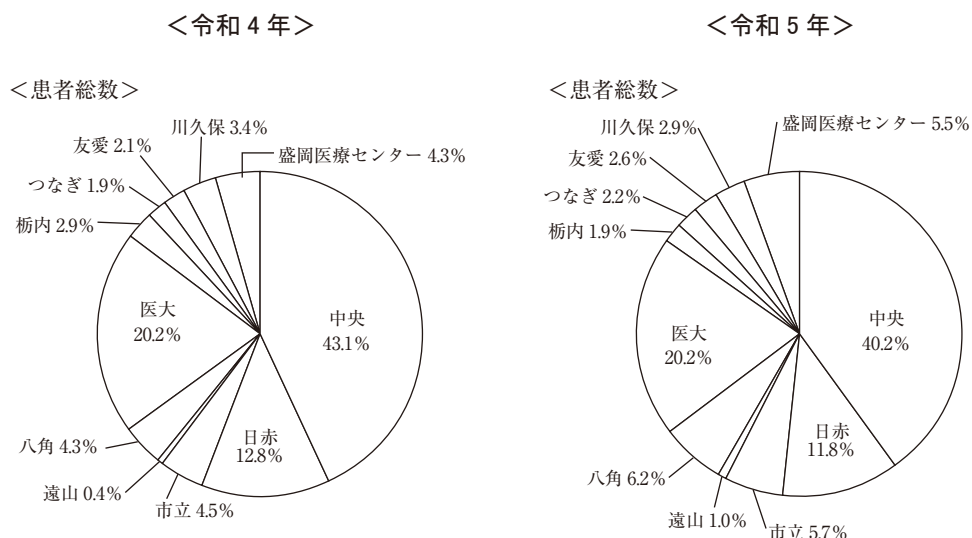


表 22 盛岡地区二次救急患者動態（前年との比較）

病院名	外来患者数		入院患者数		救急車搬入患者数		総数	
	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年	令和5年
中央病院	10,650	9,909	3,914	4,047	5,711	5,393	14,564	13,956
日赤病院	3,475	3,213	855	888	1,138	1,348	4,330	4,101
市立病院	1,331	1,735	200	234	446	580	1,531	1,969
遠山病院	87	255	53	76	93	227	140	331
八角病院	1,356	2,010	111	153	192	286	1,467	2,163
岩手医大	5,862	6,040	966	973	247	214	6,828	7,013
栃内病院	913	592	63	51	241	188	976	643
つなぎ温泉病院	477	538	148	217	251	339	625	755
友愛病院	618	765	105	140	281	383	723	905
川久保病院	1,080	904	54	94	122	177	1,134	998
盛岡医療センター	1,176	1,543	279	377	536	836	1,455	1,920
合計	27,025	27,504	6,748	7,250	9,258	9,971	33,773	34,754

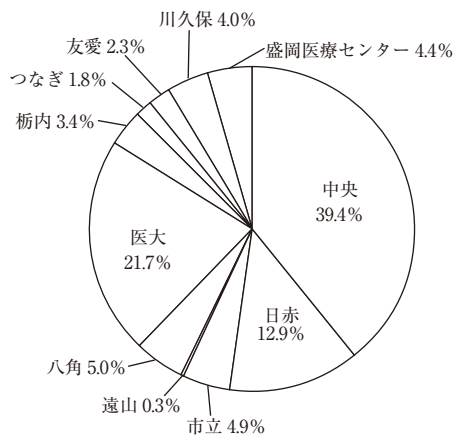
（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

図 17 二次救急患者病院別分布（前年との比較）



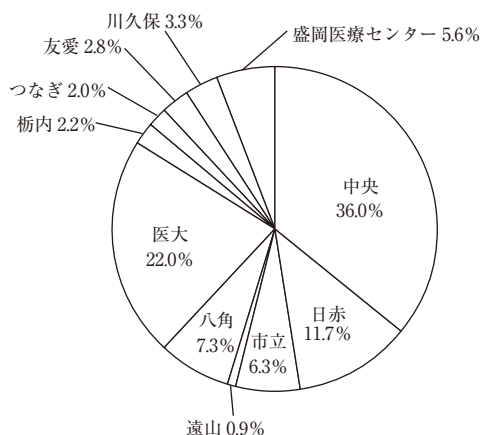
<令和4年>

<外来患者数>

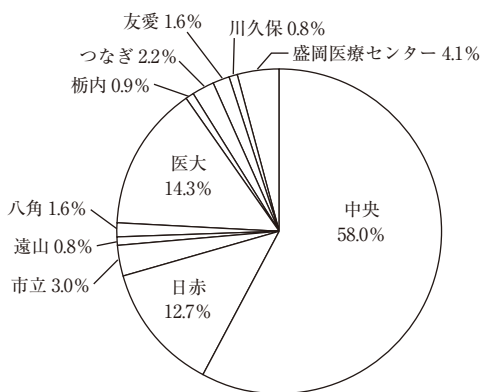


<令和5年>

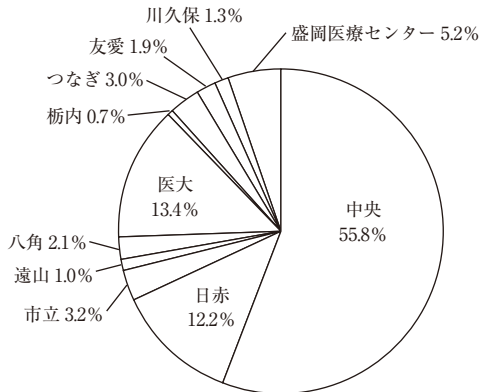
<外来患者数>



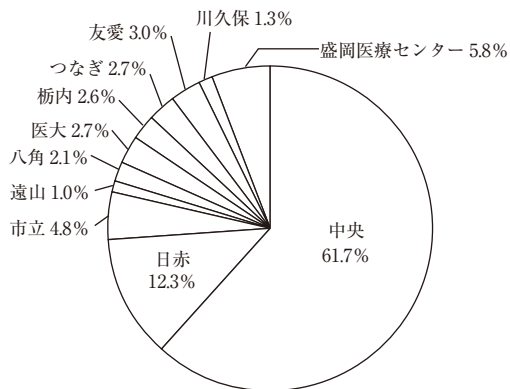
<入院患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>



<救急車搬入患者数>

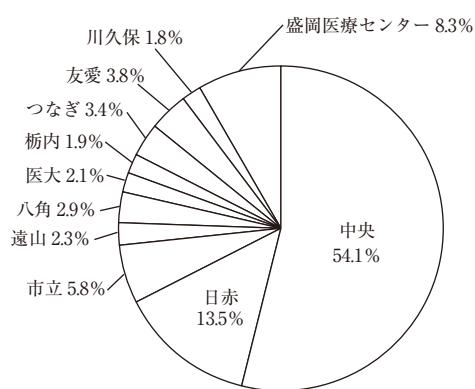
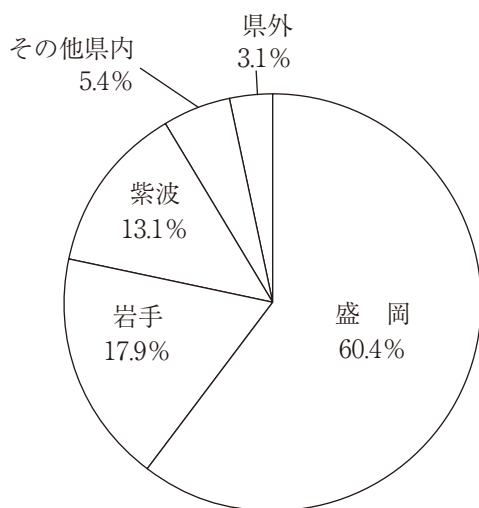


表 23 市町村別二次救急患者動態

市 町 村	外 来	入 院	合 計
盛 岡	16,746	4,257	21,003
雫 石	626	286	912
葛 巻	61	34	95
岩 手	768	224	992
滝 沢	2,259	657	2,916
紫 波	1,972	455	2,427
矢 巾	1,797	334	2,131
八 幡 平	1,006	291	1,297
その他県内	1,345	547	1,892
県 外	924	165	1,089
合 計	27,504	7,250	34,754

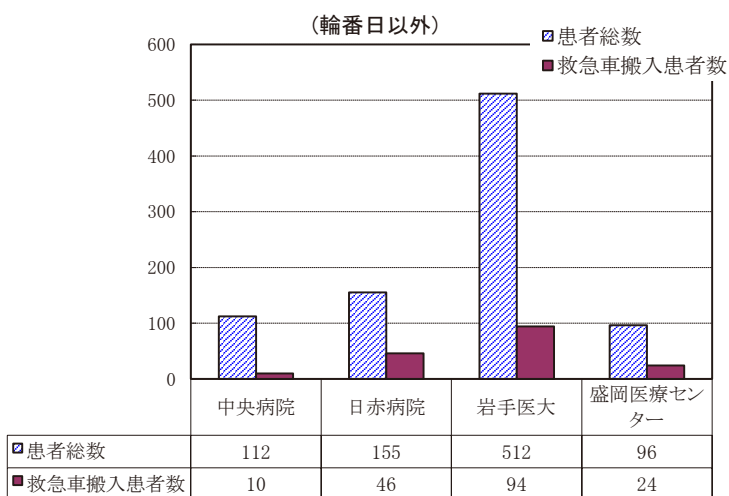
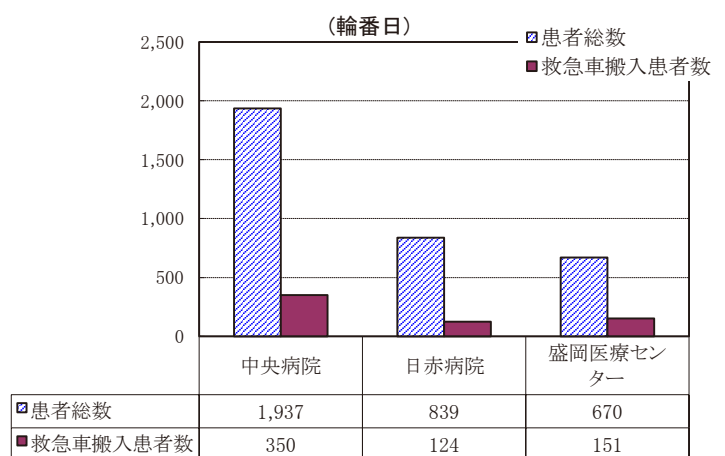
図 18 <地区別患者比率>



小児救急病院群輪番制 24年目のまとめ

図19～21および表24～27に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は4,321名で、前年比897名の増加であった。うち救急車搬入患者数は799名（18.5%）でこちらは前年比284名の増となった。輪番日の受診者数は3,446名（総数の79.8%）、救急車搬入625名（輪番日受診者の18.1%）、1コマ単位平均7.53人であった。輪番日以外の受診者数は875名（総数の20.2%）、救急車搬入数174名（輪番日以外受診者の19.9%）、1コマ単位平均0.48人であった。病院別では、総数では中央病院が2,049名（47.4%）と最も多く、入院を必要とした患者は平均1.63人であった。

図 19 病院患者総数



※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

表 24 小児救急患者病院別合計表（輪番日）

令和5年1月～令和5年12月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,600	56.5	337	55.0	1,937	56.2	350	56.0
日 赤 病 院	654	23.1	185	30.2	839	24.3	124	19.8
盛岡医療センター	579	20.4	91	14.8	670	19.4	151	24.2
合 計	2,833	100	613	100	3,446	100	625	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日）

令和5年1月～令和5年12月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	7.18	1.51	8.69	1.57
日 赤 病 院	5.45	1.54	6.98	1.04
盛岡医療センター	5.10	0.80	5.90	1.33
平 均	6.19	1.34	7.53	1.37

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退

輪番日以外は集計を継続

図 20 小児救急病院別患者比率（輪番日）

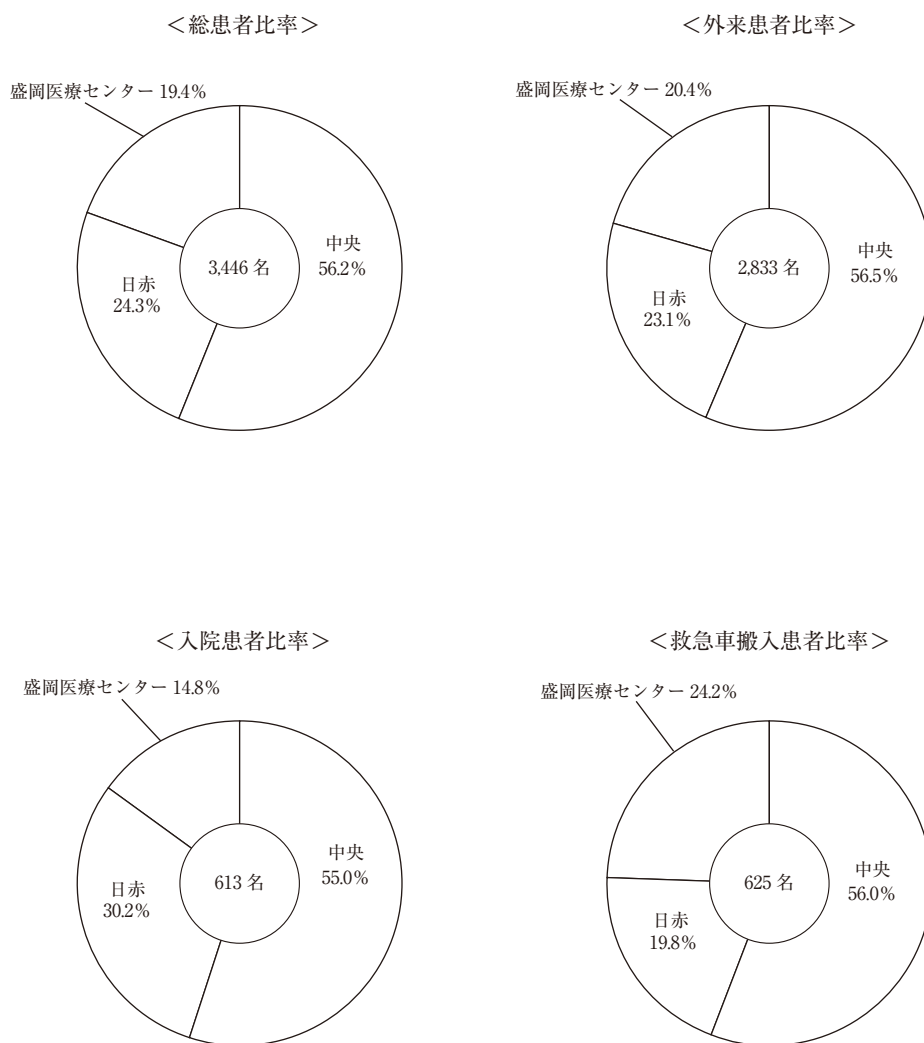


表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	84	13.0	28	12.2	112	12.8	10	5.7
日 赤 病 院	120	18.6	35	15.3	155	17.7	46	26.4
岩 手 医 大	371	57.4	141	61.6	512	58.5	94	54.0
盛岡医療センター	71	11.0	25	10.9	96	11.0	24	13.8
合 計	646	100	229	100	875	100	174	100

表 27 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.36	0.12	0.48	0.04
日 赤 病 院	0.36	0.10	0.46	0.14
岩 手 医 大	0.81	0.31	1.12	0.21
盛岡医療センター	0.21	0.07	0.28	0.07
平 均	0.35	0.12	0.48	0.10

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）

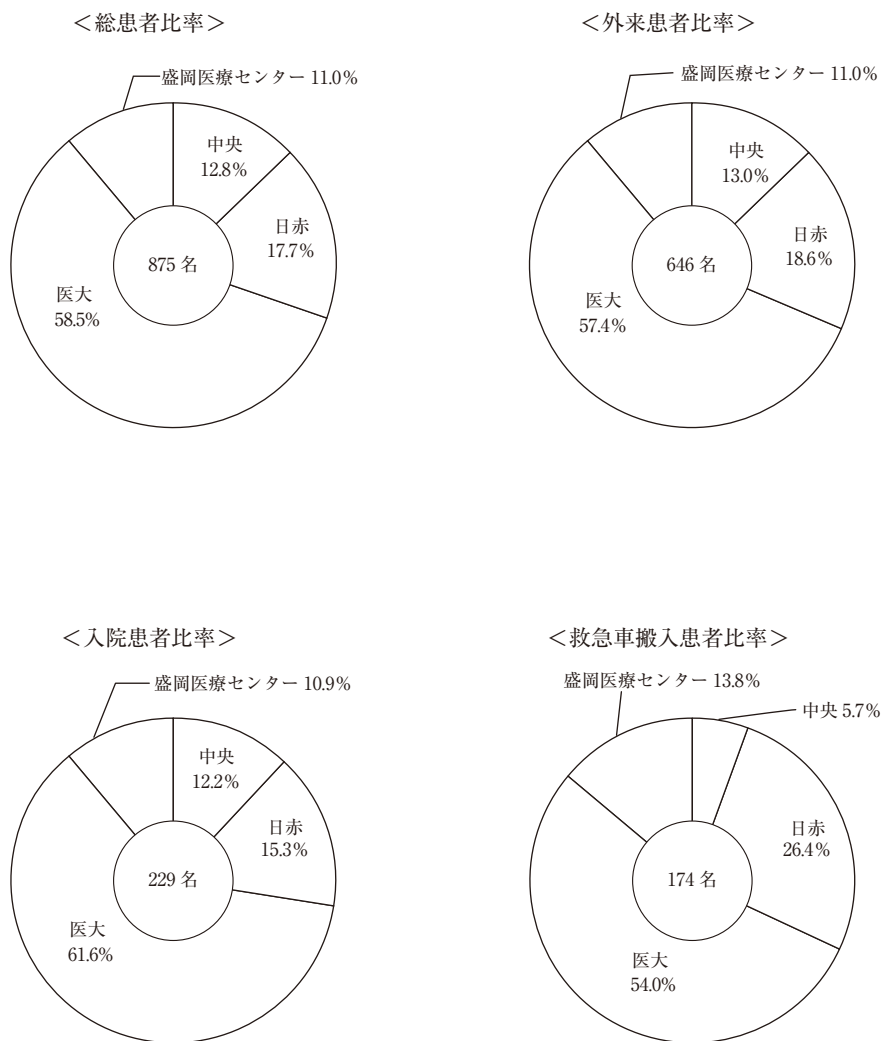


表 28 小児救急患者市町村別合計表（輪番日）

令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	1,790	63.2	395	64.4	2,185	63.4
雫 石	37	1.3	19	3.1	56	1.6
葛 巻	3	0.1	1	0.2	4	0.1
岩 手	25	0.9	6	1.0	31	0.9
滝 沢	393	13.9	82	13.4	475	13.8
紫 波	166	5.9	32	5.2	198	5.7
矢 巾	149	5.3	24	3.9	173	5.0
八 幡 平	94	3.3	16	2.6	110	3.2
小 計	2,657	93.8	575	93.8	3,232	93.8
その他県内	53	1.9	18	2.9	71	2.1
県 外	123	4.3	20	3.3	143	4.1
合 計	2,833	100	613	100	3,446	100

表 29 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日）

令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	3.91	63.1	0.87	64.5	4.77	63.3
雫 石	0.08	1.3	0.04	3.1	0.12	1.6
葛 巻	0.01	0.1	0.002	0.2	0.01	0.1
岩 手	0.05	0.9	0.01	1.0	0.07	0.9
滝 沢	0.86	13.9	0.18	13.4	1.04	13.8
紫 波	0.37	5.9	0.07	5.2	0.43	5.8
矢 巾	0.33	5.3	0.05	3.8	0.38	5.0
八 幡 平	0.21	3.3	0.04	2.6	0.24	3.2
小 計	5.805	93.8	1.26	93.8	7.06	93.8
その他県内	0.12	1.9	0.04	2.9	0.15	2.1
県 外	0.27	4.4	0.04	3.3	0.31	4.2
合 計	6.19	100	1.34	100	7.53	100

図 22 小児救急市町村別患者比率（輪番日）

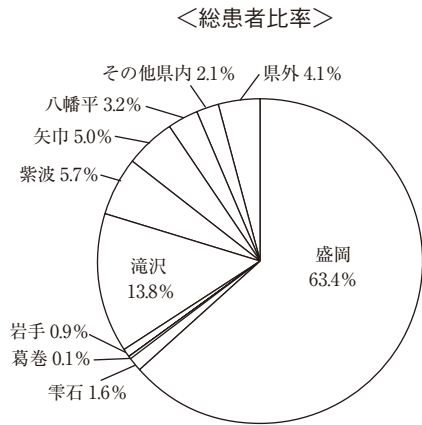


図 23 小児救急郡市別患者比率（輪番日）

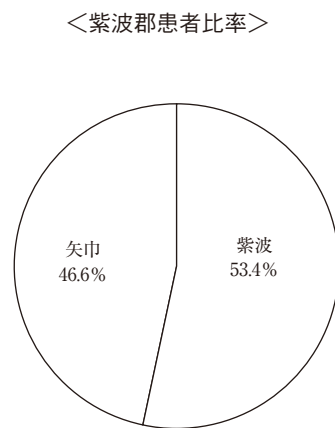
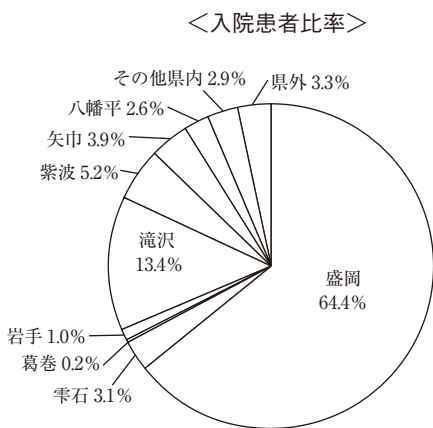
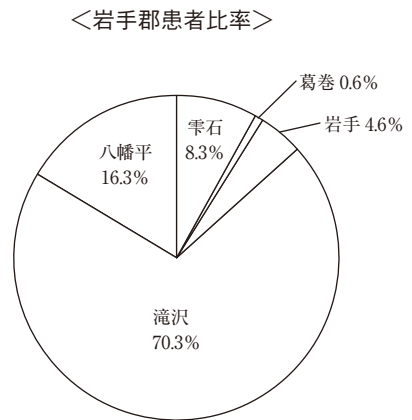
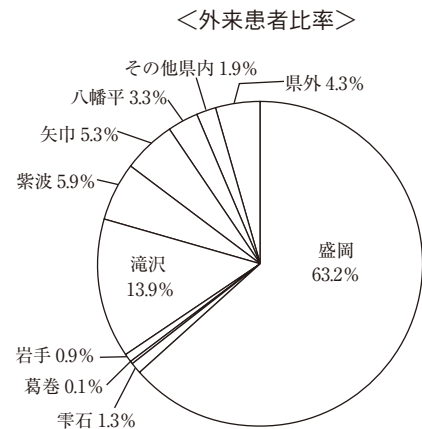
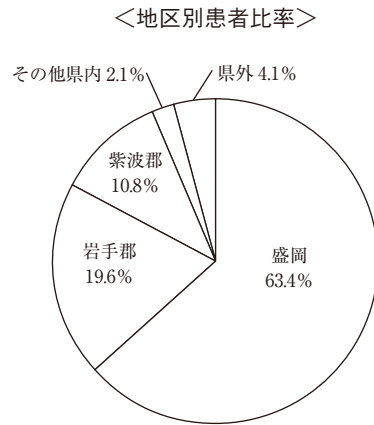


表 30 小児救急患者市町村別合計表（輪番日以外）

令和5年1月～令和5年12月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	322	49.8	98	42.8	420	48.0
雫 石	16	2.5	6	2.6	22	2.5
葛 卷	2	0.3	1	0.4	3	0.3
岩 手	5	0.8	4	1.7	9	1.0
滝 沢	62	9.6	21	9.2	83	9.5
紫 波	69	10.7	15	6.6	84	9.6
矢 巾	67	10.4	16	7.0	83	9.5
八 幡 平	11	1.7	5	2.2	16	1.8
小 計	554	85.8	166	72.5	720	82.3
その他県内	67	10.4	56	24.5	123	14.1
県 外	25	3.9	7	3.1	32	3.7
合 計	646	100	229	100	875	100

表 31 1コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日以外）

令和5年1月～令和5年12月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	0.18	49.9	0.05	42.9	0.23	48.1
雫 石	0.01	2.5	0.003	2.6	0.01	2.5
葛 卷	0.001	0.3	0.001	0.5	0.002	0.4
岩 手	0.003	0.8	0.002	1.8	0.005	1.0
滝 沢	0.03	9.5	0.01	9.0	0.04	9.4
紫 波	0.04	10.6	0.01	6.6	0.05	9.6
矢 巾	0.04	10.4	0.01	7.1	0.05	9.5
八 幡 平	0.006	1.7	0.003	2.2	0.01	1.9
小 計	0.30	85.7	0.09	72.6	0.39	82.3
その他県内	0.04	10.3	0.03	24.3	0.07	14.0
県 外	0.01	3.9	0.004	3.1	0.02	3.7
合 計	0.35	100	0.12	100	0.48	100

図 24 小児救急市町村別患者比率（輪番日以外）

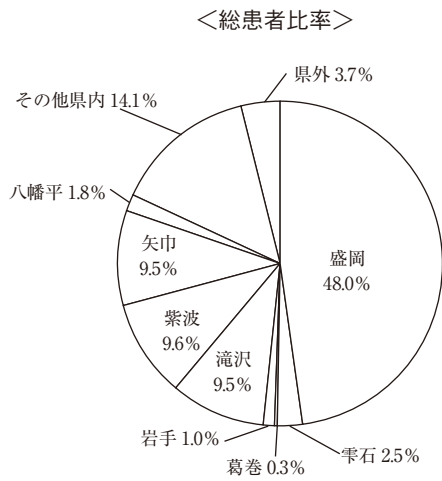
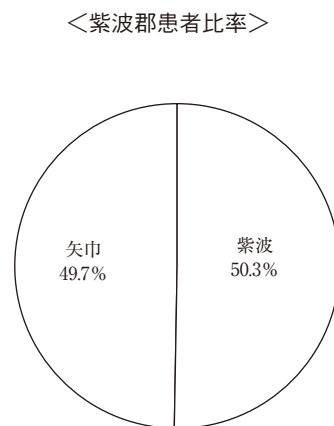
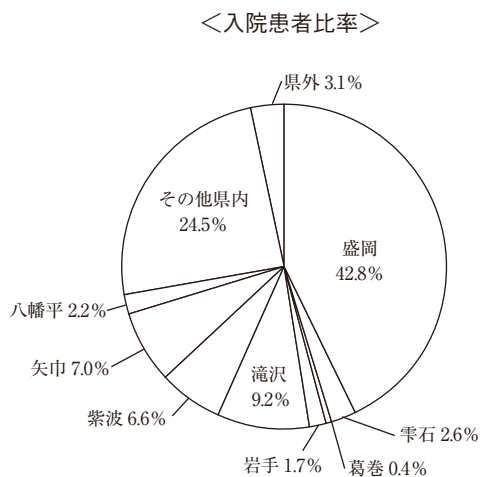
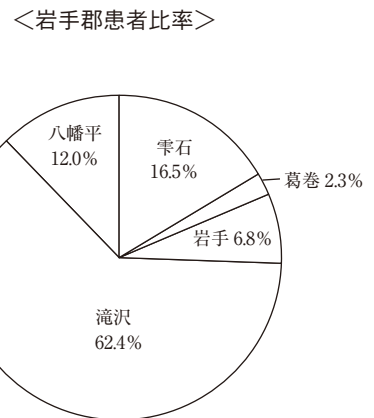
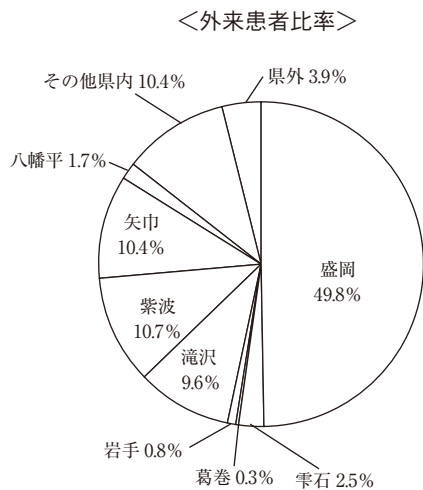
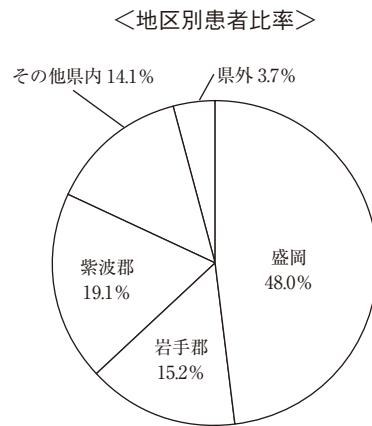


図 25 小児救急郡市別患者比率（輪番日以外）



2. 経過報告

- 令和5年 1月17日（火） 第218回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 2月21日（火） 第219回小児救急電話相談事業事例検討会
27日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 3月20日（火） 夜間急患診療所に関する打合せ会
23日（木） 第220回小児救急電話相談事業事例検討会
24日（金） 第21回岩手県医師会小児救急電話相談事業運営委員会
27日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 4月13日（木） 令和5年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
18日（火） 第221回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 5月16日（火） 第222回小児救急電話相談事業事例検討会
29日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 6月20日（火） 第223回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 7月14日（金） 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会
20日（木） 第224回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 8月18日（金） 第225回小児救急電話相談事業事例検討会

- 29日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 9月15日（金） 第40回救急医療学術講演会
- 21日（木） 第226回小児救急電話相談事業事例検討会
- 26日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 10月17日（火） 第227回小児救急電話相談事業事例検討会
- 19日（金） 令和5年度第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
- 27日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 11月14日（火） 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）
- 18日（土） 令和5年度盛岡市総合防災訓練
- 20日（月） 盛岡地区二次救急医療体制検討委員会
- 21日（火） 第228回小児救急電話相談事業事例検討会
- 24日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 12月19日（火） 第229回小児救急電話相談事業事例検討会
- 25日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和5年2月27日（月）午後7時
場 所：盛岡市医師会館（ハイブリッド方式）



新型コロナウイルス感染防止の対応として、Zoomを利用したハイブリッド方式で開催された。

報 告

1. 1月分患者データについて：患者総数2,682名と前年より100名減少し救急車搬送患者は834名と前年より40名増加した。小児救急輪番日も201名と前年より20名減少した。高度救命救急センターは総数179名と例年より減少した。またドクターヘリの出動は10件と少なかった。参考として夜間急患診療所は43名と減少していたが発熱外来の受診者が119名と全体では増加した。休日当番医は1月からコロナの感染者とともにインフルエンザの発生報告が多くみられるようになった。
2. 令和3年～4年の患者データについて
 - 1) 二次救急：総数33,773名と前年より1,000名増加した。救急車搬送数は9,258名と前年比900名近く増加した。
 - 2) 小児救急：小児輪番日2,595名と前年より130名減少した。非輪番日は829名で

あった。

- 3) 休日救急当番医・夜間急患診療所：
夜間急患診療所 今回は通常診療と発熱外来の内訳を入れている。総数2,402名 昨年より510名増加、うち発熱外来792名。
休日当番医 13,305名（1日あたり平均183名）と昨年より2,600名増加した。
3. 第219回小児救急電話相談事業事例検討会：
別紙報告の通り
令和4年の年間統計3,644件の相談があった。
4. 岩手県立中央病院の作業停電について：
3月5日、一度予定され延期していた作業停電を行うため、他医療機関に救急患者の受け入れをお願いする。
5. 3月の二次救急病院当番表について：
事前了承通り。
6. 令和5年4～6月小児救急輪番表公表について：事前了承通り。
7. 休日救急当番医（小児科）の受診者数増加について：盛岡市医師会ではホーム

ページで現在の状況をお知らせし、適正受診を促すことにした。赤坂委員（当日欠席）より事前の関係者へのメールで小児のインフルエンザが増加し、さらに重症例も多くなっていることが報告されていた。これに関連して、岩手医大小笠原委員よりインフルエンザワクチンの補助期間延長などの対策について市側へ質問があった。矢野保健所長から、今年度のワクチン接種率が例年より20%も低下していることなどが原因で、今後医師会と期間延長などについて協議していきたいという回答があった。

協 議

1. 令和5年度二次・小児救急輪番表（案）について：原案通り了承された。
2. 子どもの時間外救急・適正受診に関するカード作成について：令和3年に岩手県で作成したものをベースに、令和5年2月から開始した#8000のこども夜間ケアダイヤルを追加して作成することで了承を得た。

3. 令和5年度二次救急医療対策委員会運営予算（案）について：事務局より来年度案が説明された。一般会計は前年通りとしたが、特別会計は「救急医療人のつどい」の開催を見込んで予算を計上し、会費を例年通りとした。もし中止になった場合には翌年分に回すことにした。また、一般会計の広報費で小児救急の案内カードを増刷することも了承された。
4. その他：新型コロナウイルス感染症関連について、5月8日に2類から5類へ変わることにに関して意見を交換した。盛岡市矢野保健所長から、多くの医療機関に類型変化後の診療意向調査を行っているところで、各医療機関が問題としている入院診療が必要になった場合などの対応について協議していきたいとの説明があった。現在のところ国の具体的な方針はなく新しい情報もないことから3月の国の方針決定後に岩手県でも会議を開く予定であり、その経緯をみて協議していきたい。

（久保直彦）

出 席 者 一 覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長 吉田 耕太郎

常任委員

眞瀬 智彦	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華	佐々木 一裕
相馬 淳	金子 博純	工藤 卓次	菊池 貴彦	久保直彦
智田 文徳	橋本 真生	佐藤 直也	金濱 誠己	久保田 公宣
小林 有一	関 博文	西島 浅香		

委 員

小笠原 邦昭	森野 禎浩	高橋 学	宮田 剛	加藤 章信
佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二	白石 秀夫	田村 茂
八角 有紀	木村 宗孝	高橋 邦尚	(代理 高橋 清実)	

岩手県県央保健所 所 長 田名場 善明

盛岡市保健所 所 長 矢野 亮佑
企画総務課長 相馬 英洋

盛岡市医師会事務局 事務局長 及川 敬一郎
次 長 水本 達彦
係 長 谷藤 慎治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和5年6月26日（月）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和5年度盛岡地区二次救急医療対策委員会が令和5年6月26日(月)午後7時より盛岡グランドホテルにて開催された。

報 告

1. 委員の異動に伴う対策委員会委員の変更について：盛岡市医師会小児科医会役員改選に伴う新委員として高橋明雄先生が常任委員として参加した。
2. 5月分患者データについて：二次救急総数は3,080名と前年とほぼ同様であった。救急車搬入数は803名と前年より約20名増加した。参考として夜間急患診療所は260名で昨年より140名増加した。
小児救急患者の輪番日は総数299名、一コマあたり8.08と増加した。これはコロナ以外にインフルエンザやRSウイルス、ヘルペンギーナなどの感染症が増加したためと思われる。
3. 年度ごとのデータについて：令和4年度の二次救急総数は33,778名で、令和3

年度とほぼ同様であった。内訳では、外来受診のみ患者が26,982名と前年度より1,000名増加したが、コロナ前に比較して大幅に減少していた。入院を要した患者は6,796名で昨年より約300名減少した。救急車搬送数は9,392名と前年より約830人増加した。

小児救急輪番日では、令和4年度の小児救急の総数は2,809名と令和3年度より140名増加したが、コロナ前に比較すると半分の大幅な減少であった。小児救急の輪番日で外来受診のみは2,379名、入院した患者は430名、救急搬送された患者は410名と前年度より増加した。

4. 第223回小児救急電話相談事例検討会及び令和4年4月から令和5年5月までのデータについて
5. 栃内病院の移転について：栃内病院白石秀夫院長より、新病院の概要、移転のスケジュールについて説明があった。10月2日開院の予定で、その前後休院や準

備のため新規患者や救急患者の受入れが困難になるとの見通しである。

6. 「盛岡救急医療人のつどい」の中止について：各医療機関の催し物参加に関する意見が一致しないため本年度も中止した。

協 議

1. 7月の二次救急病院当番表について：原案通り了承された。
2. 10月～12月の小児輪番表（案）及び令和5年度二次救急入院受入当番病院及び小児救急入院受入当番病院日程表（8月以降）について：栃内病院移転に伴い、9月および10月を一部変更した原案の通り了承された。
3. いわて盛岡シティマラソン2023につい

て：10月21日、22日開催が予定されている同大会に救護員派遣の要請があった。前回と同様の案で各病院へ協力を依頼する。

4. 令和5年度盛岡市総合防災訓練について：11月18日(土)に予定されているが、詳細については不明であるので、開催要領が決定後協議する。
5. 令和4年度一般会計および特別会計決算について：原案通り了承された。
6. 第40回救急医療学術講演会の開催について：9月に国立病院機構災害医療センター院長の大友 康裕先生を講師に開催予定で準備中である。

(久保直彦)

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長 吉田 耕太郎

常任委員

眞瀬 智彦	須原 誠	梶原 和華	佐々木 一裕	相馬 淳
工藤 卓次	菊池 貴彦	久保直彦	智田 文徳	橋本 真生
佐藤 直也	久保田 公宜	小林 有一	関 博文	高橋 明雄

委員

森野 禎浩	宮田 剛	加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 知
木村 啓二	白石 秀夫	田村 茂	高橋 邦尚	木村 宗孝

岩手県県央保健所 次 長 浅 沼 修 (所長代理)

盛岡市保健所 所 長 矢 野 亮 佑
企画総務課長 田 村 聡

盛岡市医師会事務局 事務局長 及 川 敬一郎
次 長 水 本 達 彦
課 長 谷 藤 慎 治

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和5年11月24日（金）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



報 告

1. 10月分の患者データについて

二次救急の総数は2,805名と昨年より120名減少、先月より258名減少した。救急車搬送数は856名と先月、昨年より増加した。参考として、夜間急患診療所は総数249名と前年より164名増加した。小児救急は輪番日254名で前年より26名減少した。輪番日以外は69名であった。輪番日一コマあたり6.2名と例年の半分であった。また、新型コロナウイルス感染患者が減少しているが、インフルエンザ感染患者が大幅に増加しているため、休日当番医での受診患者は増加している。医大三次救急は178名と例年並みで、ドクターヘリ出動は計39件であった。

2. 令和4～5年の患者データについて

二次救急患者の10月までの総数は28,670名、月平均2,867名で、月平均の比

較では昨年より53名増加した。月別の動きでは前年と比較し8月の患者増加が目立った。内訳では外来患者が22,667名と昨年より214名増加し、入院患者は6,003名と昨年より490名増加した。10月までの救急搬送数は8,238名と昨年より680名増加している。小児救急輪番日のデータは、10月まで月あたり278.9名、一コマあたりは月平均7.4名と昨年より増加した。夜間急患診療所の受診者は一晩あたり8.6名、休日当番医も221.2名と大幅に増加した。

3. 第228回小児救急電話相談事業事例検討会(11/21)及びR4.10月からR5.10月までのデータについて

4. 医療提供体制推進事業費補助金（医療提供体制設備整備事業）について

川久保病院から申請があり、過去の実績などを考慮のうえ推薦したことが報告

された。

5. 二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）について

来年度も本年と同様に3病院で輪番体制を組むことになった。また、働き方改革の影響で、日直回数などに制限があり、岩手医大からの診療応援の回数が増えることなどが報告された。また、金濱委員より小児科医が高齢化しており、将来休日当番医や夜間急患診療所への出動医師の確保が難しくなる可能性についての報告があった。

6. その他

国立病院機構盛岡医療センター木村啓二委員より、医療提供態勢推進事業補助金の申請資格について質問があった。保健所など行政より後日回答いただく。

協議事項

1. 12月分の二次救急病院当番表（案）について

原案通り了承された。

2. 令和6年1月～3月小児救急当番表（案）について

原案通り了承された。

3. 令和6年度二次救急、小児救急輪番表（案）について

二次救急の輪番表に基づき輪番案を事務局が作成、小児救急は現在各病院と調整中で、来月の常任委員会までに提示し、最終的に2月の本対策委員会で最終決定する予定である。

4. 年末年始の救急医療態勢 広報掲載案について

例年通りに掲載することになった。

5. 新型コロナウイルス感染症の医療提供体制に対する意見について

新型コロナウイルス感染症の医療提供体制に係る第9回連携グループ会議（令和5年11月15日開催）に寄せられた意見について検討した。いずれも診療所におけるコロナ疑い、またはコロナ患者の診察、治療内容についての意見であった。盛岡市医師会にて対応策を検討していただくこととした。

6. 盛岡地区二次救急医療体制の改変（案）について

近年の医療体制の変化と2020年に始まったコロナ禍以降、数多くの救急搬送困難事例が発生しているため、いわゆるたらい回しを防ぐため設置された二次救急輪番制度が機能しない状態となっている。救急搬送困難事例を減少させ、円滑な救急受け入れを図るために、救急病院のあり方、輪番病院制度の見直しなどについて改善案が提案された。

1) 救急搬送における病院選定の見直し

令和5年11月16日に開催された岩手県救急業務高度化推進協議会にて、地域MC、各医師会に現行基準の確認を行なってほしいとの要請があった。盛岡地区では当委員会がこの役目を担うものであり、この機会に受け入れ先選定基準について見直しを図り、重篤な疾患が問題なく受け入れられるように検討する。

2) 二次救急病院（B群）の役割の見直し 各B群病院からの意見として

- ・医師、日、当直医の高齢化と働き方改革の問題で夜間労働が困難
- ・休日、夜間の検査体制、看護体制、病床の確保が難しい場合がある
- ・検査ができないと、当直に来ている若い医師が受け入れを拒む場合があ

る。などの問題点があげられた。

B群病院の役割（案）として以下のことが了承された。

- ・主としてかかりつけ患者の初期診療
- ・地域の患者の初期診療
- ・やむをえず三次救急病院へ入院した軽症患者の受け入れ
- ・重篤性、緊急性以外の症候、疾患、特に搬送困難が多い高齢者の発熱、腰痛、関節痛などの初期診療

3) 輪番制度の見直し

輪番病院は、平成15年来、現在「最終入院受け入れ病院」としてA群、B群の2病院の輪番制になっている。「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」では搬送順位の最後が輪番病院となっているので現状のままが適切とし、今後とも継続検討とする。

上記の項目について反対意見はなく

了承された。今後は病院選定の見直しについて各医療機関へ照会して地域MCとしての意見をまとめる方針とした。

(久保直彦)

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長 吉田 耕太郎

常任委員

真瀬 智彦	須原 誠	梶原 和華	佐々木 一裕	相馬 淳
金子 博純	工藤 卓次	菊池 貴彦	久保 直彦	橋本 真生
金濱 誠己	久保田 公宜	小林 有一	関 博文	高橋 明雄

委員

小笠原 邦昭	加藤 章信	千葉 知	木村 啓二	田村 茂
木村 宗孝				

岩手県県央保健所 医療介護課長 四日市 良一

盛岡市保健所 次長 高橋 宏英 (所長代理)
企画総務課長 田村 聡

盛岡市医師会事務局 事務局長 及川 敬一郎
次長 水本 達彦
課長 谷藤 慎治

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会

と き：令和5年11月14日（火） 午後7時
ところ：盛岡市医師会館 2階会議室
司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
部 長 久保直彦

出席者

岩手医科大学小児科学講座	教 授	赤 坂 真奈美
〃	特任教授	石 川 健
岩手県立中央病院	小児科長	三 上 仁
盛岡赤十字病院	小児科部長	梶 原 和 華
国立病院機構盛岡医療センター	副 院 長	佐々木 美 香
盛岡市医師会小児科医会	会 長	高 橋 明 雄
盛岡市医師会	会 長	吉 田 耕太郎
盛岡地区二次救急医療対策委員会	委 員 長	
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	久 保 直 彦
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常任委員	
盛岡市医師会	副 会 長	相 馬 淳
〃	〃	金 子 博 純
〃	〃	工 藤 卓 次
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常任委員	金 濱 誠 己
〃	〃	小 林 有 一

— 次 第 —

挨拶 題

1. 令和4年～令和5年小児救急病院患者データ（参考資料）
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、令和4年は輪番日月平均216名であったが、令和5年1月～9月は月平均271.4名と昨年より増加傾向である。
2. 各小児救急輪番病院の現状と要望事項等について
3. 令和6年度小児救急輪番表（案）の作成について
 - ・来年度も3病院で輪番を組み対応する方針となった。現状の輪番体制に基づいて事前に事務局案を作成しており、それを提示した。各病院にて検討、調整する方針となった。可能であれば今月の二次救急医療対策委員会で提案し、来年2月の二次救急医療対策委員会にて最終決定する。盛岡赤十字病院よりゴールデンウィークや年末年始（9連休になるため）、日直、当直が頻回になり、働き方改革の影響で日直回数に制限があることから、大学からの応援を要請したいとの希望があった。また県立中央病院より頻回となる週があり、変更要請があった。
4. 年末年始の救急医療体制について
 - ・現在予定されている年末年始の休日当番医、輪番病院の予定が報告された。今年は多くの医療機関が12月29日から1月3日まで休診する予定である。
5. その他
 - 小児科医が次第に高齢化しており、将来休日当番医や夜間急患診療所への出勤医師の確保が難しくなる可能性があるとの発言があった。

5. 盛岡地区二次救急医療体制検討委員会

と き：令和5年11月20日(月)午後6時30分
ところ：盛岡市医師会館 2階会議室
司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
部 長 久保直彦

出席者

盛岡市医師会	会 長	吉 田 耕太郎
盛岡地区二次救急医療対策委員会	委 員 長	
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	久 保 直 彦
盛岡赤十字病院	院 長	
岩手医科大学 救急・災害医学講座	教 授	眞 瀬 智 彦
岩手県高度救命救急センター	センター長	
岩手県立中央病院	救急医療部長	須 原 誠
盛岡市立病院	副 院 長	佐々木 一 裕
遠山病院	院 長	千 葉 知
盛岡つなぎ温泉病院	院 長	関 博 文
川久保病院	院 長	田 村 茂
盛岡地区広域消防組合消防本部警防課	救 急 係 長	高 橋 潤 哉
盛岡市保健所 企画総務課	課 長	田 村 聡
〃	主 事	大 川 詩 歩

一 次 第 一

挨拶 題

1. 盛岡地区二次救急医療体制に関する検討(案)について

【検討項目】

- 1) 重篤な傷病者の病院選定の見直し
- 2) 二次救急病院の役割分担、病院機能を確認
- 3) 輪番制度の見直し
- 4) その他

1) 救急搬送における病院選定の見直し

岩手県救急業務高度化推進協議会より、地域メディカルコントロール協議会、各医師会において現行の救急患者搬送基準の確認を行なってほしいとの要請があった。盛岡地区では当委員会がこの役目を担うものとして先選定基準の見直しを図り、重篤な疾患が問題なく受け入れられるようにする。

2) 二次救急病院の役割分担、病院機能を確認

B群病院の役割(案)として

- かかりつけ患者の初期診療

- 病院周辺地域の患者の初期診療
- 重篤性、緊急性以外の症候、疾患、特に搬送困難例が多い高齢者の発熱、腰痛、関節痛などの初期診療を行う
- やむをえず三次救急病院へ入院した軽症患者を受け入れる

3) 輪番制度の見直し

輪番病院は、平成15年来、現在「最終入院受け入れ病院」としてA群、B群の2病院の輪番制になっている。「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」では搬送順位の最後が輪番病院となっているので現状のままが適当と思われる。継続検討とする。

6. 盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会

日 時：令和5年7月14日（金）午後7時
場 所：アートホテル盛岡（3階 鳳凰の間）



令和5年7月14日（金）午後7時よりアートホテル盛岡3階鳳凰の間にて開催された。令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため書面会議としていたが、昨年度より対面での会議となり、本年度も対面での開催となった。吉田会長、廣田喜之盛岡市保健福祉部長、高橋享孝盛岡市子ども未来部長、加藤彩子盛岡市保健衛生監の挨拶のあと協議が行われた。

【内容】

1. 開会

2. 挨拶

盛岡市医師会	吉田耕太郎	会長
盛岡市保健福祉部	廣田 喜之	部長
盛岡市子ども未来部	高橋 享孝	部長
盛岡市保健所	加藤 彩子	保健衛生監

3. 議題

- 1) 令和5年度盛岡市保健福祉部・子ども未来部主要事業について



盛岡市保健福祉部
廣田 喜之 部長



盛岡市子ども未来部
高橋 享孝 部長

事前配布された資料の概要は以下のとおり。

保健福祉部の主要事業として地域福祉課で「共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会」の実現のため、重層的支援体制整備事業、民生・児童委員関係事業、避難行動要支援者避難支援事業を実施。障がい福祉課で障がいのある人が地域の一員として安心して暮らすことができるように、障がい者相談支援事業で相談対応の体制構築を図る。介護・訓練等の給付事業により支援を行う。長寿社会課で令和3年度から5年度までを計画期間とする盛岡市高齢者保健福祉計画・第8期介護

保険事業計画に基づき、地域包括ケアシステムの一層の推進をする。地域包括支援センターの充実と生活支援体制整備を進め、支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、生活支援の仕組みづくりに力を入れていく。その他、一般介護予防事業や認知症施策の推進にも取り組む。介護保険課では介護を必要とする高齢者に対して、介護保険制度の円滑な運営により、質の高いサービスを総合的かつ持続的に提供できるよう、計画に基づき介護サービス基盤の整備の実施。また介護サービス事業所における従事者不足が大きな課題となっていることから、新人介護職員等の早期離職防止及び定着等を支援するための事業を実施。介護従事者確保事業の推進のため、介護職員奨学金返還支援事業の実施。生活福祉第一課・第二課では生活保護事業として要保護者に対し、生活保護法の規定に基づく保護を行い、最低限度の生活を保障するとともに、ケースワークや各種支援プログラムの実施により、被保護者の支援に取り組む。また生活困窮者自立相談支援事業や住居確保給付金の支給、学習支援事業等を実施。

子ども未来部の主要事業として子ども青少年課では児童館管理運営・児童館整備事業として施設整備や運営の支援を実施。子育てあんしん課では保育士確保対策事業として市内保育所等に勤務する保育士の確保を図るため、生活支援が必要な保育士のために補助金等を交付。私立児童福祉施設等運営事業や認定こども園等運営費給付事業を実施。

母子健康課では母子保健事業として母子の健康増進を図るため、健康診査や健康教育、健康相談、訪問指導を実施し、妊娠、出産、子育てが安心してできるよう、妊娠期からの継続した子

育て支援を実施。

盛岡市保健所の主要事業として、企画総務課では夜間急患診療所管理運営事業、小児救急輪番制病院事業、成人健康診査事業等を実施。健康増進課では、健康教育事業（受動喫煙防止対策等）として望まない受動喫煙が生じないように、受動喫煙に関する知識の普及、受動喫煙の防止に関する意識の啓発、受動喫煙防止に必要な環境の整備その他の受動喫煙を防止するための措置を総合的かつ効果的に推進する。指導予防課では予防接種事業として予防接種法に基づき、乳幼児、児童・生徒及び高齢者の疾病予防を目的とした、各種予防接種を実施。生活衛生課では動物愛護事業として犬猫の保護収容、動物取扱業の登録と監視指導、適正飼育に係る指導・啓発の業務の実施。また市民による地域ねこ活動を支援し、所有者不明猫対策を推進するとともに、保健所に保護された猫の譲渡を促進し、殺処分をなくすため、保護猫一時預かりボランティア支援事業を行う。

会議では、主要事業の中でポイントとなる取り組みについて説明があった。

- (1)盛岡市社会福祉審議会障がい福祉専門分科会審査部会等について（障がい福祉課）
- (2)在宅医療・介護連携推進事業について（長寿社会課）
- (3)第9期（令和6年度～）介護保険事業計画の策定等について（介護保険課）
- (4)生活保護費における医療扶助の実績等について（生活福祉第一課・第二課）
- (5)在宅医療提供体制推進事業等について（保健所企画総務課）
- (6)高齢者及び幼児等のインフルエンザワクチン接種について（保健所指導予防課）

(7)妊娠期からの出産、子育て支援の取り組みについて（母子健康課）

2)盛岡市医師会からの要望事項について

(1)妊婦健診の精度管理について、(2)盛岡市骨粗鬆症予防検診の個別化実現について、(3)带状疱疹ワクチン接種の公費助成についての3要望事項については、県などと連携を図りながら調査、研究を実施し、財政や他の事業とのバランスを調整のうえ検討していきたいとの回答であった。

会議終了後4年ぶりに懇親会が開催された。矢野盛岡市保健所長の乾杯で始まり、金子博純副会長の挨拶にて閉会となった。

盛岡市医師会からの要望事項に対する回答

▶要望事項 No.1

妊婦健診の精度管理について

妊婦健診で実施されている子宮頸がん検診は、市のがん検診と同様に公的な検診ですが、その結果解析や適正な子宮頸部細胞診の実施方法の検討は十分になされていないと思われます。市のがん対策に反映するためにも、精度管理の充実を図っていくべきだと思います。

▶回答（子ども未来部母子健康課）

子宮頸がん検診後の精度管理につきましては、市のがん対策上、重要な観点であると認識しております。一方で、岩手県内で、概ね統一された内容で実施しているところであり、管理のあり方などについては、産科医療機関の先生方からご意見をいただきながら、関係機関・関係部署等と検討してまいりたいと存じます。

▶要望事項 No.2

盛岡市骨粗鬆症予防検診の個別化実現について

盛岡市は、ほねケア検診を行うことで

骨粗鬆症の早期発見に尽力されておられます。着実に実績を積み上げられてくれましたこと心から感謝申し上げます。

骨粗鬆症は、骨の強度が低下して骨が脆くなる疾患です。特に女性の場合、骨密度のピークは20代前半と言われ、女性ホルモンが低下し始める数年前から骨密度の低下が生じ、徐々に骨が弱くなっていきます。加齢による運動能力低下と相まって骨折し易くなった骨は、転倒などの軽微な力で骨折が生じます。その結果、日常生活の質が落ちて健康寿命が低下します。寝たきりになると身体機能の低下が生じて生命予後にも影響がでます。要介護認定率が増加する中、要支援・要介護の原因の約25%は運動器の障害です。その約半数を骨折が占めていますが、骨粗鬆症はその主たる要因です。

しかし、骨折をしない限り症状に乏しいため骨粗鬆症は自覚することが困難な疾患です。そのため、骨粗鬆症を罹患していることを分からないまま未治療になっている人がとても多いことが知られています。我が国では、骨粗鬆症は推定約1280万人いると言われていますが、約200万人しか治療を受けていません。

骨粗鬆症検診の受診率が5%高くなると、要介護率が約1.5%低くなるという報告があり、受診率を上げることで要支援・要介護を必要とする人を減らす効果が期待されます。そして、元気に働ける健康な人的資源を確保し、経済的な活力を増進する効果が期待されます。つまり、骨粗鬆症検診は少子高齢社会を支える大切な検診であると考えられます。

現在の盛岡市のほねケア検診は集団検診でその受診者数は350名程度です。盛岡市の骨粗鬆症罹患者は推定約3万人いると考えられることから、骨粗鬆症予防検診の受け皿の拡大は急務であると考えます。

そうした中、中核市の個別検診実施実績に基づいて算出された、個別化を実施

した場合の受診者数はおよそ1,800名と現在の5倍以上の受診が見込まれます。また、個別化は市民の利便性を向上させ、検診の受け皿を拡大することができるだけでなく、市民がよりスムーズに精密検査や治療を開始できる非常に効果的な施策であると考えます。

また、国の指針やこれまで盛岡市が積み重ねてきたデータに基づき、対象者をリスクの高い40歳以上の女性に絞ることによって、単なる検診規模の拡大だけではなく、より効果的な実施ができるものと考えます。

市民の健康増進と維持のため、そして、要支援・要介護の比率を低下させ、転倒による骨折の予防による医療費の削減し、高齢者の労働力向上による社会の活性化を後押しするために、是非とも、骨粗鬆症個別検診の実施についてご検討下さるようお願い申し上げます。

▶回答（保健所企画総務課）

「骨粗鬆症予防検診の個別化」につきましては、これまで、中核市における実施状況等の照会や、財政部局に対し予算確保の取り組みを行っております。

調査状況につきましては、令和3年度は、中核市における受診率の調査を行い、個別検診を実施している自治体の方が、集団検診実施のみの自治体よりも受診率が7.6%高いことを把握しております。

また、令和4年度は、過去に、ほねケア検診を受診した市民の要介護認定率が、市全体の要介護認定率よりも約16%低いことから、検診及び事後指導が介護予防に効果があることを推察しており、要望書にもありますとおり、要介護認定率を抑える可能性があることを分析しております。

令和5年度においては、骨粗鬆症予防検診の実施方法と介護認定率、介護給付額について、中核市照会を行っております。この照会により、実施方法の違いによる、要介護認定率と介護給付費へ影響

があるかについて分析し、財政部局に対し、効果や有効性をアピールしたいと考えております。

現在、国において、骨粗鬆症検診の対象者の拡充を想定し、実施要領を見直す検討を始めているところであり、今後の国の動向を注視しながら、より多くの市民に受診の機会を与えることができる、個別化が実現出来るよう、引き続き、予算確保へ努めてまいります。

▶要望事項 No.3

帯状疱疹ワクチン接種の公費助成について

帯状疱疹の発症率は50歳代から増加し、80歳までに3人に1人が罹患すると言われております。罹患後の痛みが長く続く患者さんもあり、超高齢社会において帯状疱疹の予防の意義は大きいと考えます。

帯状疱疹ワクチンは、水痘生ワクチンと、不活化帯状疱疹の2種類があります。不活化帯状疱疹ワクチンシングリックスについての、国際共同第Ⅲ相試験において、帯状疱疹発症の予防効果は50歳以上の対象者で97%、70歳以上で89%と有効性が示されています。市民からワクチン接種の要望は日常よくあるものの、接種費用が不活化ワクチンでは4万円以上になることから、経済的な理由で断念される場合をよく経験致します。肺炎球菌ワクチンのように助成する年齢を決めての実施であれば、医療機関に過度な負担をかけることなく、医療費抑制の試算もされています。全国的にワクチンの費用を助成する自治体は増えてきており、助成についてご検討いただきたく提案致します。

▶回答（保健所指導予防課）

帯状疱疹ワクチンにつきましては、高齢者が接種することによって帯状疱疹後疼痛のリスクの回避又は軽減の効果が見込めることの意義は大きいと考えており

ます。

令和5年4月以降、助成を開始した市町村が増えているところではありますが、

引き続き助成の可能性について検討してまいります。

(佐藤直也)

出席者名簿

盛岡市医師会

会長	吉田 耕太郎	産科婦人科吉田医院
副会長	金子 博純	金子胃腸科内科
副会長	工藤 卓次	くどう医院
理事(総務部長)	橋本 真生	はしもと眼科クリニック
理事(保険部長)	鈴木 知己	鈴木内科医院
理事(地域医療部・在宅医療部統括部長)	久保田 公宜	久保田医院
理事(医療安全・医療事故予防対策部長)	加藤 貞文	かとう整形外科クリニック
理事(学幼保医部長)	小林 有一	小林小児科クリニック
理事(学術部長)	千葉 隆史	ちば耳鼻咽喉科クリニック
理事(地域医療部1部長)	佐藤 直也	なおや脳神経・頭痛クリニック
理事(検診部長)	石井 基弘	石井内科消化器科医院
理事(地域医療部2部長)	滝川 佐波子	西松園内科クリニック
理事(地域医療部)	谷藤 典子	谷藤眼科医院
事務局長	及川 敬一郎	
次長	水本 達彦	

盛岡市

保健福祉部

部長	廣田 喜之
次長	坂本 淳
地域福祉課長	齋藤 美希
障がい福祉課長	畑山 紀枝
長寿社会課長	佐藤 亮
介護保険課長	川目 昌竜
生活福祉第一課長	西村 輝
生活福祉第二課長	相馬 英洋

(保健所)

保健衛生監	加藤 彩子
保健所長	矢野 亮佑
次長	高橋 宏英
企画総務課長	田村 聡
指導予防課長	山崎 剛
健康増進課長兼保健師長	壽 真弓
生活衛生課長	佐藤 美樹子

子ども未来部

部長	高橋 享孝
次長	佐久山 久美子
子ども青少年課長	杉田 博信
子育てあんしん課長	佐々木 俊幸
母子健康課長	澤口 佐知子
子ども家庭総合支援センター所長	昆 秀博

新型コロナワクチン接種実施本部事務局

事務局長	小原 幹男
------	-------

7. 第40回救急医療学術講演会

日 時：令和5年9月15日（金） 午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和5年9月15日(金)午後7時より盛岡グランドホテルにて開催された。出席者は医師、消防・行政関係者を含め82名であった。講演の要旨は以下の通りである。

【講演】

演題『わが国の救急医療の現状と課題、災害医療も含めて』

講師 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター

大友 康裕 病院長



【講演要旨】

1 医師不足、医師の地域偏在対策と働き方改革

東北、岩手県では医師不足が深刻で、その対策として医師不足の県の知事が集まり提言を出している。地域医療崩壊の

危機、偏在の現実と是正を図ったが、都道府県の努力ではなかなか上手く行かない。医学部の定員増、奨学金支給などで取り組んだが限界があるという内容である。救急医学会では、この医師不足に対して大学病院やナショナルセンターを除いた救急専門医がいる病院へアンケート調査をした。その結果で、救急科専門医が3.5人いる病院では、地方の病院でも他の診療科に新しく勤務する医師が増えているという。また5年後同様の調査をしたが、救急専門医プログラムを持っている病院では医師が増加している。また救急科専門医が1人増えると他の診療科の医師が2.5人増えてきているという結果であった。

また、医師の働き方改革に関するシンポジウムを開催したが、医師不足とは、少なくとも平日の日中に来る患者を診療する医師が不足している訳ではない、医

師が足りないのは、休日夜間に診療できる医師が不足しかつ偏在しているのが現実ではないのかという指摘があった。時間外労働の多い、救急、外科、産婦人科を診る内科、脳神経外科などが不足しているのが問題であり、これらの診療科は労働時間も長く、この診療科の医師の労働時間を短縮させないと働き方改革の解決にはならない。岩手の医師の増加計画では、どの科の医師でもよいから増やすという計画であるようだが、労働時間の短い診療科を増やしても医師不足は解決しない、都会でも足りない上記の診療科を集中的に増加しないと解決できない。

また、医師の偏在には診療科と業種の偏在がある。業種とは開業医と勤務医とに分けると、開業医は勤務医に比較して労働時間が少なく収入が多い。医師不足とは勤務医が少なく、開業医は足りている。今後は医師全体ではなく、病院勤務の医師、救急医を増やすことが医師不足解消の本質である。

2 政府要人の銃撃事例と救急センターの受け入れ態勢

昨年安倍元首相が銃撃され、現場で心肺停止になり心肺蘇生しながら搬送されたが死亡した。この銃創のような重症外傷を救うには救急室での開胸手術が行われるが、その処置は銃創、心臓損傷については救命率が高いので意義があり、心



停止前で開胸すれば100%救命できる。到着後心肺停止でも50%程度救命できる可能性があるが、現場心停止、搬送も心停止では救命率0%であるので、安倍元首相の場合には救命は難しかった。また15分以上CPRでも救命率は0%である。また1995年の国松警察庁長官の狙撃事件の事例を詳細に提示された。この例では日本医大病院到着後直ちに手術、大量輸血を行い、手術中に6回心停止したにも関わらず、社会復帰するまで回復された貴重な症例であった。

3 関東大震災から100年 現在に生きる教訓

関東大震災から100年経過し、記念する会が多く開かれている。先の災害医学会でもシンポジウムが開かれた。関東大震災は日本の自然災害史上最大の人的被害で10万5千人が死亡している。この原因としては、政府の初期対応、医療機関の被災、情報の不備混乱、調整機能の欠落、外部からの支援が遅れたことが挙げられ、その後の災害の教訓となった。例えば隅田川の東にあった陸軍被服廠というところでは38,000人が亡くなっているが、その後の調査で翌日まで20,000人が生きていたことがわかっていて、しかし救護活動が始まったのは3日後で遅くなったために救えた命を救えなかったと思われる。また医療機関211箇所中162が焼失し、医師1,200人中100人が死亡するなど医療資源の喪失も大きかった。当時の政府は、8月24日現職総理大臣が死亡し急遽総理はきまったが組閣ができておらず、対策本部設置は翌日になるなど初期対応が遅れた。また、情報が混乱し朝鮮人に関するデマと迫害や暴動があり、陸軍、警察がそちらに戦力を向けなければならなかったなども影響したといわれる。

この大災害に対して、帝都復興事業を

計画し、震災や火災に強い、品格のある首都を目指し素晴らしい道路、橋を作った。これらの道路や橋、また復興小学校は頑丈で現在も生き続けている。しかし、戦争で破壊され、戦後経済復興と東京オリンピックのための無理な工事で、品格は二の次、首都としての機能を優先されてしまい、災害に強い都市とはいえなくなった。医療も同様に戦傷医療から戦後復興医療と災害がなかったため平和ボケが続き、机上の空論に終始していた。1995年阪神大震災が起きたが、関東大震災と全く同じように、例えば政府の対応は通常の閣議を行なった後の10時以降

に対策本部を設置するなど5時間以上かかっているなど対応の遅れがみられた。関東大震災の教訓が阪神大震災に引き継ぎができなかったといえる。阪神大震災以降は、災害医療も着実に進歩し問題点を解決している。

以上のように3つの項目についてご講演いただいた。その後、情報交換会が元岩手医大高度救命救急センター長遠藤重厚先生の挨拶、乾杯のご発声で開催された。

(久保直彦)

医師不足・医師偏在の実態

要は、夜間休日も労働強度が高い診療科の医師が不足している

医師不足は
「夜間・休日に診療する医師」の不足

医師偏在は
「夜間・休日に診療する医師」の偏在

前橋赤十字病院 中野病院長スライド

医師不足・医師偏在の実態

要は、夜間休日も労働強度が高い診療科の医師が不足している

医師不足は
「夜間・休日に診療する医師」の不足

医師偏在は
「夜間・休日に診療する医師」の偏在

前橋赤十字病院 中野病院長スライド

医師不足・医師偏在の実態

要は、夜間休日も労働強度が高い診療科の医師が不足している

医師不足は
「夜間・休日に診療する医師」の不足

医師偏在は
「夜間・休日に診療する医師」の偏在

前橋赤十字病院 中野病院長スライド

医師不足・医師偏在の実態

要は、夜間休日も労働強度が高い診療科の医師が不足している

医師不足は
「夜間・休日に診療する医師」の不足

医師偏在は
「夜間・休日に診療する医師」の偏在

前橋赤十字病院 中野病院長スライド

2023年
関東大震災100年

何故？
死者・行方不明者 約10万5千人

2023年
関東大震災100年

何故？
死者・行方不明者 約10万5千人

8. 令和5年度 盛岡市総合防災訓練

日 時：令和5年11月18日（土） 午前9時
場 所：きたぎんボールパーク



令和5年11月18日(土)午後9時よりきたぎんボールパークにおいて、令和5年度盛岡市総合防災訓練が行われた。下記の災害設定・訓練内容にて実施された。

災害設定：震度6強の地震が起きて建物が倒壊し多数の負傷者が発生。

医療関係訓練

- 1 応急救護所設営訓練、トリアージ訓練、医療救護訓練
- 2 負傷者救急搬送訓練
- 3 医療機関負傷者受入訓練：盛岡赤十字病院

訓練内容

【応急救護所設営訓練、トリアージ訓練、医療救護訓練】

参加医療機関：盛岡赤十字病院、岩手医科大学、県立中央病院、盛岡友愛病院、岩手県看護協会

訓練内容：きたぎんボールパーク多目的広場に応急救護所を設置。自主防災隊が災害現場から負傷者を救急指揮所（DMATリーダー及び看護師を配置）に搬送し、トリアージポストからの患者情報を一覧に記載、応急救護所に搬送。応急救護所にて2次トリアージを行い、軽症：緑、中症：黄色、重症：赤の救護テントで応急処置、救急搬送の訓練を行った。

なお、最後の救急搬送者を盛岡赤十字病院まで実際に搬送した。

(久保直彦)

寄稿

盛岡市総合防災訓練に参加して

盛岡友愛病院 看護師 佐藤大紀

11月18日に盛岡南公園にて、総合防災訓練が行われ当院からは医師1名、看護師2名での参加となった。今回は「トリアージ・医療救護訓練」への参加で、私たちのトリアージ班は黄色班で他院DMATチームとの合同であった。災害現場に於ける医療については、学生の時に勉強した以来で知識もほとんどないなかで、何ができるか考えながら訓練に当たった。

訓練開始に伴い、続々と事務職員が搬送の連絡を受け、傷病者の受け入れ、初期対応を行っていった。普段、施設内で行っている移乗、移送、診療補助のどれ一つとっても、限られたリソースの中でやらなければならないことに戸惑いを感

じながら傷病者への対応を行っていった。スタッフ間で声を掛け合いながら、一つずつやるべきことをこなせたと思う。今回の訓練で対応した傷病者数は数名と少なかったが、実際の災害現場においては、訓練よりも多く、重症度も大きくばらつくことが考えられる。そういった現場に対応できるようにより多くの場合を想定して、より迅速に対応していく必要があると感じた。

本年元日に、北陸地方でも大きな災害見舞われ、より一層災害に対する準備の重要性を感じている。物品の準備だけでなく、いざ起こったとき何ができるか、どう行動するか、今回の訓練の経験を活かして生きたいと感じた。







9. 令和4年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議

(令和5年3月27日付書面催)

1. 報告

- (1) 令和3年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算について
 - ① 令和3年度盛岡地区二次救急医療事業決算書
 - ② 令和3年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)決算書

2. 協議

- (1) 令和4年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について
 - ① 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業予算書
 - ② 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)予算書
- (2) 令和4年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について
 - ① 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表
 - ② 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表(小児救急)

3. その他

- (1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会会計について
 - ① 令和3年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計決算書
 - ② 令和4年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計予算書

上記について、特に意見はなく協議事項に関してはどちらの項目も承認すると回答した。

令和5年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議

(令和5年12月6日付書面催)

1. 報告

- (1) 令和4年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算について
 - ① 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業決算書
 - ② 令和4年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)決算書

2. 協議

- (1) 令和5年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について
 - ① 令和5年度盛岡地区二次救急医療事業予算書
 - ② 令和5年度盛岡地区二次救急医療事業(小児救急)予算書
- (2) 令和5年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について
 - ① 令和5年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表
 - ② 令和5年度盛岡地区二次救急医療事業市町別負担金割当表(小児救急)

3. その他

- (1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会会計について
 - ① 令和4年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計決算書
 - ② 令和5年度盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計予算書

上記(1)について、二次救急に対する補助金は土曜が休日の50%となっているので、小児救急に対する補助金同様、土曜も休日と同額とするのが妥当と思われ、予算の検討を再度要望した。その他については特に意見はなく協議事項に関してはどちらの項目も承認すると回答した。

10. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

平成16年10月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。

相談業務は年中無休で午後7時から午後11時までの準夜帯は岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用する11名の看護師のうち2名ずつで担当している。また令和5年2月より深夜帯を全国規模で電話相談サービスを行っている事業者へ委託し、「夜間ケアダイヤル」の名称で午後11時～翌朝8時まで相談を受け付けている。

相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月1回相談員全員と小児科医3名ほどが同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移 (H26.1～R5.12)

準夜帯：午後7時～午後11時

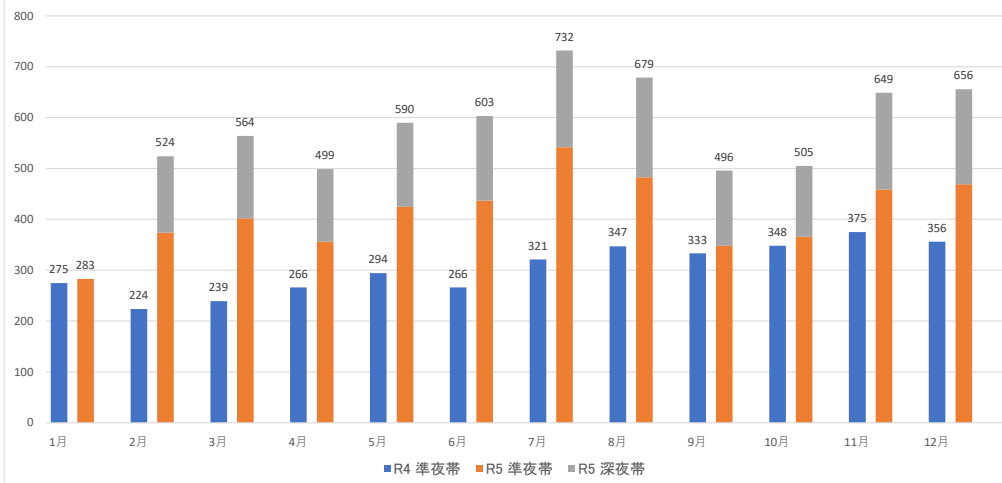
深夜帯：午後11時～翌朝8時

(件)

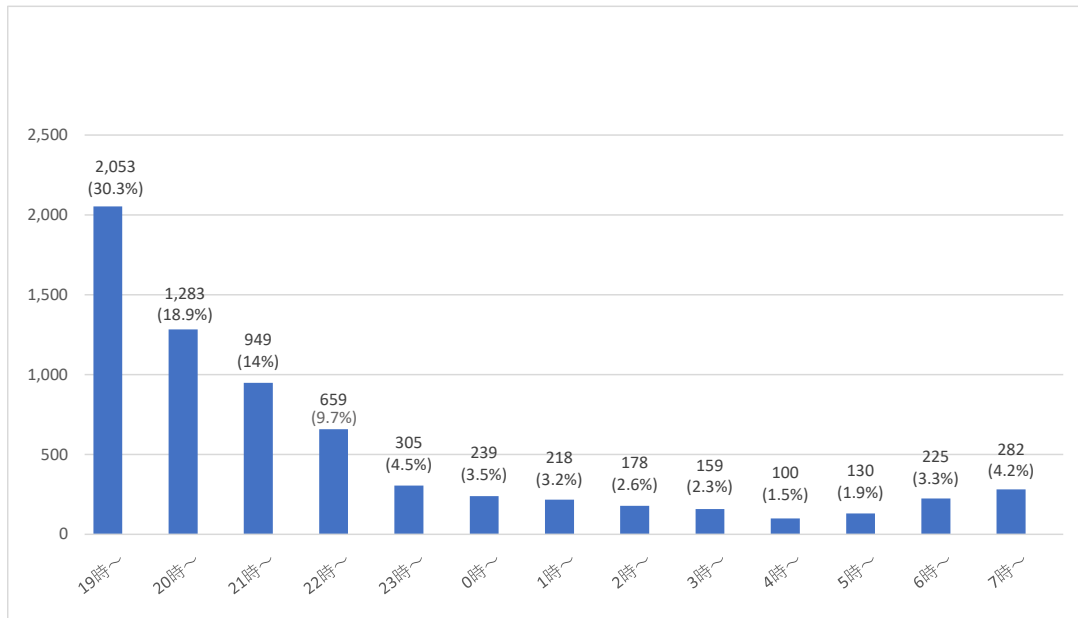
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成26年	準夜帯	277	246	331	301	283	257	285	331	272	267	291	408	3,549	295.8
平成27年		364	256	240	245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成28年		301	337	337	369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成29年		297	261	258	315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3
平成30年		398	338	327	374	376	327	437	426	328	352	324	333	4,340	361.7
令和元年		407	373	348	399	452	377	404	451	378	343	365	397	4,694	391.2
令和2年		386	321	277	236	243	267	227	283	238	251	204	235	3,168	264.0
令和3年		224	197	253	301	294	270	319	301	247	252	301	308	3,267	272.3
令和4年		275	224	239	266	294	266	321	347	333	348	375	356	3,644	303.7
令和5年		準夜帯	283	374	402	356	425	437	542	483	348	366	459	469	4,944
	深夜帯	-	150	162	143	165	166	190	196	148	139	190	187	1,836	166.9

2. 月別件数（前年度との比較）

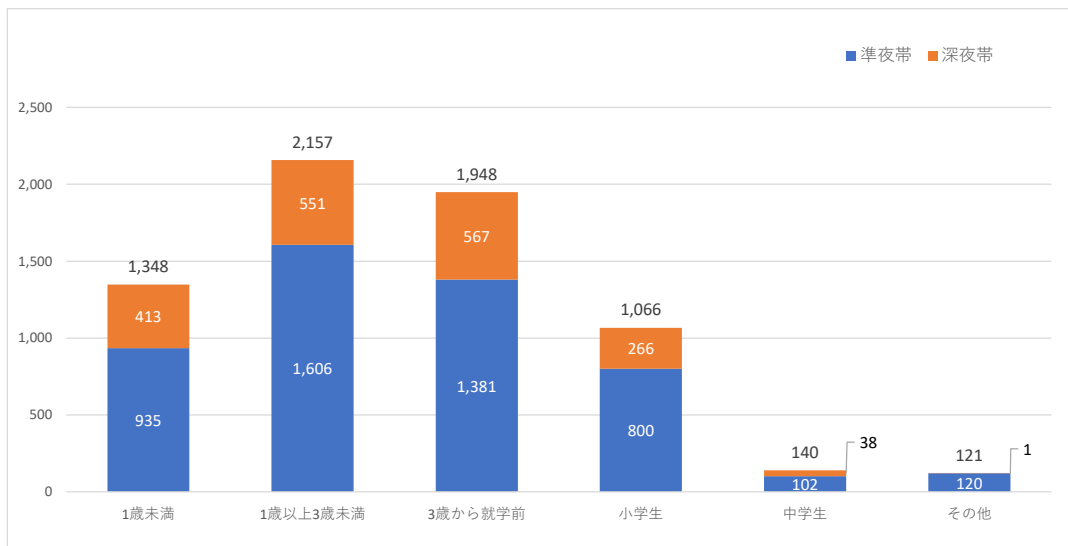
◇令和4年 3,644件（月平均 303.7件）
 ◆令和5年 6,780件（月平均 565.0件）
 準夜帯：4,944件（月平均 412.0件）
 深夜帯：1,836件（月平均 166.9件）



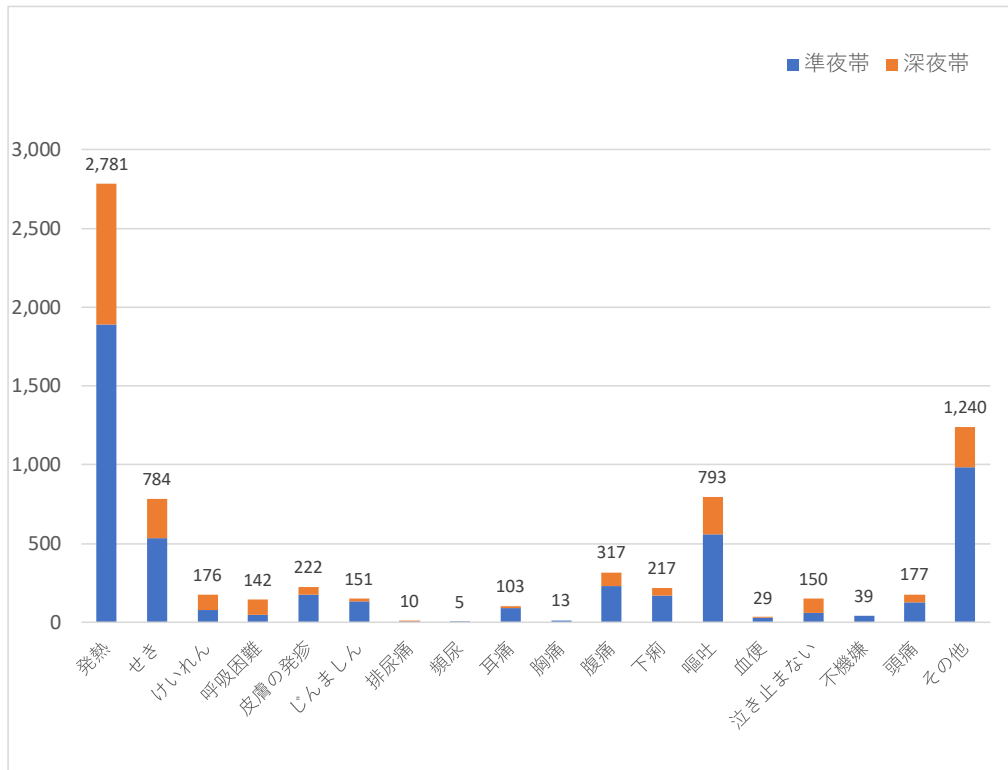
3. 時間帯別内訳 (R5.1～12)



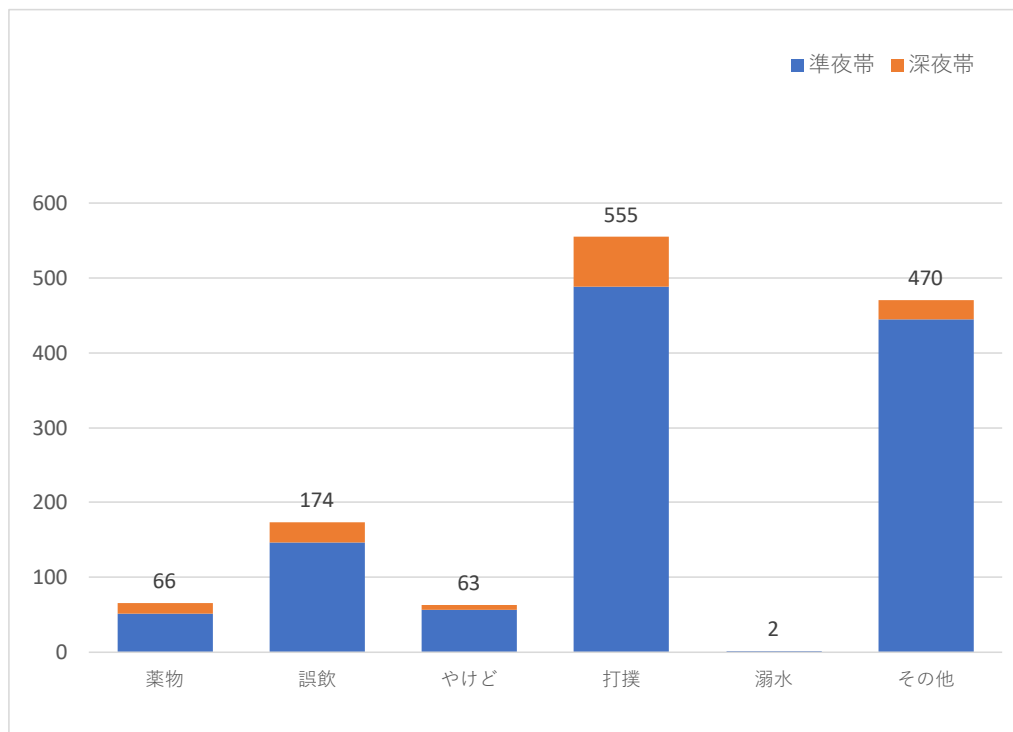
4. 年齢別内訳 (R5.1～12)



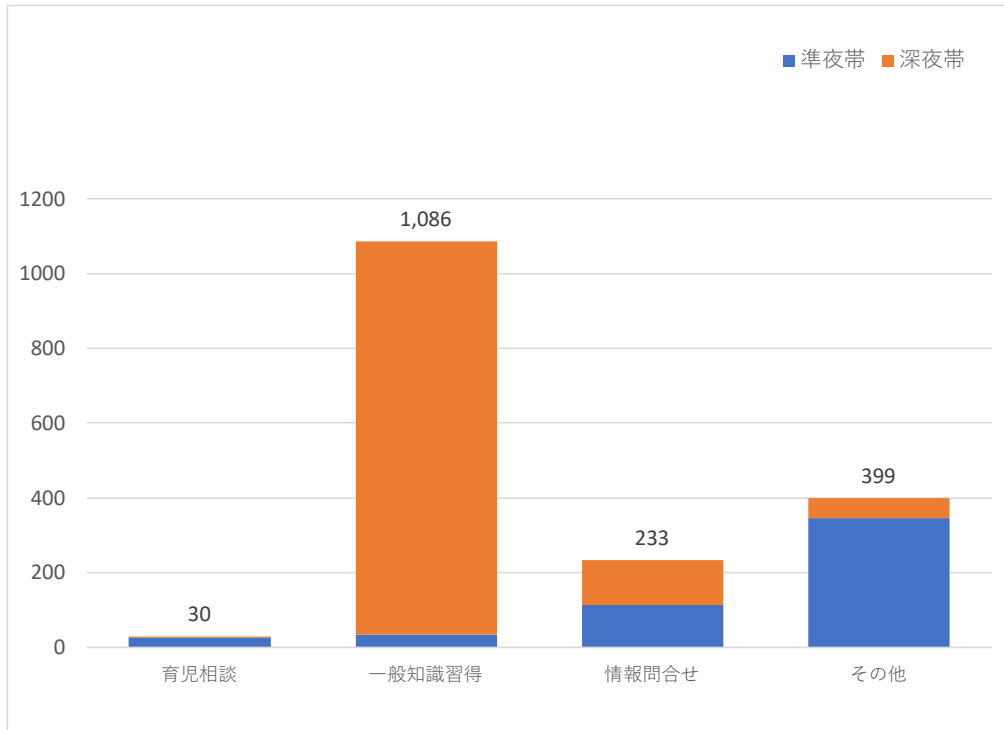
5. 相談別内容（病気）



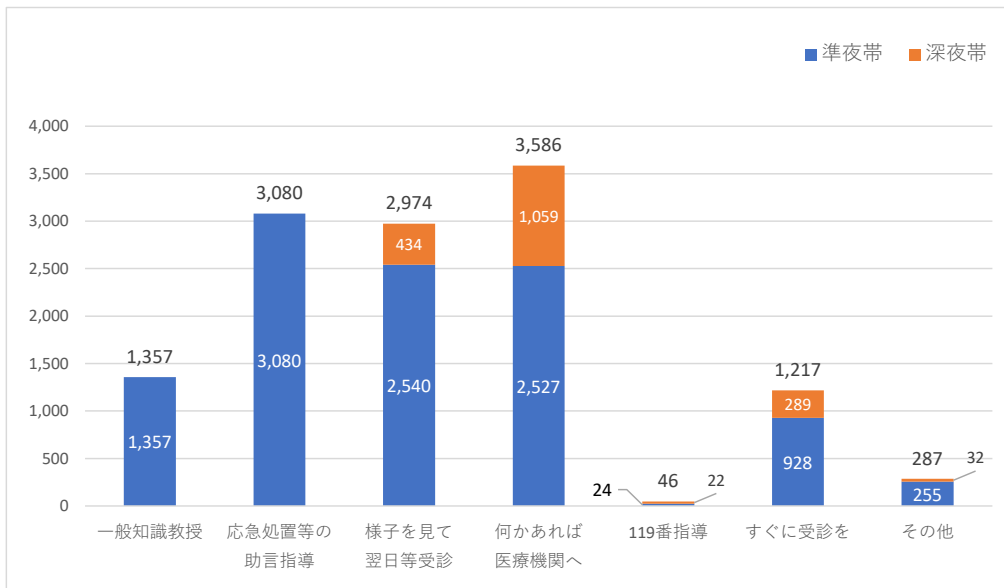
6. 相談内容（事故）



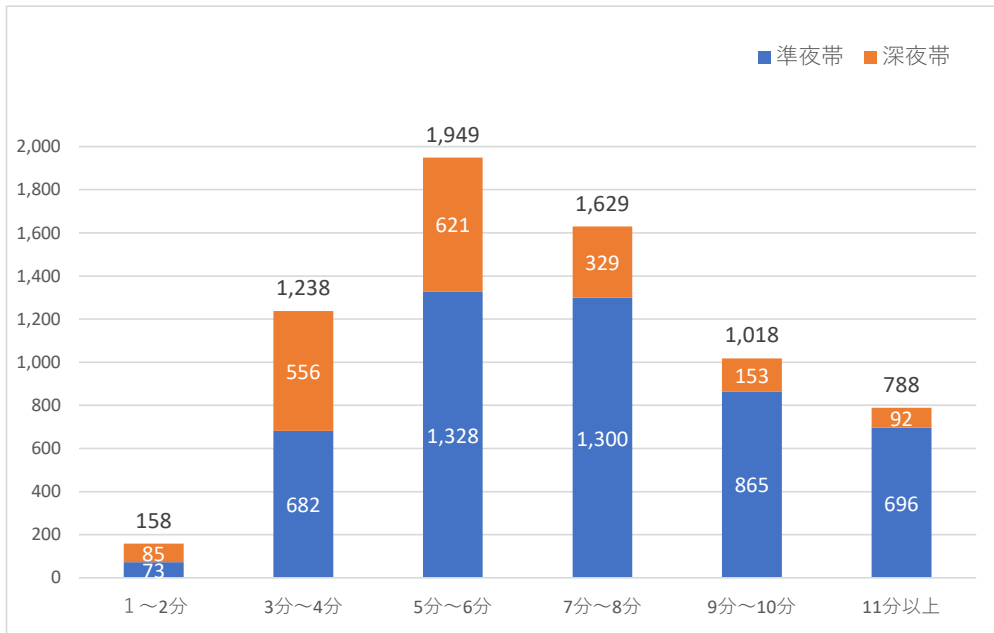
7. 相談内容（その他）



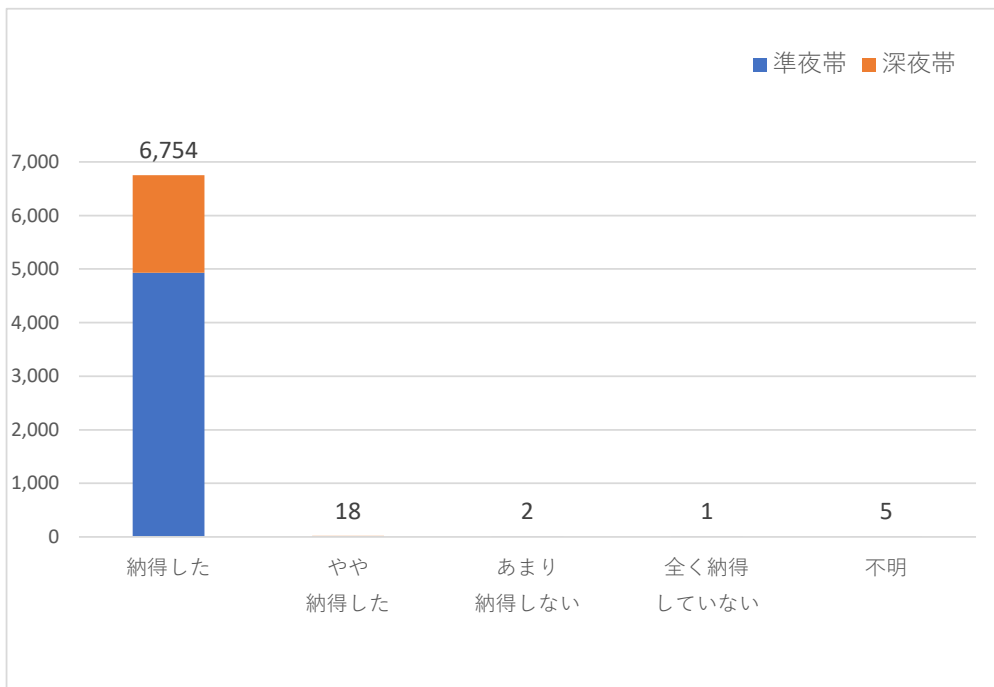
8. 対応内容別内訳（R5.1～12）



9. 相談時間別内訳（R5.1～12）



10. 相談者の印象別内訳（R5.1～12）



11. 市町村別件数 (R5.1～R5.12)

市町村名	相談件数		合計	()内%
	準夜帯	深夜帯		
市部計	4,254	1,594	5,848	(86.25)
盛岡市	1,810	667	2,477	(36.53)
宮古市	119	46	165	(2.43)
大船渡市	124	55	179	(2.64)
奥州市	317	118	435	(6.42)
花巻市	429	153	582	(8.58)
北上市	337	134	471	(6.95)
久慈市	54	20	74	(1.09)
遠野市	72	22	94	(1.39)
一関市	415	142	557	(8.22)
陸前高田市	49	21	70	(1.03)
釜石市	63	25	88	(1.30)
二戸市	37	15	52	(0.77)
八幡平市	62	27	89	(1.31)
滝沢市	366	149	515	(7.60)
岩手郡	110	34	144	(2.12)
雫石町	44	20	64	(0.94)
葛巻町	9	0	9	(0.13)
岩手町	57	14	71	(1.05)
紫波郡	319	121	440	(6.49)
紫波町	192	64	256	(3.78)
矢巾町	127	57	184	(2.71)
県外	17	0	17	(0.25)
不明	18	2	20	(0.29)

市町村名	相談件数		合計	()内%
	準夜帯	深夜帯		
和賀郡	7	8	15	(0.22)
西和賀町	7	8	15	(0.22)
胆沢郡	60	17	77	(1.14)
金ヶ崎町	60	17	77	(1.14)
西磐井郡	14	8	22	(0.32)
平泉町	14	8	22	(0.32)
気仙郡	5	8	13	(0.19)
住田町	5	8	13	(0.19)
上閉伊郡	28	11	39	(0.58)
大槌町	28	11	39	(0.58)
下閉伊郡	55	20	75	(1.11)
山田町	27	7	34	(0.50)
岩泉町	18	8	26	(0.38)
田野畑村	6	5	11	(0.16)
普代村	4	0	4	(0.06)
九戸郡	43	11	54	(0.80)
軽米町	7	2	9	(0.13)
洋野町	22	9	31	(0.46)
野田村	10	0	10	(0.15)
九戸村	4	0	4	(0.06)
二戸郡	14	2	16	(0.24)
一戸町	14	2	16	(0.24)
合計	4,944	1,836	6,780	

おわりに

令和5年2月より、これまでの「こども救急相談電話」(準夜帯：午後7時～午後11時)に続く相談窓口として「夜間ケアダイヤル」(深夜帯：午後11時～翌朝8時)がスタートした。電話相談件数は準夜帯が4,944件、深夜帯が1,836件、合計6,780件(月平均565.0件)であった。比較可能な準夜帯では、令和4年より1,300件増となり、過去最高だった令和元年の4,694に比べ250件増加している。新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から5類感染症に移行されてからは相談件数が増え始め、7月には初めて月に500件を超えた。

深夜帯に関しては月に150件～190件前後で月平均では166.9であった。また、深夜帯も準夜帯に似た傾向があることがわかった。

それぞれの内訳をみると昨年までと同傾向は大きく変わっていない。年齢別内訳では3歳未満が51.7%を占め、病気の相談では発熱に関する相談(37.8%)が最も多いという傾向は例年と同じである。

市町村別では、盛岡市からの相談が36.5%と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も0.25%認めた。また、相談時間は準夜帯では長くなる傾向がみられ、対応に苦慮する事例も少なくないが相談者の99.6%は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

V 救急医療年譜

- 昭和 40. 1.10 休日当番医制発足（内科、一日2ヵ所）
41. 7 休日当番医制に小児科および外科（それぞれ1日1ヵ所）が参加
51.12. 1 盛岡市夜間急患診療所が少年センター内（中の橋際、旧商工会議所）に開設
53. 3. 岩手県医業課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請
53. 6.16 盛岡市夜間急患診療所開設1周年記念式典開催
54.12. 1 盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制9病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 遠山病院 高松病院
栃内病院 河南病院 はらた病院
55.11. 1 岩手県高次救急センター開設
56. 9.10 盛岡市夜間急患診療所開設5周年記念懇談会開催
56.12 内丸病院が二次救急病院群輪番制に参加
57. 2. 6 盛岡市夜間急患診療所が若園町・市役所若園町分庁舎1階に移転、診療開始
57.10.15 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜8:00～12:00→夜7:30～11:30）
58. 7 はらた病院が二次救急病院群輪番制を辞退
62.11. 1 盛岡市夜間急患診療所が肴町盛岡市保健センター2階に新築移転、診療開始
62.11.14 盛岡市夜間急患診療所落成式開催
平成 4. 4. 1 盛岡市・都南村合併
5. 1 河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退
7. 4. 1 盛岡繋温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加
輪番病院を南北2ヶ所におく
8.12. 7 盛岡市夜間急患診療所開設20周年記念式典開催
11. 4. 1 小児救急病院群輪番制7病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
もりおかこども病院
11.11. 1 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜7:30～11:00→夜7:00～11:00）
12. 4. 1 国立療養所盛岡病院が二次救急病院群輪番制に参加
12. 9. 1 南北にそれぞれおいていた輪番病院をA、Bの二グループに変更
Aグループ
岩手県立中央病院 盛岡赤十字病院 岩手医科大学附属病院
Bグループ
盛岡市立病院 遠山病院 高松病院 栃内病院 内丸病院
盛岡繋温泉病院 盛岡友愛病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
13. 2.22 盛岡地区二次救急医療体制20周年記念式典開催
14. 2. 1 岩手県高次救急センターを「岩手県高度救命救急センター」と改称
14. 9. 1 国立療養所盛岡病院が小児救急病院群輪番制を休止
16.10. 1 看護師によるこども救急電話相談の開設
17. 4. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
17. 9. 1 西根町・松尾村・安代町が合併し「八幡平市」となる
18. 1.10 玉山村が盛岡市と合併

- 19. 3.24 盛岡市夜間急患診療所開設 30 周年を祝う会開催
- 19. 4. 1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止（産婦人科も休止）
- 20. 4. 1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20. 4. 1 盛岡市が中核市となる
盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所（神明町：旧競馬会館ビル）に移転開設
- 20. 6.14 岩手・宮城内陸地震発生（最大震度 6 強）
- 20. 6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成（全会員へ送付）
- 20. 7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生（最大震度 6 強）
- 21. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21. 3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21. 5 新型インフルエンザの国内発生
- 21. 6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応（H 22.1.3 まで）
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制 30 周年記念式典開催
- 22. 4. 1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加（B 群病院として）
- 23. 3.11 東北太平洋沖地震発生（後に東日本大震災）
PM2：46 発災、マグニチュード 9.0（最大震度 7）、
津波による死者・行方不明者 19,000 人超
- 23. 3.12 遺体検案応援が始まる（盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は 6 月まで応援）
- 23. 5. 7 山田町保健センター救護所への当直応援開始（7/3 まで）
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 8. 7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始
※各診療部会で派遣対応
- 24. 5. 8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始（岩手医大矢巾キャンパス基地）
- 24.12.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援終了
- 25. 8. 9 大雨により「大雨洪水警報」発令
雫石町国道 46 号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25. 9.16 台風 18 号の影響により玉山区松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26. 1. 1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28. 3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了（閉所式）
- 28. 8.31 台風 10 号の影響により、岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有死者・行方不明者 24 名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式
- 31. 3. 1 国立病院機構盛岡病院が「国立病院機構盛岡医療センター」に名称変更
- 31. 4. 1 もりおかこども病院が「子どもは未来もりおかこどもクリニック」に名称変更
（無床化のため小児救急病院群輪番制を中止）
- 令和 1. 5.20 岩手県立中央病院（隣接地）にヘリポート完成
- 1. 6.18 国立病院機構盛岡医療センターが重症心身障がい者病棟（さくら病棟）を開棟
- 1. 7.20 岩手医科大学附属病院（矢巾）竣工
- 1. 9.21 岩手医科大学附属病院（矢巾）・内丸メディカルセンター開院
- 1. 9.24 岩手医科大学附属病院（矢巾）外来診療開始

- 令和 1.10. 1 国立病院機構盛岡医療センターが小児救急病院群輪番制への参加を再開
(平成 14 年 9 月に休止)
- 1.12 中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス発生
- 2. 1.24 新型コロナウイルスの国内発生
- 2. 4. 1 高松病院が二次救急病院群輪番制を休止
川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
- 2. 4.16 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、岩手県を含む全国が国の緊急事態
宣言の対象地域となる
- 2. 5.11 新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、岩手医科大学附属病院が小児救急
病院群輪番制から一時的に脱退
- 2. 5.14 岩手県を含む 39 県について緊急事態措置を解除
- 2. 7.29 県内で新型コロナウイルス感染症患者の判明
- 2.11.23 県内で新型コロナウイルス感染症による死亡例を確認
- 3. 1.26 感染症対策として二次救急医療対策委員会における会議にテレビ会議システ
ム (Zoom) を導入
- 3. 5.1 ~ 2 滝沢市アピオにて盛岡市内の医療従事者向けの新型コロナワクチンの接種を
5.22 ~ 23 行う (対象者は約 5,000 人)
- 3. 8.12 新型コロナウイルスの新規感染者が直近 1 週間で県全体の人口 10 万人当たり
15 人を超えたことにより、県独自の岩手緊急事態宣言が発出 (3.9.16 解除)
- 4. 1.23 ~ 2 回目となる県独自の岩手緊急事態宣言の発出 (4.5.30 解除)
- 4. 4. 1 岩手県立中央病院が県内 4 か所目となる救急救命センター (3 次救急医療機関)
に指定される
- 5. 5. 8 新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「新型インフルエンザ等感染症 (い
わゆる 2 類相当)」から「5 類感染症」に変更
- 5.10. 1 枳内病院移転 (肴町から西仙北へ)

VI 規程・協定書及び設置要項等資料

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日

昭和55年12月1日

平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決)

平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決)

平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 第1条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に置く。
(1) 盛岡市医師会
(2) 盛岡薬剤師会
(3) 岩手県看護協会
(4) 盛岡市
- 第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。
(1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
(2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
(3) 診療所の事務改善に関すること。
(4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 第4条 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
(1) 盛岡市医師会 7人
(2) 盛岡薬剤師会 2人
(3) 岩手県看護協会 1人
(4) 盛岡市 2人
- 第5条 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
協議会に会長及び副会長1人を置く。
(1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
(2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
(3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 第6条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。
- 第7条 2 協議会の事務を処理させるため協議会に事務局長及び事務局職員を置く。
事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱する。
- 第8条 この会則に定あるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定ある。
附 則
この規約は、昭和52年4月19日から施行する。
附 則
この規約は、昭和55年12月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成9年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成20年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成22年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成24年6月1日から施行する。
2 第4条の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する委員の任期については、従前のおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石川育成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判的的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では増があかず、体制確立と平行しての行政接衝を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものである。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 1988」より

① 岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県（以下「甲」という。）と社団法人岩手県医師会（以下「乙」という。）は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療班の派遣）

第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護所等に派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（医療班に対する指揮）

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定するものを行う。

（医療班の業務）

第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。

2 医療班の業務は次の通りとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給するものとする。

（収容医療機関の指定）

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
- (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
- (3) 医療班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
- (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩手県
代表者 岩手県知事 増田寛也

乙 盛岡市菜園二丁目8番20号
社団法人 岩手県医師会
会長 石川育成

② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、平成元年4月20日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第1条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必要な事項を定める。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、医療救護活動を実施する必要がある場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（指揮命令）

第4条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものとする。

（医療救護班の業務）

第5条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。

2 医療救護班の業務は次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、原則として岩手県が供給するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が甲に請求するものとする。

(1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費

(2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費

(3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金

(4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。

(費用弁償等の請求、報告)

第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協 議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間（以下「協定機関」という。）は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号

甲 社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

岩手県盛岡市愛宕町18番6号

乙 社団法人 盛岡市医師会

会 長 小 林 高

③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画（以下「防災計画」という。）に基づき、甲が乙の協力を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護婦等で編成する医療救護班（以下「医療救護班」という。）の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に派遣するものとする。

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

（医療救護班の業務）

第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 助産
- (4) 死亡の確認

（医療救護班の輸送）

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所の設置）

第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。

2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

（使用医薬品等）

第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品（以下「医療品等」という。）は、原則として甲が備える医薬品等とする。

2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所における給食等）

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

（医療費）

第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。

2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。

- (1) 医療救護班を派遣したときの人件費災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定に基づく実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定まる額
- (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
- (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用実費の額
- (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したものの甲、乙協議して定まる額
(扶助費)

第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。

(医事紛争の措置)

第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。

2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当な措置を講ずるものとする。

(報告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定あるところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費（以下「費用等」という。）を請求するときは、甲の定めるところにより行うものとする。

(支払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると認めるときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定める。

(協定期間)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの1通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市

代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番6号

社団法人盛岡市医師会

会 長 小 林 高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設置要項

(設置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会（以下委員会という）を置く。

(所掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項
- (2) その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の常任委員を置く。

(任期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。

- (1) 委員長は会務を総括し会議の議長となる
- (2) 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会議)

第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。

- (1) 会議は委員会と常任委員会の二種とする
- (2) 委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。

第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

- (1) 拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

第 10 条 この要項は昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

この会則は、平成 2 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 7 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 8 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 9 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 12 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 20 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 22 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 24 年 6 月 26 日一部改正する。

この会則は、平成 31 年 3 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 31 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、令和 2 年 4 月 1 日一部改正する。

付 表

－ 委 員 －

岩手医科大学附属病院	院長	他 4 名
岩手県立中央病院	院長	他 1 名
盛岡赤十字病院	院長	他 1 名
盛岡市立病院	院長	他 1 名
栃内病院	院長	1 名
遠山病院	院長	1 名
盛岡つなぎ温泉病院	院長	1 名
盛岡友愛病院	院長	1 名
川久保病院	院長	1 名
独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター	院長	1 名
八角病院	院長	1 名

夜間急患診療所運営委員 4 名

盛岡市医師会理事 8 名

岩手西北医師会 会長 1 名

紫波郡医師会 会長 1 名

その 他 若干名
以上 37 名以内

Ⅶ 編集後記

2023年5月8日より新型コロナウイルス感染症対応が2類相当から5類相当に引き下げられた。二次救急病院来院患者数2023年5月までは前2年間とほぼ同数であったが、6月以降増加に転じ、特に8月の患者数は著しく増加した。これは熱中症患者の増加と5類移行後の受診行動変化として全国的傾向と同様のものであった。

さて、2023年のデータをまとめた2024年の「あゆみ」が発刊された。詳細は各報告を参照していただきたい。2023年は新型コロナ以前に比して減少のみられた患者数が増加に転じた年になった。患者数の変化は、新型コロナ感染症に対する意識の変化のみに起因するものではなく、地域の高齢化や受診意識の変化など複数の要因が関与するものと考えられる。よって、救急医療を取り巻く環境はこれからも変化し続けることが予測され、私たちもその変化に対応し続けることが要求される。入院調整班をはじめとした新型コロナ感染症対応の経験で培われたスキームは今後の盛岡地区救急医療にとっても重要な知見として受け継がれていくことを望む。

現在、本地区二次救急医療において救急搬送困難事例の増加に対応するべく、体制の見直しが行われている。救急医療がスムーズに行われるようになるため各医療機関に一層のご協力をお願いしたい。

最後に寄稿していただきました各位、貴重なデータを毎月報告している各医療機関、保健所の事務職員の皆様、盛岡市医師会事務局の皆様にご感謝申し上げます。編集後記といたします。

和田 司

盛岡地区救急医療体制のあゆみ

2024

発行日 令和6年9月9日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

印刷所 (株) 杜陵印刷